

元総社蒼海遺跡群(65)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 6 . 3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群(65)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2016.3

前橋市教育委員会



元龜社蒼海遺跡群（65）全景（南西から）



W-1号溝跡・蒼海城堀跡の埋没状況（西から）

はじめに

上越国境にそびえる谷川連峰をその源とし、赤城山系・榛名山系のはざまを抜けて南流する利根川が、関東平野へ向かって開けるところに、ふるさと前橋市は存在します。市域は豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内いたる所に、人々の息吹が感ぜられる歴史遺産が存在します。

稲作文化は利根川水系の多くの河川を遡上するようにここ前橋にも伝播し、その生産基盤の安定が、東国の中心としての「毛の国」を誕生させることとなり、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれました。律令時代に入ってからも上野国の中心地として、総社・元総社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた肥橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは「前橋シルク」の名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告する元総社蒼海遺跡群（65）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果は多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出・確認はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができます。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、寒風吹きすさぶ中、発掘調査にあたった発掘調査担当者・作業員のみなさんには厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成28年3月

前橋市教育委員会
教育長 佐藤博之

例　　言

1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（65）埋蔵文化財発掘報告書である。

2 発掘調査の要項は次のとおりである。

| | |
|------------|------------------------------------|
| 遺跡名 | 元総社蒼海遺跡群（65） |
| 調査場所 | 前橋市元総社町 2103-2 ほか |
| 遺跡コード | 25 A 164 |
| 発掘担当者 | 茂木孝行（技研コンサル株式会社） |
| 整理担当者 | 中村岳彦（技研コンサル株式会社） |
| 発掘調査期間 | 平成 26 年 1 月 22 日～平成 26 年 3 月 26 日 |
| 整理・報告書作成期間 | 平成 27 年 11 月 25 日～平成 28 年 3 月 25 日 |

3 本書の原稿執筆は I を藤坂和延（前橋市教育委員会）、他を中村が担当した。

4 発掘調査および整理作業参加者は次のとおりである。

大川明子 新井實 飯島冬子 飯野景三 石川承子 伊丹茂一 上沢公一 様原義久 遠藤好則
岡眞 小笠原文子 梶間博雄 加藤知恵子 鶴田栄作 川野京子 今野妙子 斎藤政次 佐藤文江
設楽和男 篠崎政子 杉田友香 鈴木洋一 濱訪尤子 高橋洋子 竹澤賢司 田代京子 田代光男
田部井美紗子 土屋和美 都丸芳泰 永井憲一 中野光雄 長野利章 羽鳥智 福島様子 松村春樹
丸山文江 宮崎徳夫 矢内朝夫 吉浦英和 吉井正宏

5 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

6 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

永井智教 吉田智哉 山下工業株式会社

凡　　例

1 推図中に使用した北は座標北である。

2 推図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3 遺構名称は、堅穴住居跡：H、堅穴状遺構：T、溝跡：W、井戸：I、土坑：D、ピット：Pである。

4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構 堅穴住居跡・堅穴状遺構・井戸・土坑・ピット・その他・・・1/60 全体図・・・1/300

遺物 土器・石製品・・・1/3、1/4、1/6 鉄製品・古銭・・・1/2 玉類・・・1/1

5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

6 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構 燃土範囲：■ 灰範囲：■ 遺物 須恵器（還元焰）：■ 施釉：■

7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間 B 軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：6世紀中葉）、

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：6世紀初頭）、As-C（浅間 C 軽石：3世紀後葉～4世紀前半）

目 次

巻頭図版 1

はじめに

例言・凡例

| | | |
|-----|------------|----|
| I | 調査に至る経緯 | 1 |
| II | 遺跡の位置と環境 | 2 |
| III | 調査の方針と経過 | |
| 1 | 調査範囲と基本方針 | 7 |
| 2 | 調査経過 | 7 |
| IV | 基本層序 | 7 |
| V | 遺構と遺物 | |
| (1) | 堅穴住居跡 | 9 |
| (2) | 堅穴状遺構 | 14 |
| (3) | 溝跡 | 14 |
| (4) | 井戸、土坑、ビット | 16 |
| VI | 発掘調査の成果と課題 | 48 |

挿図目次

| | | | | | |
|--------|--------------------------|----|--------|--|----|
| Fig. 1 | 遺跡の位置 | 1 | Fig.19 | W - 1号溝跡① | 30 |
| Fig. 2 | 周辺遺跡図 | 3 | Fig.20 | W - 1号溝跡②、W - 2・3号溝跡 | 31 |
| Fig. 3 | 元郷社舊海遺跡群位置図とグリッド設定図 | 6 | Fig.21 | W - 4～9号遺跡 | 32 |
| Fig. 4 | 基本層序 | 7 | Fig.22 | I - 1～5号井戸、D - 1～3号土坑 | 33 |
| Fig. 5 | 全体図 | 8 | Fig.23 | D - 4～22号土坑 | 34 |
| Fig. 6 | H - 1～4号住居跡 | 17 | Fig.24 | D - 23～35号土坑 | 35 |
| Fig. 7 | H - 3～4・6号住居跡カマド | 18 | Fig.25 | D - 36～52号土坑 | 36 |
| Fig. 8 | H - 6～9号住居跡 | 19 | Fig.26 | D - 53・54号土坑、P - 1～25号ビット | 37 |
| Fig. 9 | H - 7・8・11・12号住居跡カマド | 20 | Fig.27 | H - 3・4・6・7・8号住居跡出土遺物 | 38 |
| Fig.10 | H - 10～11号住居跡 | 21 | Fig.28 | H - 8～16号住居跡出土遺物 | 39 |
| Fig.11 | H - 12・13号住居跡、14号住居跡カマド | 22 | Fig.29 | H - 16～20号住居跡出土遺物 | 40 |
| Fig.12 | H - 14～17号住居跡 | 23 | Fig.30 | H - 21～25号住居跡、T - 4号堅穴状遺構、W - 1号溝跡出土遺物 | 41 |
| Fig.13 | H - 16～18号住居跡カマド | 24 | Fig.31 | W - 1・3・9号溝跡、I - 1～3号井戸、D - 13・23号土坑、遺構外出土遺物 | 42 |
| Fig.14 | H - 18・19・22号住居跡 | 25 | Fig.32 | 遺構外出土遺物 | 43 |
| Fig.15 | H - 20号住居跡 | 26 | Fig.33 | 舊海(65)周辺の舊海域に開わる廻路 | 48 |
| Fig.16 | H - 21・23・25号住居跡 | 27 | Fig.34 | 舊海(65)周辺における古墳～平安時代の主要遺構分布 | 50 |
| Fig.17 | H - 21・24・25号住居跡カマド | 28 | | | |
| Fig.18 | H - 26号住居跡、T - 1～4号堅穴状遺構 | 29 | | | |

表目次

| | | |
|-------|--------------|-------|
| Tab.1 | 周辺遺跡一覧 | 4 |
| Tab.2 | 井戸・土坑・ビット計測表 | 16 |
| Tab.3 | 出土遺物観察表 | 44～47 |

写真図版目次

| | | |
|------|---|--|
| PL.1 | H - 1～4全景（西から） H - 2・W - 10全景（西から） H - 3全景（西から） H - 4全景（南西から） H - 4カマド全景（南西から） H - 5全景（南西から） H - 6全景（南から） H - 6カマド全景（南から） | |
| PL.2 | H - 6遺物出土状況（南から） H - 7全景（西から） H - 7カマド全景（西から） H - 7 - 1遺物出土状況（北から） H - 8全景（南から） H - 8カマド全景（南から） H - 9全景（北東から） H - 11全景（西から） | |

- PL.3 H-11カマド全景（西から） H-11貯蔵穴全景（西から） H-12全景（西から） H-12カマド全景（西から） H-13全景（南から）
H-15全景（西から） H-15カマド全景（西から） H-16全景（東から）
- PL.4 H-16カマド全景（東から） H-16貯蔵穴全景（東から） H-16-2 遺物出土状況（北から） H-17全景（東から） H-18全景（南西から） H-18カマド全景（南西から） H-19全景（南西から） H-20全景（西から）
- PL.5 H-20カマド全景（西から） H-23遺物出土状況（北西から） H-24全景（南から） H-24カマド遺物出土状況（南から） H-25全景（南西から） H-25カマド全景（南西から） H-26全景（東から） W-3全景（西から）
- PL.6 W-5全景（西から） I-1SPA土層断面（西から） I-1全景（西から） I-2SPA土層断面（西から） I-3SPA土層断面（西から） I-3全景（西から） D-13遺物出土状況（南から） 作業風景

参考文献

- 秋本太郎 2005「上野と周辺地域との関係－在地土器の分布論から探る－」『海なき国々とモノヒトの動き』内藤道跡研究会
- 秋本太郎 2008「続岡城館の遺物」「3軒連携シンポジウム 後北条氏の城・合戦と支配－」博物館周辺文化財の複合的活用事業実行委員会
- 阿久津智和 2016「[上野]国衙を探して－前橋市元経社町における発掘調査収集を中心として－」『合同道跡報告会資料集 発掘された古代の役所－最新の発掘調査からみた上野・北武藏の律令社会－』伊勢崎市教育委員会
- 飯森康広 2011「中世越後守にに関する資料」「群馬歴史散歩 特集：群馬のお城」第219号 群馬歴史散歩の会事務局
- 木津博明 1992「第2節 出土遺物について 第1項 文化財とその出土遺物」「[上野]国分寺跡・尼寺中間地城（8）」群馬県周辺文化財調査事業団
- 群馬県周辺文化財調査事業団 1997「最近情報展【出土した古代の土器】展示レポート」
- 群馬県周辺文化財調査事業団 1998「最新情報展【古墳時代の土器】展示レポート2」
- 坂口一 1986「古墳時代後期の土器の編年－三ツ矢道跡を中心とした土器器と須恵器の平行関係－」「群馬文化」208 群馬県地域文化研究協議会
- 坂口一・三浦京子 1986「真・平安朝の土器の編年－住居の重複と共伴埋葬による土器型式組列の検討－」「群馬県史研究」24群馬県史編さん委員会
- 坂岡正信 1991「7世紀代以降の土器器群の構造とその要因について－群馬県地域を中心として－」「群馬考古学手帳」Vol.2 群馬土器研究会
- 坂岡正信 2003「武世型變について－上野地域の生産と流通－」「高崎市史研究」17 高崎市史編さん専門委員会
- 鈴木徹雄 1983「古代北武藏における土器製作手法の画譜」「土曜考古」第7号 土曜考古学研究会
- 鈴木徹雄 1984「いかゆる北武藏系土器器群の動態－古代武藏において土器制作と交易－」「土曜考古」第9号 土曜考古学研究会
- 田中広明 1996「古墳時代後期の土器器生産と集落への供給－有段口縁杯の展開と在地社会の動態－」「埼玉県考古学論集 設立10周年記念論文集」埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 當田和夫 1992「K 調査のまとめ 1. 遺物について」「相前街道（A区）」「埼玉県周辺文化財調査事業団
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001「元経社宅地遺跡・上野因分寺跡調査Ⅱ」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008「元経社蒼海道跡群（14）元経社蒼海道跡群（19）」
- 前橋市教育委員会 2009「元経社蒼海道跡群（21）」
- 前橋市教育委員会 2009b「元経社蒼海道跡群（23）」
- 前橋市教育委員会 2010「元経社蒼海道跡群（29）」
- 前橋市教育委員会 2010b「元経社蒼海道跡群（31）」
- 前橋市教育委員会 2011「元経社蒼海道跡群（36）」
- 前橋市教育委員会 2013a「元経社蒼海道跡群（44）元経社蒼海道跡群（45）」
- 前橋市教育委員会 2013b「推定上野因府 平成23年度調査報告」
- 前橋市教育委員会 2013c「推定上野因府 平成24年度調査報告」
- 前橋市教育委員会 2014a「元経社蒼海道跡群（51）、（52）、（53）、（54）、（55）、（66）、（67）、（68）」
- 前橋市教育委員会 2014b「元経社蒼海道跡群（57）元経社蒼海道跡群（58）元経社蒼海道跡群（59）」
- 前橋市教育委員会 2015「元経社蒼海道跡群（85）、（88）、（89）、（90）、（96）、（97）、（98）」
- 前橋市教育委員会 2015b「元経社蒼海道跡群（91）、（95）、（102）、（90）、（96）、（97）、（98）」
- 前橋市教育委員会 2015c「推定上野因府 平成25年度調査報告」
- 水口由紀子 1989「いかゆる“北企型坏”的再検討」「東京考古」7 東京考古談話会
- 山崎一 1978「群馬県古墳の研究」上巻 群馬県文化事業振興会

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴って実施され、その14年目にあたる。本調査地は、周辺において埋蔵文化財発掘調査が長年に亘って実施されており、遺跡地であることが周知されている。

平成25年12月19日付で前橋市長 山本 龍（区画整理第二課）より埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、市教委の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することとなり、平成26年1月14日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され、同年1月22日に発掘調査が開始された。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（65）」（遺跡コード：25A164）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、「（65）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

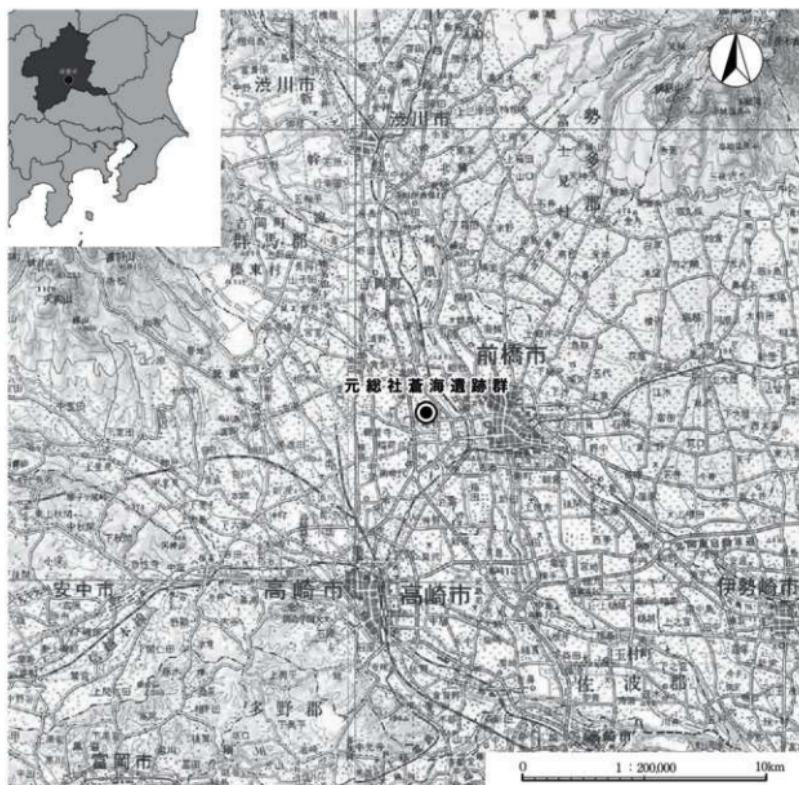


Fig.1 遺跡の位置

II 遺跡の位置と環境

遺跡の位置 (Fig. 1) 本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社地内に所在し、西には関越自動車道、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線、東には市道大友・石倉線が走る。本調査地は、榛名山山麓の相馬ヶ原扇状地扇端部と前橋台地との移行地帯にあたると考えられる。相馬ヶ原扇状地の伏流水を水源とする染谷川や牛池川は、ちょうど本調査地の近辺で流れを南に大きく変える。その作用は、調査地周辺の地質にも大きく影響しており、縄文時代前期～後期にかけて堆積したと考えられている、総社砂層の形成過程にも大きく影響しているものと推測される。また、これらの河川の開拓作用によって、遺跡地周辺には細長い微高地と低地が多く形成されており、その比高差は3～5mを測る。周辺は本来、主として畠地として利用されていたが、前橋市中心部から続く市街地の西端に接しており、宅地や商業施設も林立している。また、本遺跡の調査原因でもある土地区画整理事業も進みつつあり、本来の景観を望むことは難しくなりつつある。

歴史的環境 (Fig. 2, Tab. 1) 縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地に上野産業道路東〔15〕・上野産業道路西〔16〕、総社閑泉明神北Ⅲ遺跡〔61〕、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕・元総社小見Ⅲ遺跡〔59〕・元総社蒼海遺跡群〔24〕などが挙げられ、堅穴住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡〔18〕・〔19〕、上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕、正觀寺遺跡〔21〕などがあるが分布は散漫である。日高遺跡では浅間C軽石下の水田跡が確認されている。

古墳時代になると本遺跡周辺は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。総社古墳群には、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳〔7〕・二子山古墳〔12〕・愛宕山古墳〔10〕・宝塔山古墳〔13〕・蛇穴山古墳〔8〕などの首長墓が築造された。該期の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開するが、後期の集落が多い。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府・国分寺〔2〕・国分尼寺〔3〕・山王庵寺〔4〕の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。上野国府は本遺跡付近に推定される。元総社小学校校庭遺跡では大規模な掘立柱建物跡が検出され、元総社寺田遺跡では「國厨」・「曹司」・「國」・「邑厨」などの墨書き器や人形が出土している。また元総社明神遺跡〔24〕・閑泉橋遺跡〔25〕・元総社蒼海遺跡群〔7・9・10〕では区画溝が確認され、国府城の東北外郭線が想定された。国分僧寺では、築垣と、区画溝や道路状構造などが確認されている。関連遺跡として鳥羽遺跡〔20〕で神社構造や工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。山王庵寺は、「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されており、回廊や基壇建物などが確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鶴尾、根巻石などの石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。また本遺跡の南約1.5kmには東山道（国府ルート）が、日高遺跡〔19〕では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。該期の集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群〔41〕では鍛冶工房が検出され、金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。対照的に、集落の分布は多いものの本遺跡周辺での生産遺跡の分布は希薄なものとなっている。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海域の堀跡や、南宋～元時代の青白磁梅瓶が出土している。また本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。天正年間以降は源氏・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、秋元氏が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。また、当該期の周辺遺跡では大渡道場遺跡〔71〕の貨幣埋納遺構から572枚に及ぶ銭貨が燃紐を通した「櫛」の状態で六櫛出土した。

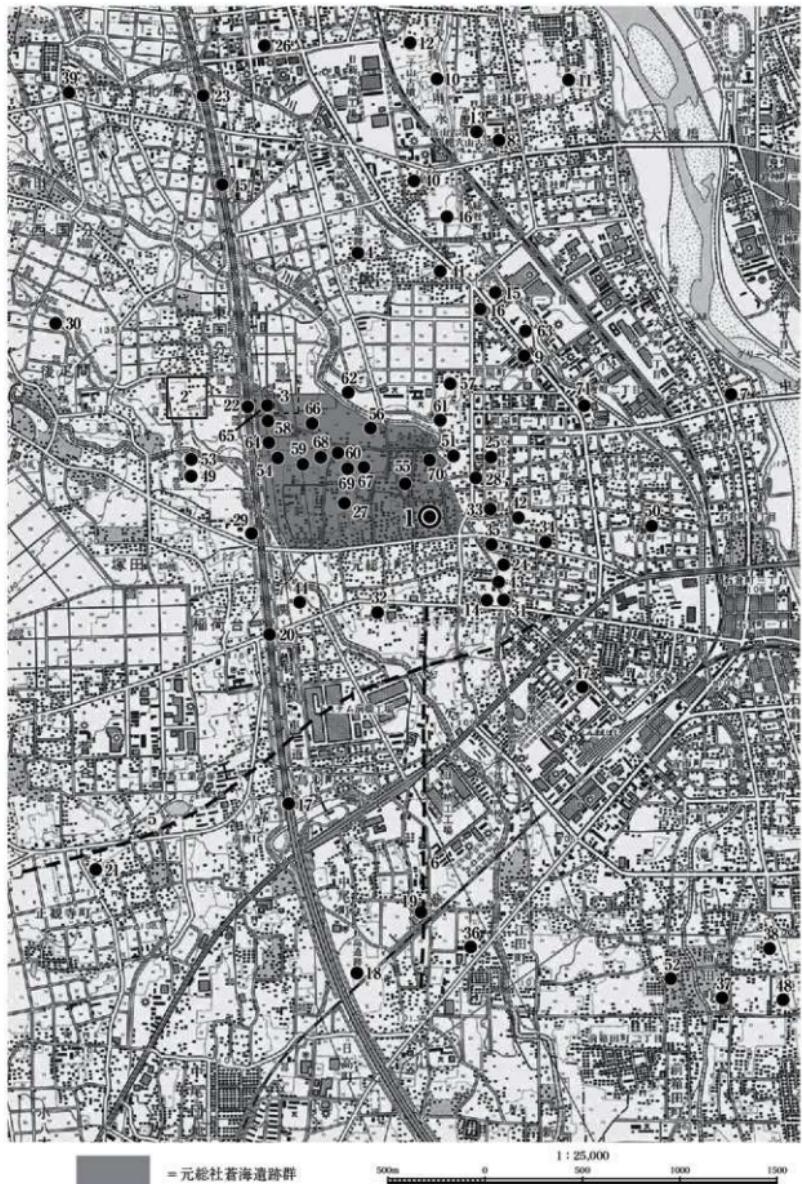


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 調査年度 | 時代・主な遺物・出土箇所 |
|----|----------------------|------------|---|
| 1 | 元和村若瀬遺跡 (65) | 2014 | 平安・木造部 |
| 2 | 上野四守塁 (延喜省) | 1880-88 | 奈良・北造長壁・馬糞堆 |
| 3 | 上野守塁跡 | (1990) | 奈良・西南隅・敷石基壇 |
| 4 | 山下城跡 | (1974) | 奈良・堀内・敷石・築石垣・土塁・石垣 |
| 5 | 東山城 (研究) | - | - |
| 6 | 廿高城 (研究) | - | - |
| 7 | 王の古墳 | 1972 | 古墳・前方後円墳 (6.c 中) |
| 8 | 蛇穴古墳 | 1975 | 古墳・方墳 (7.c 東) |
| 9 | 福留山古墳 | 1988 | 古墳・円墳 (6.c 東手) |
| 10 | 愛宕山古墳 | 1990 | 古墳・円墳 (7.c 前手) |
| 11 | 瀧見山古墳 | 未調査 | 古墳・前方後円墳 (5.c 桃李) |
| 12 | 越木王子古墳 | 未調査 | 古墳・前方後円墳 (6.c 東) |
| 13 | 室堂山古墳 | 未調査 | 古墳・方墳 (7.c 前手) |
| 14 | 元和村小字校村遺跡 | 1962 | 平安・鐵瓦・建物物語・柱穴群・用漆漆 |
| 15 | 南堀追跡古墳群 | 1960 | 绳文・住居跡 |
| 16 | 東堀追跡古墳群 | - | 绳文・住居跡 |
| 17 | 中尾遺跡 (事業地) | 1970 | 奈良・平安・住居跡 |
| 18 | 自然遺跡 (事業地) | 1977 | 奈良・古墳・石器遺跡・石器遺物・本貫集目・平安・多至解石田耕跡 |
| 19 | 日高遺跡 (駿馬町) | (1976) | 奈良・古墳 |
| 20 | 鳥羽遺跡 (南高町) | 1950-83 | 古墳・自然地盤・砂礫層・奈良・平安・住居跡・鐵立柱建物跡・神社跡 |
| 21 | 玉城今瀬遺跡 1-部 (高畠市) | 1979-81 | 奈良・住居跡・配石遺跡・生糸・住居跡・石器遺跡・古墳・住居跡 |
| 22 | 上野分界寺跡 1-近山中筒地 (事業地) | 1980-83 | 绳文・住居跡・配石遺跡・生糸・住居跡・石器遺跡・古墳・住居跡 |
| 23 | 北原遺跡 (柳原町) | 1962 | 绳文・土器・樂石・樂器・古墳・木棺群・沿古・平安・住居跡・鐵立柱建物跡 |
| 24 | 元和村明神跡 1-美里 | 1962-96 | 古墳・自然地盤・石器・樂器・奈良・平安・住居跡・道路・中世・近世・漢朝 |
| 25 | 西山城跡 | 1963 | 奈良・古墳・道路 |
| 26 | 船木大塚跡 -主遺跡 | 1965, 1989 | 奈良・平安・住居跡・道路 |
| 27 | 豊作跡 | 1964 | 古墳・自然地盤・平安・住居跡・中世・井戸跡 |
| 28 | 鶴川林邑遺跡 | 1965 | 古墳・住居跡・奈良・平安・道路 |
| 29 | 高田村東山遺跡 (南高町) | 1965 | 平安・住居跡 |
| 30 | 後河原遺跡 1-部 (齊高町) | 1965-87 | 古墳・自然地盤・奈良・平安・住居跡・中世・道路状遺跡 |
| 31 | 今田遺跡 | 1966 | 平安・住居跡 |
| 32 | 天神遺跡 -主遺跡 | 1966-88 | 奈良・平安・住居跡 |
| 33 | 船山遺跡 -主遺跡 | 1966-95 | 古墳・自然地盤・平安・住居跡・中世・鐵立柱建物跡・石器遺跡 |
| 34 | 坂越遺跡 | 1967 | 奈良・平安・住居跡・道路 |
| 35 | 天ノ原屋敷 2・並葉跡 | 1967 | 古墳・住居跡・平安・住居跡・道路・地下式土坑 |
| 36 | 櫛足跡 | 1967 | 平安・木造跡 |
| 37 | 村崎遺跡 | 1967 | 平安・鐵立柱建物跡・木造跡 |
| 38 | 五反田遺跡 | 1967 | 平安・古墳跡 |
| 39 | 野野谷遺跡 | 1968 | 绳文・住居跡・平安・住居跡・道路 |
| 40 | 村東遺跡 | 1968 | 古墳・自然地盤・道路・奈良・平安・住居跡・中世・古墳 |
| 41 | 豊作小字遺跡 5-通路 | 1969 | 奈良・平安・住居跡 |
| 42 | 草薙丘遺跡 | 1969 | 平安・住居跡 |
| 43 | 元和村今瀬遺跡 1-部 (事業地) | 1969-90 | 古墳・木造跡・鐵神・奈良・平安・住居跡・中世・井戸跡 |
| 44 | 無野谷 1-主遺跡 | 1969 | 平安・住居跡 |
| 45 | 分界寺遺跡 1-近山中筒地 (事業地) | 1969-80 | 古墳・自然地盤・平安・住居跡・鐵立柱建物跡・中世・土坑・古墳 |
| 46 | 大和郡道遺跡 1-近山 | 1969-2000 | 古墳・自然地盤・奈良・平安・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・土坑・古墳 |
| 47 | 元和村桂遺跡 | 1969 | 绳文・土器・樂石・樂器・奈良・平安・住居跡・中世・古墳 |
| 48 | 五反田主遺跡 | 1969 | 平安・木造跡 |
| 49 | 上野以分 2-主遺跡 | 1969 | 古墳・住居跡・平安・住居跡 |
| 50 | 大和丸山古墳群 | 1969 | 平安・古墳 |
| 51 | 前村御前神社北側跡 | 1969 | 古墳・品目・木棺群・道路 |
| 52 | 前村田西山跡 | 1969 | 古墳・自然地盤・平安・古墳 |
| 53 | 元和村西山遺跡 (事業地) | 2000 | 古墳・自然地盤・奈良・平安・住居跡・道路 |
| 54 | 元和村小字遺跡 | 2000 | 绳文・住居跡・古墳・自然地盤・奈良・平安・住居跡・中世・鐵立柱建物跡・地下式土坑・古墳 |
| 55 | 元和村鬼塚遺跡 -227ショット | 2000 | 古墳・自然地盤・奈良・住居跡・鐵立柱建物跡・馬糞堆・墓葬・追迹跡・中世・道路・中世・住居跡 |
| 56 | 元和村小字鬼塚遺跡 | 2001 | 古墳・住居跡・道路・奈良・平安・住居跡・鐵立柱建物跡・木造跡 |
| 57 | 越前甲賀御前山大内西山跡 | 2001 | 奈良・平安・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・古墳 |
| 58 | 越前甲賀御前山大内西山跡 | 2001 | 古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・道路・中世・古墳 |
| 59 | 御前御前山御前山主遺跡 | 2001 | 古墳・住居跡・鐵立柱・鐵神・平安・住居跡・道路 |
| 60 | 元和村小字鬼塚遺跡 | 2002 | 古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・道路 |
| 61 | 元和村小字鬼塚遺跡 | 2002 | 奈良・平安・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・道路 |
| 62 | 越前甲賀御前山大内西山跡 | 2002 | 古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・道路 |
| 63 | 越前御前山御前山主遺跡 | 2002 | 古墳・住居跡・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡 |
| 64 | 元和村大内西山跡 | 2002-04 | 古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・鐵立柱建物跡・木造跡・火葬場 |
| 65 | 橋南遺跡 (事業地) | 2003 | 古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・道路・鐵立柱建物跡・木造跡 |
| 66 | 元和村小字百石遺跡 | 2003 | 古墳・住居跡・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・鐵立柱建物跡 |
| 67 | 元和村小字百石遺跡 | 2003 | 古墳・住居跡・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・鐵立柱建物跡 |
| 68 | 越前甲賀御前山大内西山跡 | 2003 | 古墳・住居跡・中世・古墳 |
| 69 | 元和村小字百石遺跡 | 2003 | 奈良・平安・住居跡・中世・古墳 |
| 70 | 元和村小字百石遺跡 | 2004 | 奈良・平安・住居跡・中世・古墳 |
| 71 | 元和村小字百石遺跡 | 2004 | 奈良・平安・住居跡・中世・古墳 |

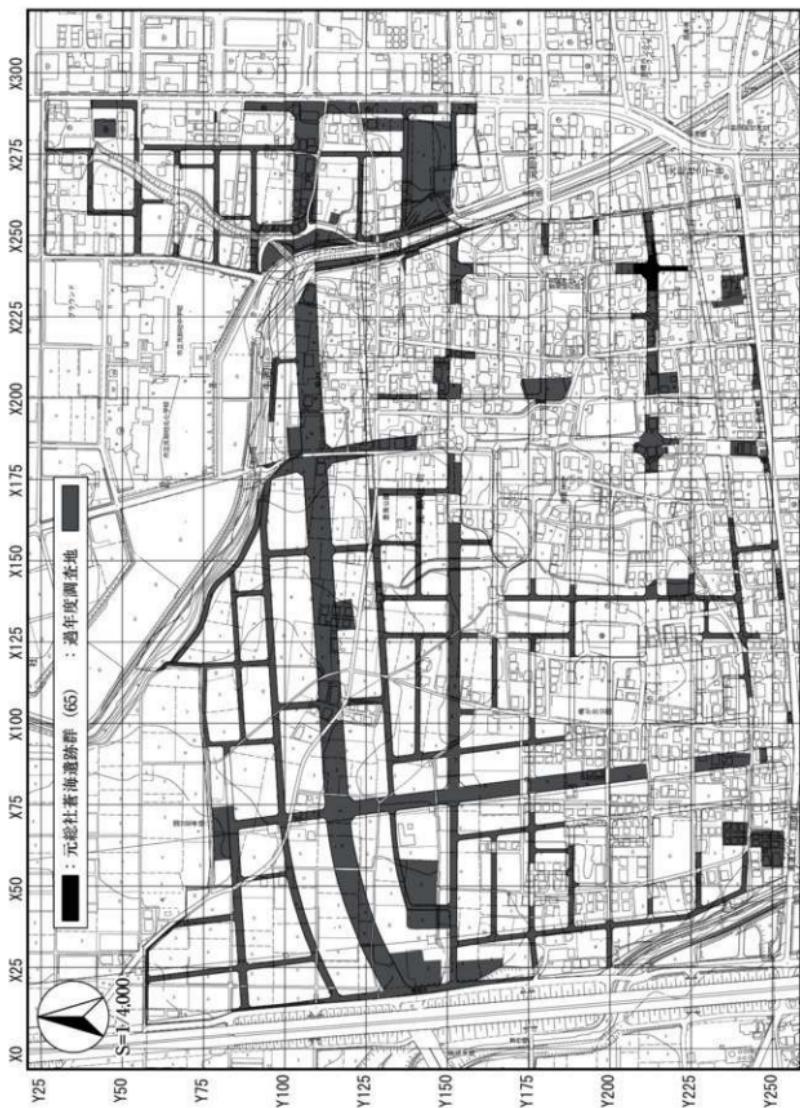


Fig. 3 元總社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

III 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地であり、調査面積は910 m²である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第IX系）X = 44000.000, Y = - 72200.000を基点とする4mピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。各調査区の公共座標は次のとおりである。

| 測点 | 日本測地系（第IX系） | 世界測地系（第IX系） |
|-------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| (65) X 233, Y 209 | X = 43164.000 m, Y = - 71268.000 m | X = 43518.911 m, Y = - 71559.766 m |

発掘調査は造構確認面まで重機（0.25 m³級バックホウ）にて表土掘削を行ない、造構確認、造構掘り下げ、土層断面図化・写真、遺物出土状況図化・写真、完掘状況図化・写真の手順で実施した。造構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や造構に伴うと判断したものは出土位置を記録しながら取り上げた。

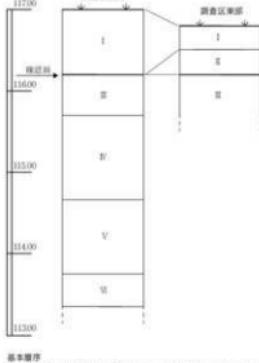
造構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行ない、断面図については一部オルソフォトに変換して編集を行なった。記録写真は35mm判モノクロ・リバーサルフィルム、デジタルカメラの3種類を用いて撮影し、調査区全景撮影についてはラジコンヘリコプターでの空中写真撮影を実施した。

2 調査経過

発掘調査は、表土掘削を平成26年1月30日から2月13日まで実施した。表土掘削以降、順次調査を進め、3月17日に全景撮影を実施した。その後、3月26日までに埋め戻しおよび撤収作業を完了し、現地での発掘調査を終了した。整理作業は、平成27年11月25日から平成28年3月25日まで実施した。11月26日に、調査記録・出土遺物の搬入を行い、11月27日から本格的に出土遺物・図面・写真等の整理作業および報告書作成を実施した。

IV 基本層序

現況の地表面は、建造物の移転等に伴い削平されていた。削平は近年の出来事のようだ、表土は発達しておらず、整地層である薄い碎石層直下のI層は、蒼海城に伴う造成土層と考えられる。近隣住民の話では50年前までは現況よりも2m程度高かったが、調査区西端に残存していた、南北に延びるW-1塁跡を埋めるたびに削平したことである。層中で微量に観察できるAs-Cは堀の開削時に存在していたであろうAs-C混土層に起因するもと考えられる。II層も蒼海城に伴う造成土層と考えられ、造成以前の旧地形の窪みを埋めるためのものと思われる。層中には総社砂層ブロックが微量だが確認できることから、この造成土層は、堀の掘削土に由来すると推測される。III層は総社砂層。漸移層は存在せず上層との層界は明確に分断されており、本来のIII層上部は失われていると考えられる。この層の上面を造構確認面とした。また、土層記号でHr-FPとしたものは、角閃石安山岩の小塊であり、テフラの降下範囲を鑑みると、Hr-FAのユニットに由来する可能性がある。



基準標高
1 堆積層 (10734.4) 粒子やや細い、粘性弱い、サクサクした
特質のある未成土。山崎の菅原子・栗丸土主作10号アラ基。
近代層：As-C・ローム層・礫層・小礫層。
2 総社砂層 (10734.4) 粒子やや粗い、粒子やや細い、
しまり、粘性やや弱い、珪砂・ローム・ブロック少量、炭化物
粒子・地山砂質ブロック少量。
3 渐移層 (10734.0) 粒子やや粗い、しまりあり、粘性弱い、灰白
色の帶状層。シート層。
4 地山砂層 (10733.0) 粒子やや細い、しまり、粘性あり、炭入層
5 地山砂層 (10732.0) 粒子やや粗い、しまり、粘性あり、炭入層
6 地山砂層 (10731.0) 粒子非常に細かく、しまり、粘性弱い。

Fig. 4 基本層序

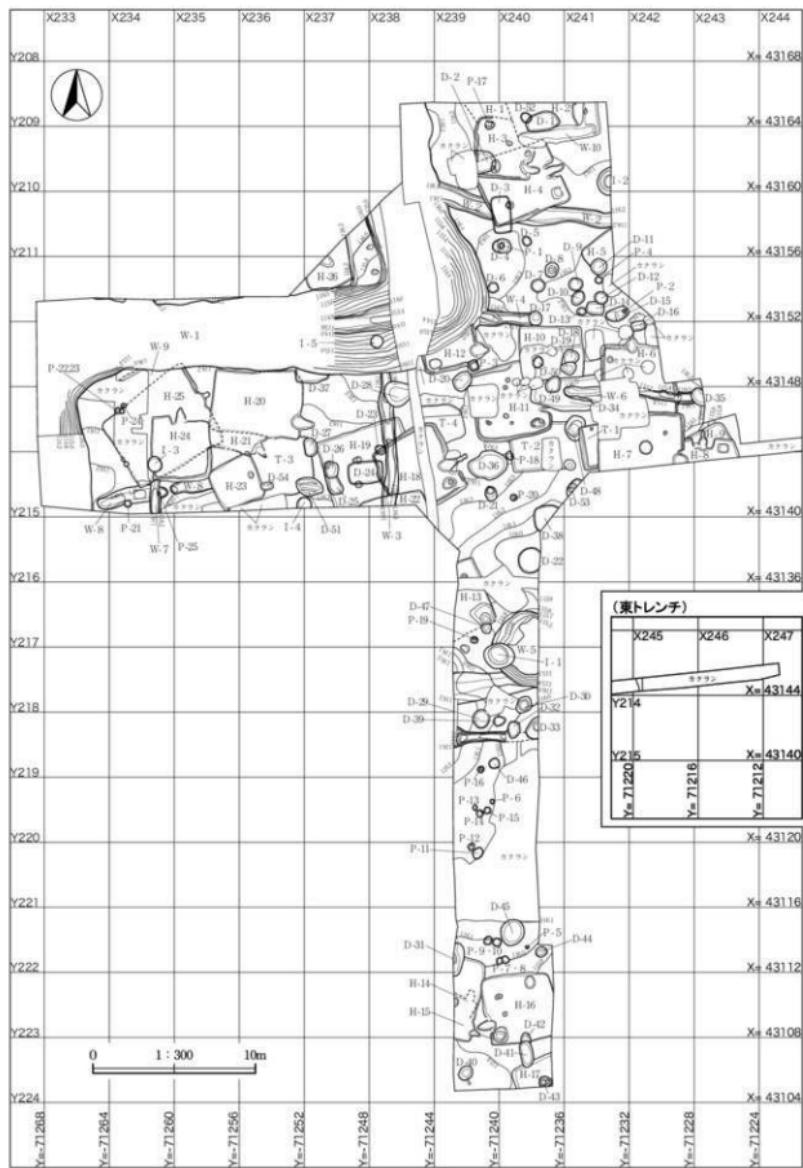


Fig. 5 全体図

V 遺構と遺物

(1) 積穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 6, PL. 1)

位置 X 239・240, Y 208・209 主軸方向 (N - 54° - E) 規模 東西軸 (2.18) m、南北軸 (1.50) m、壁現高 0.08 m。調査区北端において住居跡西端のみ調査できた。面積 (2.34) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-2・3と重複し、新旧関係は本遺構→H-3→H-2である。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 覆土中から土師器壺が2片出土したが、細片のため図示しなかった。時期 H-3との重複関係から6世紀後半以前と考える。

H-2号住居跡 (Fig. 6, PL. 1)

位置 X 240・241, Y 208・209 主軸方向 E - 20° - N 規模 東西軸 (4.08) m、南北軸 (2.81) m、壁現高 0.12 m。調査区北端において住居跡の南半を調査した。面積 (6.71) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-1・2・3、D-1・52と重複し、新旧関係はH-1→H-4→H-3→本遺構である。土坑との新旧関係は不明。カマド 東壁に構築される。大半は調査区外であり規模や形状は不明。袖は残存していない。燃焼室の手前から石が2石出土しており、廃棄された構築材の可能性がある。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 覆土中から模倣壺や土師器壺、内黒土器などが出土したが、細片のため図示しなかった。時期 H-3・4との重複関係から7世紀以降と考える。

H-3号住居跡 (Fig. 6・7・27, PL. 1・7)

位置 X 239・240, Y 208・209 主軸方向 E - 3° - S 規模 東西軸 (4.22) m、南北軸 (3.74) m、壁現高 0.18 m。面積 (10.73) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-1・2・4、D-2、P-17と重複し、新旧関係はH-1→H-4→本遺構→H-2・D-2である。ピットとの新旧関係は不明。カマド 東壁に構築される。全長 1.22 m、燃焼室幅 0.53 m。袖は残存していない。煙道は壁外に 0.51 m 突出している。燃焼室は浅く窪み、燃焼室と煙道の境は石を構築材としている。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 カマド燃焼室の南側から出土した3と4の土師器長胴壺は破片だが、最大径は胴部上半に復元できる。1・2・5は覆土中から出土した。1の土師器壺は沈線で有段口縁を表現している。時期 H-4との重複関係と1~4の出土遺物から、6世紀後半と考える。

H-4号住居跡 (Fig. 6・7・27, PL. 1・7)

位置 X 239 ~ 241, Y 209・210 主軸方向 E - 24° - N 規模 東西軸 5.37 m、南北軸 (3.75) m、壁現高 0.24 m。面積 (13.34) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-1・3、W-2と重複し、新旧関係はH-1→本遺構→H-3→H-2である。溝跡との新旧関係は不明。カマド 東壁に構築される。全長 1.22 m、燃焼室幅 0.40 m。袖は灰白色粘土と砂質土で構築される。煙道は壁外に 0.42 m 突出している。焚口部は石を構築材としている。貯蔵穴 南東隅に構築される。長軸 0.68 m、短軸 0.66 m、深さ 0.51 m。覆土にはカマドに由来すると考えられる焼土や炭化物を含む。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 カマドの北側から出土した1の土師器壺は口縁が有段化している。覆土から出土した2の土師器壺も同様である。カマド東側から出土した4や、床面に潰れた状態で遺棄された5の長胴壺は、胴部中位に最大径があり、長胴化の傾向はやや弱い。6は覆土から出土した須恵器ハソウで、断面三角状の隆帯によつて波状文を区画している。時期 H-3との重複関係と1・4・5の出土遺物から、6世紀中葉と考える。

H-5号住居跡 (Fig. 7, PL. 1)

位置 X 241, Y 211・212 主軸方向 (N - 52° - W) 規模 東西軸 (2.57) m、南北軸 (1.92) m、壁現高 0.08

m。面積 (4.08) m² 床面 比較的平坦で縫まりは弱い。重複 D-11と重複するが、新旧関係は不明。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 覆土中から円筒埴輪1片と土師器壺1片が出土したが、細片のため図示しなかった。時期 不明。

H-6号住居跡 (Fig. 7・8・27, PL. 1・2・7)

位置 X 241・242, Y 213・214 主軸方向 N-1°-W 規模 東西軸4.81m、南北軸(5.02)m、壁現高0.43m。面積 (11・47) m² 床面 比較的平坦で縫まりは弱い。重複 H-7、W-6と重複し、新旧関係は本遺構→W-6である。住居跡との新旧関係は不明。カマド 北壁に構築される。全長(1.32)m、燃焼室幅0.42m。東袖は残存していない。煙道は壁外に0.74m以上突出している。燃焼室は浅く窪み、焚口前面の床面に被熱が認められる。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 土師器高壺1片を図示したが覆土出土遺物であり、時期判断資料とはなり得ない。覆土からはほかに、灰釉陶器が1片出土しているが、細片のため図示しなかった。時期 不明。

H-7号住居跡 (Fig. 8・9・27, PL. 2・7)

位置 X 241・242, Y 214・215 主軸方向 E-1°-S 規模 東西軸5.47m、南北軸(3.71)m、壁現高0.28m。面積 (13.54) m² 床面 比較的平坦で縫まりは弱い。重複 H-6・8・9と、T-1と重複し、新旧関係はH-9→H-8・T-1→本遺構である。H-6との新旧関係は不明。カマド 東壁に構築される。全長(0.91)m、燃焼室幅(0.57)m。南半は調査区外。煙道は壁外に0.24m突出している。燃焼室は浅く窪む。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 1の土師器壺は床面直上に正位で安置された状態で出土した。時期 1の出土遺物から、6世紀後半と考える。

H-8号住居跡 (Fig. 8・9・27・28, PL. 2・7)

位置 X 242・243, Y 214・215 主軸方向 N-2°-E 規模 東西軸(3.17)m、南北軸(2.02)m、壁現高0.19m。面積 (3.98) m² 床面 比較的平坦で縫まりは弱い。重複 H-7・9と重複し、新旧関係はH-9→本遺構→H-7である。カマド 北壁に構築される。全長1.30m、燃焼室幅0.49m。煙道は壁外に0.46m突出している。焚口部は2と3の土師器長胴壺を構築材としている。燃焼室は浅く窪む。貯蔵穴 北東隅に構築される。長軸0.64m、短軸0.53m、深さ0.27m。覆土にはカマドに由来すると考えられる焼土・炭化物・灰を含む。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 カマド構築材に用いられた2と3の土師器長胴壺は、胴部の張りがやや弱い。時期 2と3の出土遺物から、6世紀後半と考えるが、H-7との重複関係から、これよりも若干古い時期と類推する。

H-9号住居跡 (Fig. 8・28, PL. 2・7)

位置 X 233, Y 214 主軸方向 N-26°-W 規模 東西軸(2.42)m、南北軸(1.45)m、壁現高0.08m。住居跡北東端のみ調査できた。面積 (1.95) m² 床面 比較的平坦で縫まりは弱い。重複 H-7・8と重複し、新旧関係は本遺構→H-8→H-7である。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 覆土中から1の大型壺が出土した。時期 不明。

H-10号住居跡 (Fig. 10・28, PL. 7)

位置 X 240・241, Y 213 主軸方向 N-2°-W 規模 東西軸4.02m、南北軸(3.31)m、壁現高0.20m。面積 (12.44) m² 床面 比較的平坦で縫まりは弱い。重複 H-11、D-18・19・34・49と重複し、新旧関係はH-11→本遺構である。土坑との新旧関係は不明。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 覆土中から出土した3の土師器壺は小径化が進んでいる。ほかに、灰釉陶器壺の細片や鉄塊などが出土している。時期 1と3の出土遺物から、

11世紀前半と考える。

H-11号住居跡 (Fig. 9・10・28, PL. 2・3・7)

位置 X 241・242, Y 213・214 主軸方向 E - 11° - N 規模 東西軸 4.69 m、南北軸 4.64 m、壁現高 0.23 m。面積 (17.73) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H - 10, T - 2, D - 20・34・49・50と重複し、新旧関係は本造構→H - 10→T - 2・D - 34である。ほかの土坑との新旧関係は不明。カマド 東壁に構築されるが、北半はD - 34によって切られている。全長 (0.64) m、燃焼室幅 (0.22) m。北袖は残存していない。燃焼室は平坦で、焚口前面の床面に被熱が認められる。貯蔵穴 南東隅に構築される。長軸 0.87 m、短軸 0.59 m、深さ 0.42 m。3の土器器小型壺がほぼ完存で出土した。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 カマドの前面から1・2の土器器壺と4の長胴甕が出土した。2は口径が大きく扁平化している。4の口縁部は有段化している。時期 カマド前面や貯蔵穴内から出土した1～4の出土遺物から、6世紀後半と考える。

H-12号住居跡 (Fig. 9・11・28, PL. 3・7)

位置 X 238・239, Y 213 主軸方向 E - 10° - N 規模 東西軸 4.15 m、南北軸 (2.11) m、壁現高 0.27 m。面積 (6.08) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 W - 1・4、P - 3と重複し、新旧関係は本造構→W - 3・4→P - 3である。カマド 東壁の南寄りに構築される。全長 0.59 m、燃焼室幅 0.36 m。袖は残存していない。煙道は壁外に 0.73 m 突出している。燃焼室は浅く窪む。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。南西隅部に床下土坑を確認した。規模は長軸 0.75 m、短軸 0.59 m、深さ 0.08 m。出土遺物 壁際から出土した3の土器器高杯は流入だろう。覆土から出土した1・2の土器器壺は口縁部が有段化しており、2は口径が大きく、扁平化している。時期 1・2の出土遺物から、6世紀後半と考える。

H-13号住居跡 (Fig. 11・28, PL. 3・7)

位置 X 239, Y 216・217 主軸方向 N - 24° - W 規模 東西軸 (3.03) m、南北軸 (4.43) m、壁現高 0.21 m。面積 (8.48) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 D - 47と重複し、新旧関係は本造構→D - 47である。カマド 確認できず。貯蔵穴 南東隅に構築される。長軸 1.54 m、短軸 1.26 m、深さ 0.49 m。上端に浅い段が付く。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 2の土器器壺はやや小径化している。3は口縁部が短くS字状に屈曲しており、いわゆる比企型壺の特徴をもつ。いずれも覆土中から出土した。時期 覆土中の出土遺物から、6世紀後半～7世紀前半と考える。

H-14号住居跡 (Fig. 11・12・28, PL. 7)

位置 X 239, Y 213 主軸方向 (E - 25° - N) 規模 東西軸 (1.65) m、南北軸 (1.58) m、壁現高 0.07 m。カマドの使用面のみ調査できた。面積 (1.56) m² 床面 確認できず。重複 H - 15と重複し、新旧関係は本造構→H - 15である。カマド 北壁の南寄りに構築される。全長 0.80 m、燃焼室幅 0.51 m。袖は残存していない。煙道は壁外に 0.63 m 突出している。燃焼室は浅く窪む。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 覆土から出土した2の土器器壺はやや扁平化している。時期 覆土中の出土遺物から、6世紀後半と考える。

H-15号住居跡 (Fig. 12・28, PL. 3・7)

位置 X 239, Y 222～224 主軸方向 N - 15° - E 規模 東西軸 (2.84) m、南北軸 5.06 m、壁現高 0.23 m。面積 (8.05) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H - 14・16, D - 31と重複し、新旧関係はH - 16→本造構→D - 31である。カマド 東壁の南寄りに構築される。全長 0.67 m、燃焼室幅 0.46 m。北袖は残存していない。燃焼室は平坦である。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 床面直上から出土した2の灰釉陶器皿の高台形状は鈍い三角形で、釉調は薄

い。美濃窯編年の虎渓山1号窯式に相当すると考える。時期2の出土遺物から、10世紀後半と考える。

H-16号住居跡 (Fig.12・13・28・29, PL. 3・4・7・8)

位置 X 239・240, Y 223・224 主軸方向 W-7°-S 規模 東西軸(4.85)m、南北軸4.30m、壁現高0.18m。面積 (17.13) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-15, D-41・42と重複し、新旧関係は本遺構→H-15・D-42→D-41である。カマド 西壁の南寄りに構築される。全長1.18m、燃焼室幅(0.56)m。煙道は壁外に0.66m突出している。燃焼室は浅く窪む。両袖の構築材には5と6の土師器長胴甕が用いられている。貯蔵穴 南西隅に構築される。長軸1.03m、短軸0.96m、深さ0.52m。上端に浅い段が付く。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。北東隅部に床下土坑を確認した。規模は長軸0.77m、短軸0.64m、深さ0.12m。出土遺物 貯蔵穴内から出土した1や、床面直上から出土した2の土師器環は、口径がやや大型化している。カマド構築材である5・6の長胴甕は、胴部に張りがない。時期床面直上やカマドなどから出土した1・2・4~6の出土遺物から、6世紀後半~7世紀前半と考える。

H-17号住居跡 (Fig.12・29, PL. 4・8)

位置 X 240, Y 224 主軸方向 N-25°-W 規模 東西軸(2.88)m、南北軸(1.94)m、壁現高0.28m。調査区南端において住居跡北西端のみ調査できた。面積 (3.90) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 D-41・43と重複し、新旧関係は本遺構→D-41・43である。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 覆土中から、1の滑石製白玉のほか、土師器环や甕の破片が出土したが、細片のため図示しなかった。時期 不明。

H-18号住居跡 (Fig.13・14・29, PL. 4・8)

位置 X 238・239, Y 214・215 主軸方向 E-30°-N 規模 東西軸5.37m、南北軸4.87m、壁現高0.31m。面積 (17.93) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-19・22, T-4と重複し、新旧関係はH-19→H-22→本遺構→T-4である。カマド 東壁に構築される。全長1.91m、燃焼室幅0.64m。燃焼室は平坦である。燃焼室の前面から1の土師器环が出土した。貯蔵穴 南東隅に構築される。長軸0.44m、短軸0.35m、深さ0.09m。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 カマドの前面から1、床面直上から2の土師器环が出土しており、どちらも身模倣環で口径は大きい。時期 1・2の出土遺物から、6世紀後半と考える。

H-19号住居跡 (Fig.14・29, PL. 4・8)

位置 X 237・238, Y 214・215 主軸方向 N-18°-W 規模 東西軸5.52m、南北軸(4.20)m、壁現高0.34m。面積 (16.16) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-18・22と重複し、新旧関係は本遺構→H-22→H-18である。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 覆土中から1・2の内斜口縁环が出土した。時期 重複関係と1・2の出土遺物から、5世紀後半~6世紀前半と考える。

H-20号住居跡 (Fig.15・29, PL. 4・5・8)

位置 X 235~237, Y 213・214 主軸方向 E-5°-S 規模 東西軸6.38m、南北軸4.30m、壁現高0.18m。面積 (22.49) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-21・25, T-3・D-37と重複し、新旧関係はH-25→H-21→本遺構→T-3・D-37である。カマド 東壁の南寄りに構築される。全長1.43m、燃焼室幅0.64m。燃焼室は平坦である。カマド内から1・2・4の須恵器环・小皿が出土した。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 カマド内や床面直上から出土した2~6の須恵器环・小皿は、いずれも酸化焰焼成で、小皿は小径化が著しい。1・2・4・5・7には、油煙や煤の付着が観察でき、灯明具としての用途が推測できる。8の羽釜は、床面直上に破損した状態で出土し、鋤部の作りは鈍い。時期 床面直上やカマドの出土遺物から、11世紀と考える。

H-21号住居跡 (Fig.16・17・30、PL. 8)

位置 X 235・236、Y 214・215 主軸方向 E - 50° - S 規模 東西軸 3.14 m、南北軸 2.71 m、壁現高 0.21 m。

面積 (3.86) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-20・23・25と重複し、新旧関係は H-23 → H-25 → H-24 → 本遺構 → H-20 である。カマド 東壁の南寄りに構築される。全長 1.04 m、燃焼室幅 0.60 m。袖は残存していない。燃焼室は平坦で、焚口前面の床面に被熱が認められる。貯蔵穴 確認できず。

柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 カマド煙道内から 1・2 の須恵器坏が出土した。いずれも二次底部面をもち、2 は酸化焰焼成である。時期 カマドから出土した 1・2 の出土遺物から、10世紀前半と考える。

H-22号住居跡 (Fig.14・30、PL. 8)

位置 X 237・238、Y 215 主軸方向 E - 13° - N 規模 東西軸 (4.15) m、南北軸 (1.97) m、壁現高 0.29 m。

面積 (2.56) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-18・19 と重複し、新旧関係は H-19 → 本遺構 → H-18 である。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 1 の土師器坏は、床面直上から正位で出土した。やや深身で、大型扁平化はしていない。時期 床面直上から出土した 1 の出土遺物と重複関係から、6世紀中葉と考える。

H-23号住居跡 (Fig.16・30、PL. 5・8)

位置 X 235・236、Y 215 主軸方向 N - 27° - W 規模 東西軸 3.05 m、南北軸 2.96 m、壁現高 0.23 m。

面積 (7.77) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-21・24、W-8、D-54 と重複し、新旧関係は W-8 → 本遺構 → H-24 → H-21・D-54 である。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。

柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 2・3 の土師器坏は、床面直上から正位で出土した。やや深身で、大型扁平化はしていない。時期 床面直上から出土した 1～3 の出土遺物と重複関係から、6世紀中葉と考える。

H-24号住居跡 (Fig.16・17・30、PL. 5・8)

位置 X 234・235、Y 214・215 主軸方向 N - 2° - E 規模 東西軸 3.82 m、南北軸 4.51 m、壁現高 0.12 m。

面積 (13.68) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-21・23・25、I-3 と重複し、新旧関係は H-23 → H-25 → 本遺構 → H-21 → I-3 である。ピットとの新旧関係は不明。カマド 東壁に構築される。全長 0.50 m、燃焼室幅 0.68 m。燃焼室はごく浅く窪む。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。

掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 床面直上から 1～3、カマド前面から 4、カマド内から 5 が出土した。1 は、陶色黒縞年のTK 217段階に並行する坏瓦蓋だろう。2 の土師器坏は小径化しており、3 はいわゆる北武藏系坏。4 の長胴甕は、口縁部に最大径をもち、張りのない肩部外面に斜位ヘラケズリを施す。器壁は薄い。時期 床面直上やカマドの出土遺物から、7世紀前半と考える。

H-25号住居跡 (Fig.16・17・30、PL. 5・8)

位置 X 233～235、Y 213～215 主軸方向 E - 31° - N 規模 東西軸 6.65 m、南北軸 5.55 m、壁現高 0.26 m。

面積 (31.62) m² 床面 比較的平坦で締まりは弱い。重複 H-20・21・24、W-7・8、I-3、P-22～24 と重複し、新旧関係は本遺構 → W-8 → H-24 → H-21 → H-20・I-3 である。ピットの新旧関係は不明。カマド 東壁に構築される。全長 1.04 m、燃焼室幅 0.60 m。袖は残存していない。燃焼室は平坦である。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 カマド内から出土した 2 の土師器坏は坏身模倣で、大径化している。時期 カマドから出土した 2 の出土遺物から、6世紀後半と考える。

H-26号住居跡 (Fig.18、PL. 5)

位置 X 236・237、Y 211・212 主軸方向 N - 10° - W 規模 東西軸 (2.82) m、南北軸 (3.06) m、壁現高 0.18

m。面積 (5.09) m² 床面 比較的平坦で縁まりは弱い。重複 W-1と重複し、新旧関係は本遺構→W-1である。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。掘り方 基本層序Ⅲ層まで掘り込まれる。出土遺物 なし。時期 不明。

(2) 壁穴状遺構

T-1号壁穴状遺構 (Fig.18)

位置 X 241、Y 214・215 主軸方向 N-7°-W 規模 東西軸 (126) m、南北軸 2.74 m、壁現高 0.30 m。形状等 方形を呈する。重複 H-7、T-2、D-48と重複し、新旧関係は本遺構→H-7である。壁穴状遺構や土坑との新旧関係は不明。出土遺物 覆土中から土師器壺や甕の破片が出土したが、細片のため図示しなかった。時期 不明。

T-2号壁穴状遺構 (Fig.18)

位置 X 240・241、Y 214・215 主軸方向 N-1°-W 規模 東西軸 4.50 m、南北軸 3.05 m、壁現高 0.12 m。形状等 長方形を呈する。重複 H-11、T-1、D-48と重複し、新旧関係はH-11→本遺構である。壁穴状遺構や土坑との新旧関係は不明。出土遺物 覆土中から土師器壺や甕の破片がわずかに出土したが、細片のため図示しなかった。時期 不明。

T-3号壁穴状遺構 (Fig.18)

位置 X 236・237、Y 214・215 主軸方向 N-8°-W 規模 東西軸 (250) m、南北軸 3.61 m、壁現高 0.13 m。形状等 四角形を呈する。重複 H-20・21・23、D-27・51・54と重複し、新旧関係はH-20・21・23→本遺構→D-51・54である。壁穴状遺構との新旧関係は不明。出土遺物 なし。時期 不明。

T-4号壁穴状遺構 (Fig.18・30、PL. 8)

位置 X 238・239、Y 2214・215 主軸方向 E-5°-N 規模 東西軸 (275) m、南北軸 (243) m、壁現高 0.13 m。形状等 不整長方形を呈する。重複 H-18と重複し、新旧関係はH-18→本遺構である。出土遺物 底面直上から1の須恵器高台壺が出土した。覆土から出土した2は類例に乏しいが、瓦器小塊の可能性がある。時期 底面直上の出土遺物から10世紀後半と考える。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.19・20・30・31、PL. 8・9)

位置 X 232～239、Y 209～215 主軸方向 E-2°-N 規模 長さ (17.44 m) 上幅 2.53 m 下幅 0.52 m 深さ 3.47 m 形状等 東西方向に走向し、東端部は北へ、西端部は南へ屈曲する。断面葉研状を呈する。重複 H-12・25・26、W-2～4、D-37と重複し、新旧関係はH-12・25・26→本遺構である。溝跡や土坑との新旧関係は不明。出土遺物 1の内耳鍋の口縁部は長いが、口唇部は外へ突き出る形態をとらず、秋元 2005 編年のC群2類に相当すると考える。2の焰烙は器高が低く、秋元 2005 編年のF群に相当すると考える。3の茶臼は上端の全周が打ち欠かれている。時期 覆土出土の1・2から、15世紀末～16世紀初頭には埋没が進行していたものと考える。備考 墓属時期や規模・形状・位置関係から、蒼海城の堀と考える。

W-2号溝跡 (Fig.20)

位置 X 239～241、Y 210・211 主軸方向 E-8°-S 規模 長さ (10.62 m) 上幅 0.97 m 下幅 0.32 m 深さ 0.27 m 形状等 東西方向に走向する。断面U字状を呈する。重複 H-4、W-1、D-3と重複するが、新旧関係は不明。出土遺物 覆土中から縄文土器片や打製石斧片、土師器片、須恵器片、灰釉陶器片など雑多な遺物が出土したが、いずれも細片であり、溝跡への流入と考える。時期 不明。

W-3号溝跡 (Fig.20・31、PL. 5・8)

位置 X 238、Y 213～215 主軸方向 N - 1° - E 規模 長さ (8.19 m) 上幅 0.94 m 下幅 0.34 m 深さ 0.21 m 形状等 南北方向に走向する。断面逆台形状を呈する。重複 H - 18・19・22、W - 1、D - 28と重複し、新旧関係は、H - 18・19・22→本遺構である。W - 1 や土坑との新旧関係は不明。出土遺物 底面直上から 1 のかわらけが出土した。。時期 重複関係から中世以降と考える。

W-4号溝跡 (Fig.21)

位置 X 239・240、Y 212・213 主軸方向 W - 1° - N 規模 長さ (3.32 m) 上幅 0.92 m 下幅 0.27 m 深さ 0.21 m 形状等 東西方向に走向する。断面U字状を呈する。重複 W - 1、D - 17 と重複するが、新旧関係は不明である。出土遺物 覆土中から土師器や須恵器の破片がわずかに出土しているが、細片であり図示しなかった。時期 不明。

W-5号溝跡 (Fig.21, PL. 6)

位置 X 239・240、Y 217・218 主軸方向 E - 5° - S 規模 長さ (2.89 m) 上幅 4.60 m 下幅 3.55 m 深さ 0.63 m 形状等 東西方向に走向する。断面緩い皿状を呈する。重複 I - 1 と重複するが、新旧関係は不明である。出土遺物 覆土中から土師器の破片がごくわずかに出土しているが、細片であり図示しなかった。時期 不明。備考 調査区の東へ向かって下る谷部の谷頭自然地形の可能性がある。

W-6号溝跡 (Fig.21)

位置 X 240～243、Y 214 主軸方向 E - 1° - S 規模 長さ (8.13 m) 上幅 0.72 m 下幅 0.41 m 深さ 0.27 m 形状等 東西方向に走向する。断面U字状を呈する。重複 H - 6、D - 34・35 と重複し、新旧関係は H - 6・D - 34→本遺構である。出土遺物 なし。時期 重複関係から 12世紀以降と考える。

W-7号溝跡 (Fig.21)

位置 X 234、Y 215 主軸方向 N - 5° - E 規模 長さ (2.04 m) 上幅 0.64 m 下幅 0.36 m 深さ 0.19 m 形状等 南北方向に走向する。断面U字状を呈する。重複 H - 24・25、W - 8、P - 25 と重複し、新旧関係は不明である。出土遺物 覆土中から土師器の破片がごくわずかに出土しているが、細片であり図示しなかった。時期 重複関係から 7世紀以降と考える。

W-8号溝跡 (Fig.21)

位置 X 233、Y 212 主軸方向 N - 12° - W 規模 長さ (7.08 m) 上幅 1.03 m 下幅 0.48 m 深さ 0.14 m 形状等 東西方向に断続的に走向する。断面浅いU字状を呈する。重複 H - 23～25、W - 7、P - 21 と重複し、新旧関係は本遺構→H - 23～25、W - 7 である。出土遺物 なし。時期 重複関係から、6世紀以前と考える。

W-9号溝跡 (Fig.21・31, PL. 9)

位置 X 234、Y 213 主軸方向 N - 50° - E 規模 長さ (3.10 m) 上幅 (1.45) m 下幅 (1.38) m 深さ 0.28 m 形状等 南西方向に走向する。断面浅い皿字状を呈する。重複 H - 25・W - 1 と重複し、新旧関係は H - 25→本遺構→W - 1 である。出土遺物 覆土中から 1 の須恵器壺と 2 の須恵器小皿が出土した。いずれも底径が小さく、酸化焰焼成である。時期 重複関係と覆土中の出土遺物から、10世紀後半と考える。

W-10号溝 (PL. 1)

位置 X 240・241、Y 209・210 主軸方向 N - 8° - W 規模 長さ (7.01 m) 上幅 0.98 m 下幅 0.68 m 形状等 北へ西へL字状に屈曲する。断面浅いU字状を呈する。重複 H - 2、D - 1 と重複し、新旧関係は H - 2→本遺構→D - 1 である。出土遺物 なし。時期 重複関係から 7世紀を上限とする。備考 調査時は、遺構番号未番の溝跡として扱われており土壟断面の記録に乏しい。北側に隣接する蒼海 (99)・国府 33・34 トレンチで掘込地業建物跡が確認されたため、調査区北壁土壟断面の写真記録と、各調査地の点平面図から位置関係を再検討したところ、本跡を再確認するに至った。写真判定によるため精度は落ちるが、重複関係

は、中世段階との所見がある国府 34 トレンチ W - 3 によって切られているようである。この時期を本跡の下限とみることができるとすると、隣接地点の掘込地業建物跡との関係は留意する必要がある。また、調査区北壁の H - 2 覆土直上には、不鮮明だが、薄い五層の水平堆積が存在しているようであり、この掘込地業建物跡の南端部が存在していたものと推測できる。

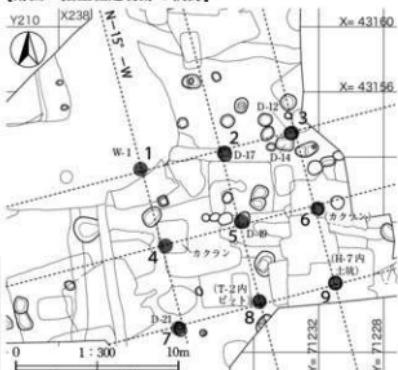
4) 井戸・土坑・ピット (Fig.22 ~ 26・31, PL. 6・9)

Table. 2 井戸・土坑・ピット計測表

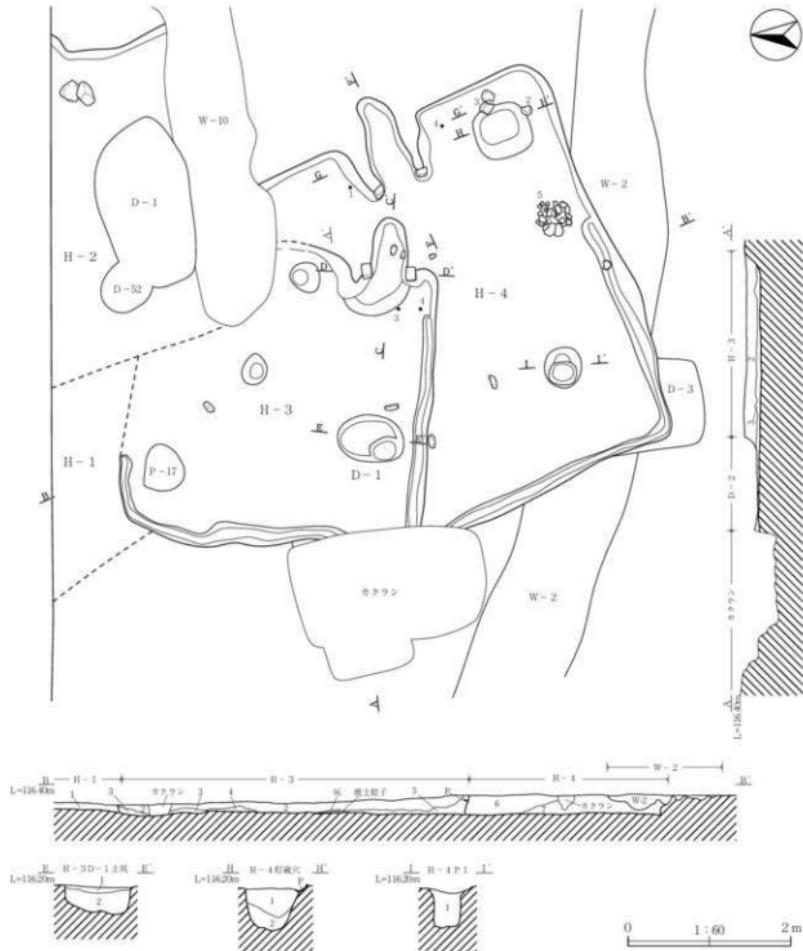
| 調査名 | 位 置 | 長軸 | 短軸 | 深さ | 平面形状 | 調査名 | 位 置 | 長軸 | 短軸 | 深さ | 平面形状 | 調査名 | 位 置 | 長軸 | 短軸 | 深さ | 平面形状 |
|--------|----------------|--------|------|-------|------|--------|----------------|------|------|------|------|--------|----------------|------|------|------|------|
| I - 1 | X 206 Y 208 | 1.87 | 1.08 | 12.00 | 円形 | D - 21 | X 227 Y 228 | 2.13 | 1.30 | 0.27 | 不規則 | D - 22 | X 226 Y 209 | 0.67 | 0.58 | 0.24 | 円形 |
| I - 2 | X 206 Y 208 | 1.27 | 0.62 | 12.05 | 円形 | D - 25 | X 225 Y 215 | 1.00 | 0.61 | 0.23 | 不規則 | D - 33 | X 223 Y 221 | 1.30 | 0.63 | 0.24 | 円形 |
| I - 3 | X 205 Y 207 | 0.96 | 0.64 | 12.05 | 円形 | D - 26 | X 225 Y 215 | 1.00 | 0.66 | 0.22 | 不規則 | D - 34 | X 226 Y 221 | 0.79 | 0.24 | 円形 | |
| I - 4 | X 206 Y 207 | 0.96 | 0.64 | 12.04 | 円形 | D - 27 | X 225 Y 215 | 1.22 | 0.79 | 0.22 | 不規則 | P - 1 | X 225 Y 221 | 0.24 | 0.24 | 円形 | |
| I - 5 | X 206 Y 208 | 0.79 | 0.58 | 12.05 | 円形 | D - 28 | X 226 Y 215 | 1.00 | 1.00 | 0.23 | 不規則 | P - 2 | X 225 Y 221 | 0.24 | 0.24 | 円形 | |
| I - 6 | X 206 Y 208 | 2.22 | 1.14 | 0.32 | 円形 | D - 29 | X 229 Y 219 | 1.21 | 1.00 | 0.21 | 円形 | P - 3 | X 229 Y 219 | 0.64 | 0.58 | 0.23 | 円形 |
| D - 2 | X 226 Y 220 | 1.63 | 1.13 | 0.27 | 円形 | D - 30 | X 228 Y 218 | 1.22 | 0.69 | 0.68 | 円形 | P - 4 | X 222 Y 221 | 0.67 | 0.60 | 0.23 | 円形 |
| D - 3 | X 221 Y 220 | 2.27 | 1.16 | 0.32 | 円形 | D - 31 | X 222 Y 221 | 2.07 | 0.62 | 0.67 | 不規則 | P - 5 | X 220 Y 222 | 0.22 | 0.18 | 円形 | |
| D - 4 | X 220 Y 220 | 1.25 | 0.65 | 0.27 | 円形 | D - 32 | X 220 Y 219 | 1.00 | 0.74 | 0.28 | 不規則 | P - 6 | X 220 Y 220 | 0.26 | 0.24 | 円形 | |
| D - 5 | X 220 Y 220 | 0.66 | 0.51 | 0.13 | 円形 | D - 33 | X 220 Y 220 | 1.42 | 0.96 | 0.28 | 不規則 | P - 7 | X 220 Y 220 | 0.64 | 0.64 | 0.25 | 不規則 |
| D - 6 | X 220 Y 222 | 0.65 | 0.62 | 0.21 | 円形 | D - 34 | X 220 Y 221 | 4.02 | 2.06 | 0.22 | 不規則 | P - 8 | X 222 Y 222 | 0.64 | 0.64 | 0.26 | 円形 |
| D - 7 | X 222 Y 222 | 0.66 | 0.79 | 0.20 | 円形 | D - 35 | X 220 Y 221 | 1.05 | 0.67 | 0.22 | 不規則 | P - 9 | X 222 Y 222 | 0.51 | 0.57 | 0.24 | 円形 |
| D - 8 | X 220 Y 222 | 0.65 | 0.76 | 0.31 | 円形 | D - 36 | X 220 Y 220 | 2.42 | 1.79 | 0.17 | 不規則 | P - 10 | X 222 Y 222 | 0.48 | 0.47 | 0.18 | 円形 |
| D - 9 | X 221 Y 222 | 0.65 | 0.78 | 0.11 | 円形 | D - 37 | X 224 Y 224 | 2.00 | 0.78 | 0.10 | 不規則 | P - 11 | X 222 Y 222 | 0.69 | 0.68 | 0.20 | 円形 |
| D - 10 | X 223 Y 222 | 0.66 | 0.71 | 0.20 | 円形 | D - 38 | X 220 Y 220 | 1.63 | 1.68 | 0.08 | 不規則 | P - 12 | X 220 Y 220 | 0.46 | 0.36 | 0.28 | 不規則 |
| D - 11 | X 221 Y 222 | 0.66 | 0.69 | 0.20 | 円形 | D - 39 | X 220 Y 219 | 0.74 | 0.56 | 0.20 | 円形 | P - 13 | X 220 Y 220 | 0.30 | 0.28 | 0.14 | 円形 |
| D - 12 | X 222 Y 222 | 0.62 | 0.74 | 0.27 | 円形 | D - 40 | X 226 Y 226 | 0.68 | 0.78 | 0.68 | 円形 | P - 14 | X 226 Y 226 | 0.16 | 0.23 | 0.26 | 円形 |
| D - 13 | X 221 Y 222 | 0.67 | 0.66 | 0.40 | 円形 | D - 41 | X 220 Y 221 | 1.00 | 0.77 | 0.24 | 不規則 | P - 15 | X 220 Y 220 | 0.43 | 0.40 | 0.29 | 円形 |
| D - 14 | X 220 Y 222 | 1.11 | 0.62 | 0.13 | 不規則 | D - 42 | X 223 Y 223 | 0.72 | 0.60 | 0.41 | 不規則 | P - 16 | X 220 Y 220 | 0.61 | 0.58 | 0.29 | 円形 |
| D - 15 | X 221 Y 223 | 1.44 | 0.78 | 0.22 | 不規則 | D - 43 | X 220 Y 220 | 0.78 | 0.65 | 0.42 | 不規則 | P - 17 | X 220 Y 220 | 0.43 | 0.29 | 0.41 | 不規則 |
| D - 16 | X 220 Y 223 | 0.67 | 0.58 | 0.20 | 不規則 | D - 44 | X 220 Y 222 | 0.72 | 0.39 | 0.21 | 不規則 | P - 18 | X 223 Y 223 | 0.56 | 0.29 | 0.24 | 不規則 |
| D - 17 | X 220 Y 223 | 0.67 | 1.23 | 0.21 | 円形 | D - 45 | X 220 Y 220 | 1.03 | 1.05 | 0.26 | 円形 | P - 19 | X 220 Y 220 | 0.44 | 0.29 | 0.26 | 不規則 |
| D - 18 | X 221 Y 223 | (1.21) | 0.92 | 0.15 | 不規則 | D - 46 | X 220 Y 219 | 0.64 | 0.65 | 0.28 | 不規則 | P - 20 | X 220 Y 221 | 0.38 | 0.36 | 0.34 | 円形 |
| D - 19 | X 221 Y 223 | 0.66 | 0.79 | 0.12 | 不規則 | D - 47 | X 220 Y 220 | 0.65 | 0.63 | 0.24 | 円形 | P - 21 | X 221 Y 221 | 0.62 | 0.61 | 0.14 | 円形 |
| D - 20 | X 220 Y 223 | 1.22 | 0.89 | 0.23 | 円形 | D - 48 | X 221 Y 221 | 1.32 | 1.25 | 0.27 | 円形 | P - 22 | X 220 Y 221 | 0.38 | 0.35 | 0.53 | 円形 |
| D - 21 | X 220 Y 223 | 0.66 | 0.70 | 0.53 | 円形 | D - 49 | X 224 Y 224 | 1.10 | 0.60 | 0.13 | 不規則 | P - 23 | X 224 Y 224 | 0.60 | 0.28 | 0.28 | 円形 |
| D - 22 | X 220 Y 224 | 1.19 | 1.20 | 0.56 | 円形 | D - 30 | X 226 Y 226 | 0.71 | 0.56 | 0.24 | 円形 | P - 24 | X 226 Y 226 | 0.34 | 0.27 | 0.30 | 円形 |
| D - 23 | X 220 Y 224 | 0.66 | 0.54 | 0.12 | 円形 | D - 31 | X 226 Y 225 | 1.74 | 1.15 | 0.32 | 円形 | P - 25 | X 225 Y 225 | 0.38 | 0.26 | 0.29 | 円形 |

追記：掘立柱建物跡について 隣接地点の元経社蒼海遺跡群(95) (99) や国府 28 トレンチでは、近年発掘調査が行われ、奈良・平安時代の掘込地業をもつ建物や掘立柱建物跡が確認された。これらの建物群は正方位に対して、10 ~ 20° の傾きをもつと指摘されている。そのため、本遺跡で確認されたピットについても留意する必要があるため、配置の検討を行った。指摘される軸方位の配置を点検すると、図示したピット群にその可能性があるが、柱間の間隔は掘立柱建物跡と考えるには広く、底面標高にもややばらつきがあるため、積極的な評価は保留したい。

【附図：掘立柱建物跡の検討】



H-1~4

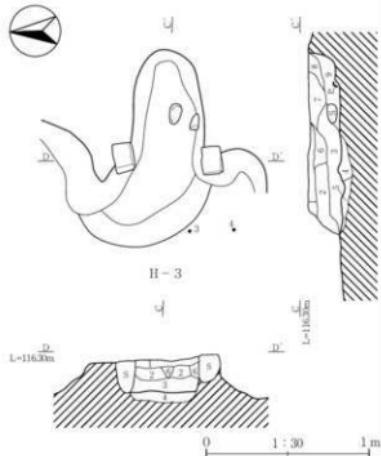


H-1~3・4号住居跡

- 粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物少額量。地山の砂質ブロック多量。ロームブロック微量。(H-1)
- ない粘土土 (10Y3R7/4) 粒子・しまり・粘性強。Hr-PP・炭化物粒子少額量。地山の砂質ブロック多量。(H-2)
- 細粒粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまり・粘性強。Hr-PP・炭化物少額量。地山の砂質ブロック多量。ロームブロック微量。(H-3)
- 粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまり・粘性強。Hr-PP・炭化物少額量。地山の砂質ブロック多量。ロームブロック微量。(H-4)
- 細粒粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物少額量。地山の砂質ブロック多量。(H-5)
- 粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物少額量。地山の砂質ブロック多量。ローム粒子少額量。(H-6)
- 細粒粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物少額量。地山の砂質ブロック多量。ロームブロック少額量。(H-7)
- 粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物多額量。地山の砂質ブロック多量。地山の砂質ブロック少額量。(H-8)
- 細粒粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物多額量。地山の砂質ブロック少額量。地山の砂質ブロック中量。(H-9)
- 粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物多額量。地山の砂質ブロック少額量。地山の砂質ブロック中量。(H-10)
- 細粒粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物多額量。地山の砂質ブロック少額量。地山の砂質ブロック中量。(H-11)
- 粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物多額量。地山の砂質ブロック少額量。地山の砂質ブロック中量。(H-12)
- 細粒粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物多額量。地山の砂質ブロック少額量。地山の砂質ブロック中量。(H-13)
- 粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物多額量。地山の砂質ブロック少額量。地山の砂質ブロック中量。(H-14)
- 細粒粘土土 (10Y3R7/4) 粒子や砂混じ。しまりあり。粘性やや弱い。Hr-PP・炭化物多額量。地山の砂質ブロック少額量。地山の砂質ブロック中量。(H-15)

Fig. 6 H-1~4号住居跡

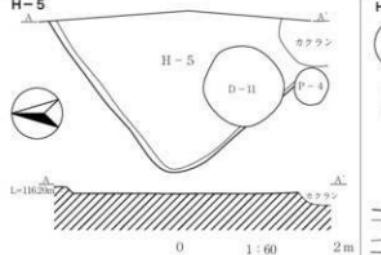
H-3カマド



H-3号住跡跡カマド

1. にじみ青色土 (10YR5/4) 光滑表面部分。砂質プロック主導。粒子やや細い。しまりあり。粘性高い。炭化物粒子 - Hr-FF、粘土プロック - ロームプロック微量。
2. にじみ青色土 (10YR5/4) 光滑表面部分。1.と違い砂質プロック少量。粒子 - 粘土適量粘土適量。Hr-FF、粘土プロック - ロームプロック微量。炭化物微量。底土粒子 - Hr-FF、粘土プロック - ロームプロック微量。
3. 黄褐色土 (10YR4/2) 烟突部への土上。粒子 - やや粗い。粘性適度。炭化物微量。底土粒子 - Hr-FF、粘土プロック - ロームプロック微量。砂質プロックと他の土の混在。底土 - しまりあり。粘性高い。
4. 黄褐色土 (10YR4/2) 烟突部への土上。粒子 - やや粗い。粘性適度。砂質プロック微量。底土 - しまりあり。粘性高い。
5. 順応性黄土 (25YR5/2) 燃えの灰。粒子やや細かい。しまりあり。粘性やや細い。底土粒子 - Hr-FF、ロームプロック微量。
6. 黄褐色土 (10YR4/2) 烟突部への土上。粒子やや粗い。しまりあり。粘性高い。底土 - しまりあり。粘性高い。底土適量。炭化物粒子 - Hr-FF 微量。砂質プロック微量。
7. 黄褐色土 (10YR4/2) 烟突部への土上。粒子やや粗い。しまりあり。粘性高い。底土 - しまりあり。粘性高い。底土適量。炭化物粒子 - Hr-FF 微量。砂質プロック微量。
8. 黄褐色土 (10YR4/2) 烟突部への土上。粒子やや粗い。しまりあり。粘性高い。底土 - しまりあり。粘性高い。底土適量。炭化物粒子 - Hr-FF 微量。砂質プロック微量。
9. 黄褐色土 (10YR4/2) 燃えの灰。粒子 - しまりあり。底土 - しまりあり。炭化物粒子と灰を少量。底土粒子 - Hr-FF 微量。底土 - ローム - 地の砂質粒子含まず。

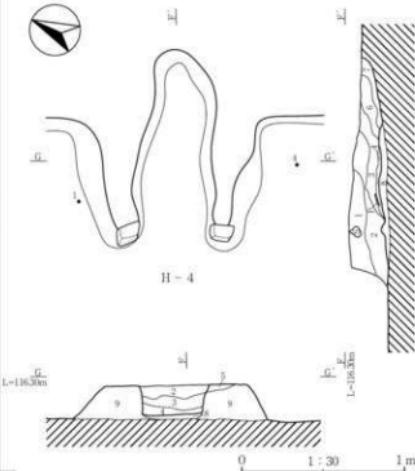
H-5



H-5号住跡跡カマド

1. 黄褐色土 (10YR5/2) 黑色土主体。粒子やや粗い。しまりあり。粘性やや細い。底土砂質プロック少量。底土粒子 - Hr-FF 微量。
2. にじみ青色土 (10YR5/3) 黑色土主体。粒子やや粗い。しまりあり。粘性やや細い。
3. にじみ青色土 (10YR5/4) 燃えの灰。粒子やや粗い。しまりあり。砂質プロック少量。炭化物微量。Hr-FF 微量。
4. にじみ青色土 (10YR5/4) 燃えの灰。粒子やや粗い。しまりやや細い。粘性高い。底土砂質プロック微量。
5. 黄褐色土 (25YR5/2) 燃えの灰。粒子やや粗い。しまりあり。粘性高い。底土 - しまりあり。粘性高い。底土適量。炭化物粒子 - Hr-FF 微量。
6. 黄褐色土 (10YR4/2) 烟突部への土上。粒子やや粗い。しまりあり。粘性高い。底土 - しまりあり。粘性高い。底土適量。炭化物粒子 - Hr-FF 微量。砂質プロック微量。
7. 黄褐色土 (10YR4/2) 烟突部への土上。粒子やや粗い。しまりあり。粘性高い。底土 - しまりあり。粘性高い。底土適量。炭化物粒子 - Hr-FF 微量。砂質プロック微量。
8. 黄褐色土 (10YR4/2) 烟突部への土上。粒子やや粗い。しまりあり。粘性高い。底土 - しまりあり。粘性高い。底土適量。炭化物粒子 - Hr-FF 微量。砂質プロック微量。
9. 黄褐色土 (10YR4/2) 燃えの灰。粒子やや粗い。しまりあり。底土 - しまりあり。粘性高い。底土砂質プロック微量。底土粒子 - Hr-FF 微量。

H-4カマド



H-4号住跡跡カマド

1. 黄褐色土 (25Y7/2) 粒子やや粗い。しまりやや細い。底土微量。Hr-FF - 小量。粘土プロック少量。地山の砂質プロック多量。
2. にじみ青色土 (10YR5/2) 粘土プロック主導。粒子適量。しまり適量。粘性は弱い。炭化物 - 底土微量。砂質プロック微量。
3. 明暗な黄土 (GY7/2) 粒子やや粗い。しまりあり。粘性弱い。炭化物微量。底土 - 少量。砂質プロック - Hr-FF - 前壁プロック - 粘土プロック微量。
4. 黄褐色土 (25Y7/2) 粒子やや粗い。しまりやや細い。底土微量。
5. 黄褐色土 (GY7/2) 粒子やや粗い。しまりやや細い。底土微量。砂質プロック - 小量微量。
6. 黄褐色土 (GY7/2) 粒子やや粗い。しまりやや細い。粘性弱い。粘土プロック多量と少量の小塊で構成され。底土 - 少量。砂質プロック微量。
7. 黄褐色土 (10YR5/2) 粒子やや粗い。しまりあり。粘性弱い。炭化物 - 底土粒子 - Hr-FF - 少量。砂質プロック微量。
8. 黄褐色土 (25Y7/2) 黑色化しているが、火打とはおなじではない。底子適量。Hr-FF - 少量。砂質プロック微量。
9. 黄褐色土 (10YR5/2) 粒子やや粗い。しまりあり。粘性弱い。底土適量化した粘土プロック多量。砂質プロック微量。底土粒子 - 多量。
10. 黄褐色土 (25Y7/2) 粒子やや粗い。しまりあり。粘性弱い。粘土プロック多量。砂質プロック微量。底土粒子で構成され。Hr-FF - 少量。

H-6カマド

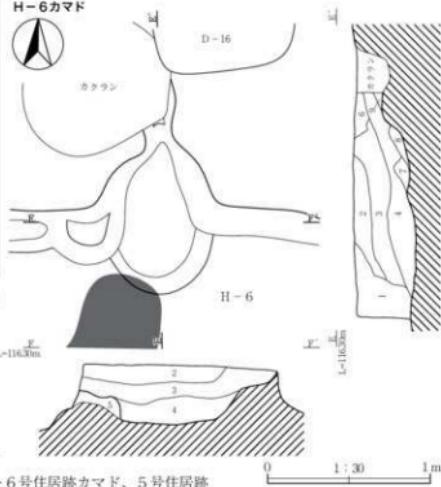


Fig. 7 H-3・4・6号住跡跡カマド、5号住居跡

H-6~9号住居跡

H-6~7号住居跡

1. にぶく黄褐色土 (10YR6/4) 粒子や砂が多い。しまりあり。粘性や少ないと。Hr-PP・ローム粒子微量。海山砂質ドロッカ多量。やや雖然とした地盤。(H-6)
2. にぶく黄褐色土 (10YR6/4) 粒子・しまり・粘性適度。Hr-PP・海山砂質ドロッカ少量。炭化物・ロームドロッカ微量。(H-7)
3. にぶく黄褐色土 (10YR6/4) 粒子や砂が多い。しまりあり。粘性や少ないと。Hr-PP・海山砂質ドロッカ微量。炭化物・ロームドロッカ微量。(H-7)
4. にぶく黄褐色土 (10YR6/4) 粒子・しまり・粘性適度。AaCと想われる明礬化鉄粒子・Hr-PP・炭化物・海山砂質ドロッカ・ロームドロッカ微量。(H-7)
5. にぶく黄褐色土 (10YR6/4) 粒子・しまり・粘性適度。AaCと想われる明礬化鉄粒子・Hr-PP・炭化物・海山砂質ドロッカ微量。(H-7)
6. にぶく黄褐色土 (10YR6/4) 粒子や砂が多い。しまり・粘性や少ないと。Hr-PP・炭化物粒子・ローム粒子微量。地山砂質粒子多量。腐殖がよく発達して地盤。(H-7)
7. にぶく黄褐色土 (10YR6/4) 粒子・しまり・粘性適度。AaCと想われる明礬化鉄粒子・Hr-PP・炭化物・ロームドロッカ微量。(H-7)
8. にぶく黄褐色土 (10YR6/4) 粒子や砂が多い。しまり・粘性適度。AaCと想われる明礬化鉄粒子・Hr-PP・炭化物・海山砂質ドロッカ微量。(H-7)

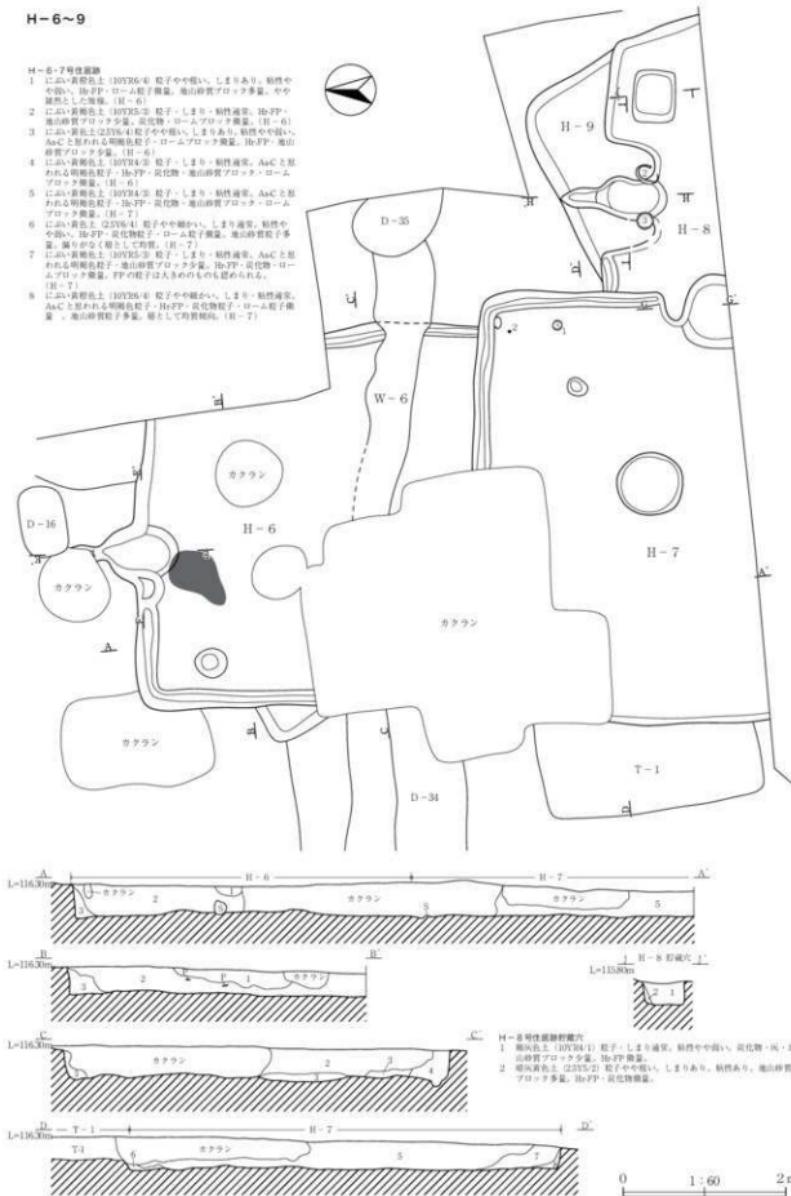
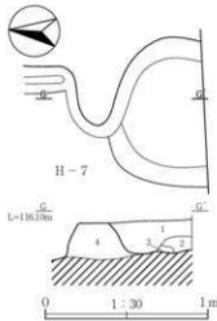


Fig. 8 H-6~9号住居跡

H-7カマド



H-7号住跡跡カマド 植子やや細かい。しまり。粘性普通。炭化物。底土粒子。

2 細粒粘土。H-FP。砂質プロック少量。

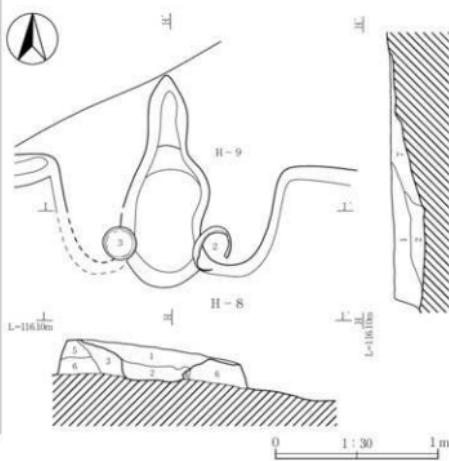
2 細粒粘土。(2SY7M-2) 砂質土主体。粒子やや細かい。粘性あり。底土量多。炭化物。底土粒子。

3 細粒粘土。(2SY7M-1) 砂質土主体。粒子やや細かい。粘性弱。炭化物。底土粒子。

3 細粒粘土。(2SY7M-2) 砂質土主体。粒子やや細かい。しまり強い。粘性あり。底土プロック少量。炭化物。底土粒子。H-FP無量。

4 細粒粘土。(2SY7M-3) 砂質土主体。粒子やや細かい。しまり強い。粘性あり。底土プロック少量。炭化物。底土粒子。H-FP無量。

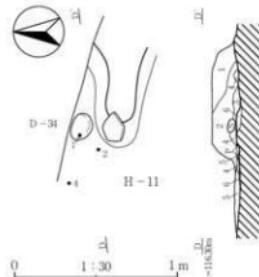
H-8カマド



H-8号住跡跡カマド

- 1 黑褐色土。(10YR3/2) 粒子・しまり。粘性普通。炭化物少量。底土粒子・H-FP・砂質プロック微量。
- 2 灰褐色土。(10YR4/2) 粒子・しまり。粘性普通。底土粒子少量。炭化物。底土粒子。H-FP・砂質プロック微量。
- 3 黑褐色土。(2SY7M-1) 黑褐色土主体。粒子やや細かい。粘性弱。炭化物。底土粒子。
- 4 黑褐色土。(2SY7M-2) 粒子細かい。しまり強い。粘性弱。炭化物。底土粒子。H-FP無量。
- 5 にじく黒褐色土。(2SY7M-3) 粒子適度。しまりやや強い。粘性やや弱い。炭化物少量。H-FP・砂質プロック微量。
- 6 黑褐色土。(10YR4/2) 粒子適度。しまりやや強く。粘性やや弱い。炭化物。H-FP・砂質プロック微量。
- 7 黑褐色土。(10YR3/2) 粒子・しまり。粘性普通。底土粒子適度。炭化物・H-FP・砂質プロック少量。H-FP無量。

H-11カマド



H-11号住跡跡カマド

1 黑褐色土。(10YR5/2) 黑褐色土主体。粒子・しまり。粘性普通。炭化物少量。底土粒子。

2 黑褐色土。(10YR4/2) 黑褐色土主体。粒子やや細かい。しまり。粘性弱。

3 黑褐色土。(10YR4/2) 黑褐色土主体。粒子やや細かい。しまりやや弱い。底土量多く。ものやや細かい。炭化物。底土粒子。H-FP無量。均質化。

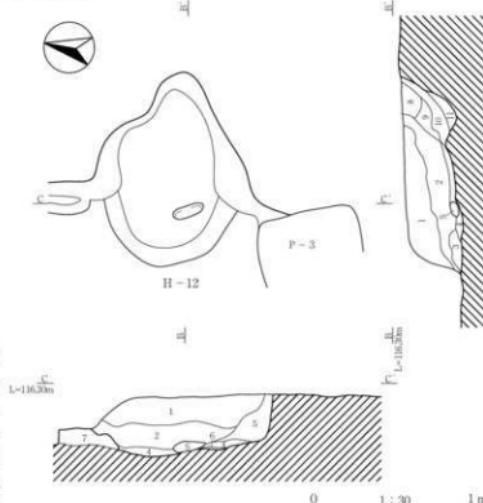
4 粗粒土。(2SY7M-4) 粒子粗大。しまりやや強く。粘性やや弱い。底土量多。炭化物・H-FP無量。

5 黑褐色土。(10YR4/2) 黑褐色土主体。粒子やや細かい。しまり。粘性弱。

6 黑褐色土。(2SY7M-2) 底土砂質プロック主体。底土粒子・H-FP・粘土プロック微量。

6 黑褐色土。(2SY7M-3) 底土砂質プロック主体。底土粒子・しまり。粘性普通。

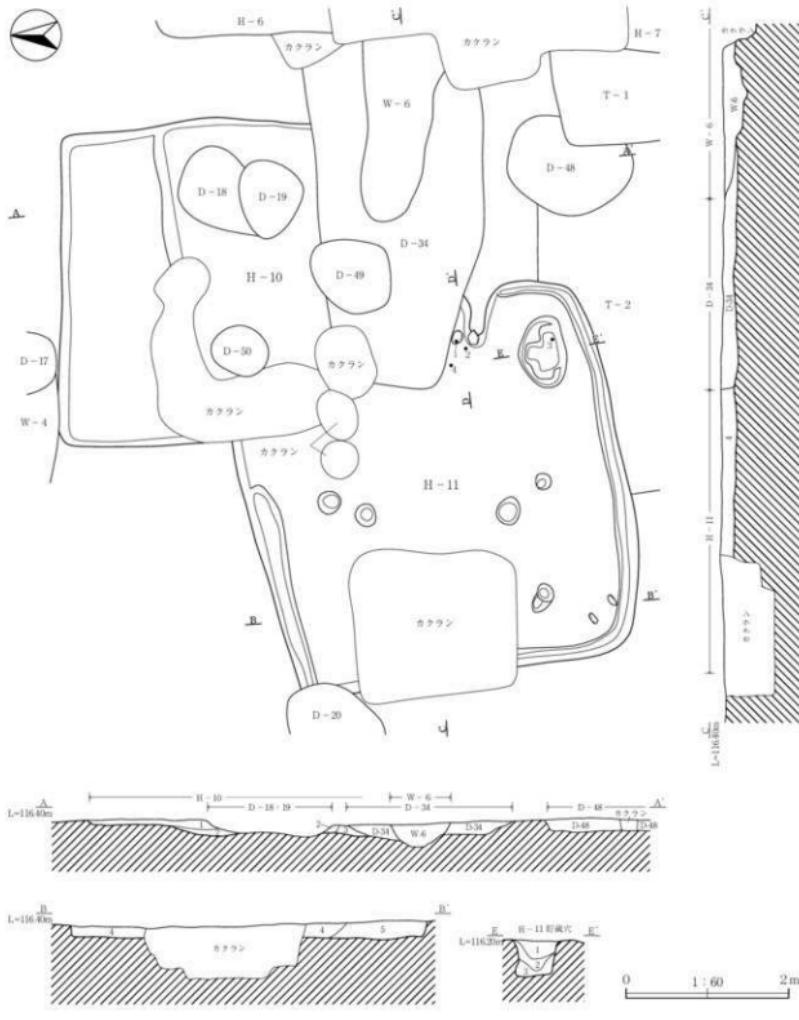
H-12カマド



- 1 にじく黒褐色土。(10YR6/2) 黑褐色土主体。粒子やや細かい。しまりあり。粘性やや弱い。砂質プロック少量。炭化物。底土粒子・H-FP・粘土プロック微量。
- 2 にじく黒褐色土。(10YR6/4) 黑褐色土主体。粒子やや細かい。しまり。粘性やや弱い。砂質プロック微量。炭化物。底土粒子・H-FP・粘土プロック微量。
- 3 にじく黒褐色土。(10YR6/4) 黑褐色土主体。粒子やや細かい。しまり。粘性やや弱い。砂質プロック微量。炭化物。底土粒子・H-FP・粘土プロック微量。
- 4 にじく黒褐色土。(10YR6/2) 黑褐色土主体。粒子・しまり。底土量少。炭化物。底土粒子。
- 5 にじく黒褐色土。(10YR6/4) 黑褐色土。砂質プロック主体。粒子・しまり。底土量少。炭化物。底土粒子。
- 6 灰褐色土。(10YR5/1) 底土量少。粒子やや細かい。しまりあり。炭化物少量。
- 7 にじく黒褐色土。(10YR6/4) 黑褐色土主体。砂質土層。底土粒子・H-FP・粘土層。粒子やや細かい。しまりやや強い。底土層。砂質プロック層。炭化物・底土層。
- 8 黑褐色土。(SY7M-2) 黑褐色土主体。粒子細かい。しまり。粘性弱。炭化物・H-FP無量。
- 9 黑褐色土。(SY7M-3) 黑褐色土主体。粒子細かい。しまり。粘性弱。炭化物・H-FP無量。

Fig.9 H-7・8・11・12号住跡跡カマド

H-10・11

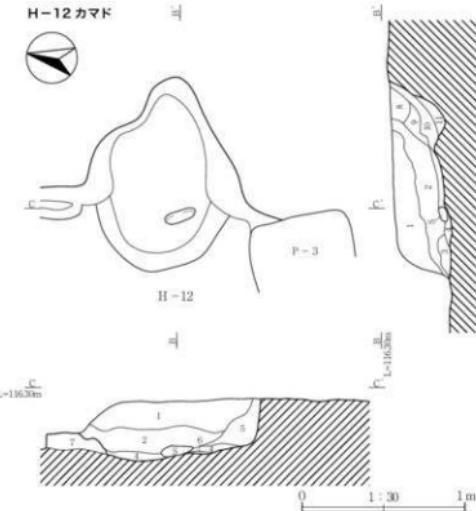
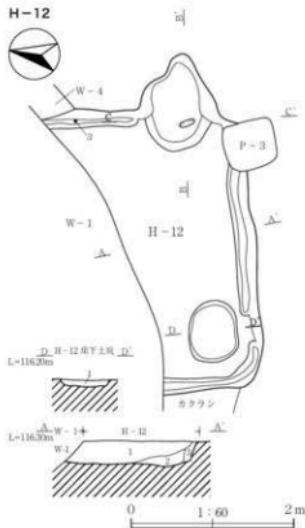


H-10-11 特徴箇所

1. 江戸型基礎地盤 (H-10) 棚子や砂利、しまりあり。粘性土や砂利。地盤プロック少量。Hr-FP+粘化物微量。(H-10)
2. 江戸型基礎地盤 (H-11) 棚子、しまり。粘性土。Hr-FP+粘性土。地盤プロック微量。D-34・W-6・D-30・D-48・カクラン。(H-11)
3. にじい構造土 (205W/4) 棚子や砂利なし。しまりあり。粘性土や砂利なし。砂質ブロック満足。Hr-FP微量。(H-10)
4. にじい構造土 (H10E5-4) 棚子や砂利なし。しまりあり。粘性土や砂利なし。炭化物・地盤粒子・砂質ブロック少量。Hr-FP微量。(H-11)
5. H-11 前庭跡地盤 (H10E4) 棚子・しまり・粘性土。地盤プロック少量。Hr-FP+粘性土・地盤粒子微量。(H-11)

1. 風呂敷地盤 (105W/2) 棚子や砂利なし。しまり・粘性土。地盤砂質ブロック微量。炭化物微量。Hr-FP+粘土ブロック微量。
2. 風呂敷地盤 (105W/2) 棚子や砂利なし。しまり・粘性土。炭化物微量。地盤ブロック・地盤粒子微量。Hr-FP+粘土ブロック微量。
3. 無施設地盤 (SYC3-U) 棚子・しまり・粘性土。炭化物微量。Hr-FP+粘土ブロック・砂質ブロック微量。

Fig.10 H-10-11号住居跡



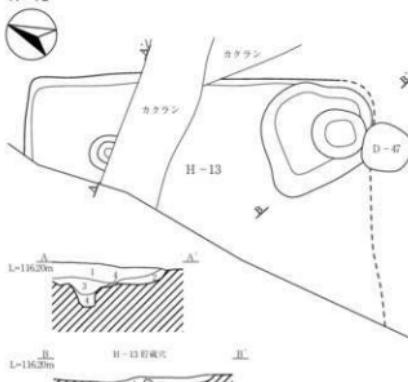
H-12 号住跡

1. にふい黄褐色土。(HYS-2) 粒子やや粗い。しまりあり。粘性低い。砂質ブロック少量。炭化物・鉄化物少量。炭化物・ローム質少量。
2. 黄褐色土。(HYS-4) 粒子やや細かい。しまりあり。粘性やや高い。Hr-FP 少量。炭化物・鉄化物・砂質ブロック少量。
3. 黄褐色土。(HYS-6) 粒子・しまり適度。粘性やや低い。砂質ブロック少量。炭化物・鉄化物・粘土質土層として出現。
4. 黄褐色土。(HYS-7) 粒子やや粗い。しまり・粘性適度。塊山砂質ブロック少量。炭化物・鉄化物・粘土質土層。

H-12 号住跡断面土質
1. 粒子やや粗い。しまりあり。粘性低い。砂質ブロック少量。炭化物・鉄化物少量。炭質ブロック微量。
2. 粒子やや細かい。しまりあり。粘性やや高い。Hr-FP 少量。炭化物・鉄化物・ローム質微量。
3. 粒子やや細かい。しまり適度。粘性やや低い。砂質ブロック少量。炭化物・鉄化物・粘土質土層として出現。
4. 粒子やや粗い。しまり・粘性適度。塊山砂質ブロック少量。炭化物・鉄化物・粘土質土層。

H-12 号住跡断面土質
1. 粒子やや粗い。しまり・粘性適度。塊山砂質ブロック少量。炭化物・鉄化物・粘土質土層。

H-13



H-13 号住跡

1. にふい黄褐色土。(HYS-2) 粒子・しまり・粘性適度。炭化物・Hr-FP・砂質ブロック微量。
2. 黄褐色土。(HYS-4) 粒子・しまり・粘性適度。炭化物微量。Hr-FP・炭質ブロック微量。
3. にふい黄褐色土。(HYS-6) 粒子やや粗かい。しまり・粘性適度。砂質ブロック少量。炭化物・Hr-FP・炭質ブロック微量。
4. 黄褐色土。(HYS-7) 粒子やや細かい。しまりあり。粘性やや高い。炭化物微量。Hr-FP・砂質ブロック微量。

H-13 号住跡断面土質
1. 粒子・しまり・粘性適度。炭化物・Hr-FP・砂質ブロック微量。

2. 黄褐色土。(HYS-4) 粒子・しまり・粘性適度。炭化物微量。Hr-FP・炭質ブロック微量。

3. にふい黄褐色土。(HYS-6) 粒子やや粗かい。しまりあり。粘性やや高い。炭質ブロック微量。炭化物・Hr-FP 微量。

4. 黄褐色土。(HYS-7) 粒子やや細かい。しまりあり。粘性やや高い。炭化物微量。Hr-FP・砂質ブロック微量。

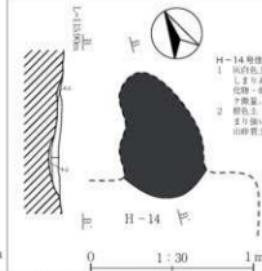
H-13 号住跡断面土質
1. 粒子・しまり・粘性適度。炭化物・Hr-FP・砂質ブロック微量。

2. 黄褐色土。(HYS-4) 粒子・しまり・粘性適度。炭化物微量。Hr-FP・炭質ブロック微量。

3. にふい黄褐色土。(HYS-6) 粒子やや粗かい。しまりあり。粘性やや高い。炭質ブロック微量。炭化物・Hr-FP 微量。

4. 黄褐色土。(HYS-7) 粒子やや細かい。しまりあり。粘性やや高い。炭化物微量。Hr-FP・砂質ブロック微量。

H-14 カマド



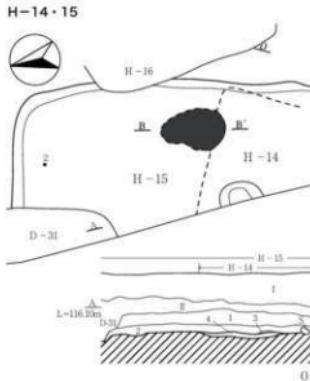
H-14 号住跡カマド

1. 黄褐色土。(HYS-2) 粒子細かい。しまりあり。粘性やや高い。炭化物・Hr-FP・砂質ブロック微量。炭化物微量。Hr-FP・炭質ブロック微量。炭化物微量。Hr-FP・砂質ブロック微量。
2. 黄褐色土。(HYS-4) 粒子細かい。しまりなし。粘性なし。炭化物なし。Hr-FP・砂質ブロック微量。

H-14 号住跡カマド
1. 粒子細かい。しまりあり。粘性やや高い。炭化物・Hr-FP・砂質ブロック微量。炭化物微量。Hr-FP・炭質ブロック微量。炭化物微量。Hr-FP・砂質ブロック微量。

2. 黄褐色土。(HYS-4) 粒子細かい。しまりなし。粘性なし。炭化物なし。Hr-FP・砂質ブロック微量。

Fig.11 H-12-13号住跡、14号住跡カマド



H-14-15号原距離

1. 追風草系

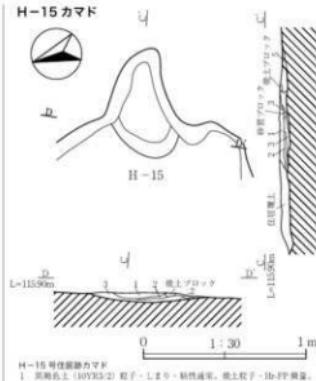
2. ひまわり系

3. ひまわり系(1) H-14(2)子葉細かい。軸性あり。花被物-進山貢百フロッタ少量。H-FP. 他上部葉無。

4. ひまわり系(1) H-14(2)子葉細かい。軸性あり。進山貢百フロッタ。H-FP. 花被物無。

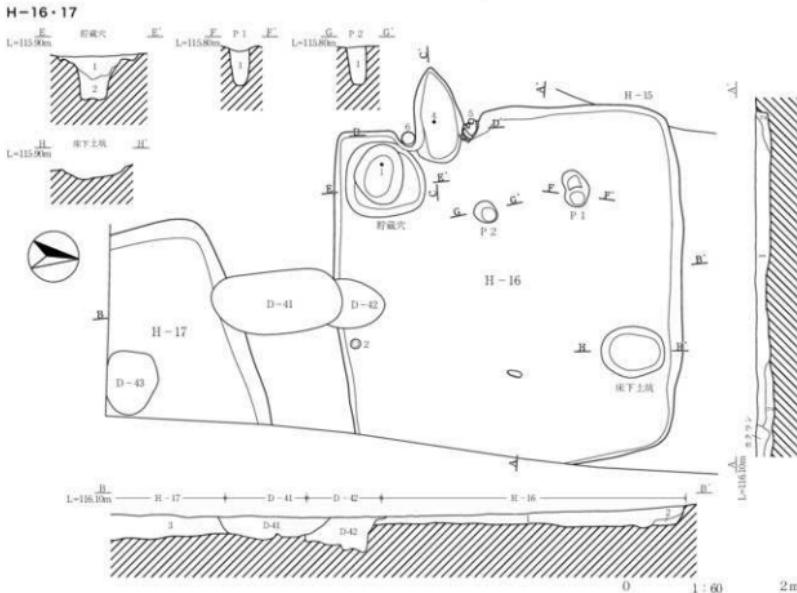
5. ひまわり系(1) H-14(2)子葉細かい。軸性あり。花被物-進山貢百フロッタ。H-FP. 花被物無。

6. ひまわり系(1) H-14(2)子葉細かい。軸性あり。花被物-進山貢百フロッタ。H-FP. 花被物無。



H-15 野生種競争力アドバイス

1. 市原義人（山口県立大）様：しまヨリ、粘性通草。地表撒き子-Hr-FP需要。
2. 清水義和（佐賀県農業技術センター）様：しまヨリ、粘性通草。地表多量、低土温プロトラ・やや多量。除草化：Hr-FP需要。
3. にいへ山田（山口県立大）様：しまヨリ、粘性通草。認証化、地表撒き子-Hr-FP需要。
4. 関根義也（鳥取県農業技術センター）様：Hr-FP需要。
5. 伊藤義典（鳥取県農業技術センター）様：Hr-FP需要。
6. 明石義和（鳥取県農業技術センター）様：Hr-FP需要。



H-16 17-17 住居周辺

- 1) ニコ・直井上 (10YR2/2): 植子、しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類、地衣孢子、塵埃
- 2) アサヒ・直井上 (10YR2/2): 植子やや多い。しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類
- 3) 明美・直井上 (10YR2/2): 植子、しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類
- 4) 新井・直井上 (10YR2/2): 植子やや多い。しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類
- 5) 明美・直井上 (10YR2/2): 植子、しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類

H-16 17-17 住居周辺

- 1) 明美・直井上 (10YR2/2): 植子、しまり、秋性灌木、He-FP: 花粉類、地衣孢子、塵埃
- 2) アサヒ・直井上 (10YR2/2): 植子やや多い。しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類
- 3) 新井・直井上 (10YR2/2): 植子やや多い。しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類
- 4) 明美・直井上 (10YR2/2): 植子、しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類

H-16 17-17 住居周辺

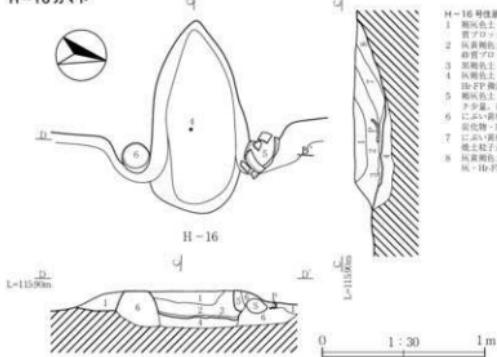
- 1) ニコ・直井上 (10YR2/2): 植子、しまり、秋性灌木、He-FP: 花粉類、地衣孢子、塵埃
- 2) アサヒ・直井上 (10YR2/2): 植子やや多い。しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類
- 3) 新井・直井上 (10YR2/2): 植子やや多い。しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類
- 4) 明美・直井上 (10YR2/2): 植子、しまり、普通。性別や年齢。Hc-FP: 花粉類

H-16 17-17 住居周辺

- 1) ニコ・直井上 (10YR2/2): 植子、しまり、秋性灌木、地衣孢子ブロックや多量。
- 2) アサヒ・直井上 (10YR2/2): 植子やや多い。しまり、普通。性別や年齢。地衣孢子ブロックや多量。
- 3) 新井・直井上 (10YR2/2): 植子やや多い。しまり、普通。性別や年齢。地衣孢子ブロックや多量。
- 4) 明美・直井上 (10YR2/2): 植子、しまり、普通。性別や年齢。地衣孢子ブロックや多量。

Fig.12 H-14~17号住居跡

H-16 カマド



- H-16号住居跡カマド**
- 1 黄褐色土 (30YR4/4) 粒子や砂多い。しまりあり。粘性やや弱い。炭化物・Hr-FP・砂質プロック多量。
 - 2 黄褐色粘土 (25YR4/2) 粒子・しまり適度。粘性やや弱い。炭化物・Hr-FP・砂質プロック微量。
 - 3 黄褐色土 (25YR4/3) 粒子や砂多い。しまり弱い。粘性弱い。粘土粒子少。炭化物・Hr-FP微量。
 - 4 黄褐色土 (30YR4/1) 粒子や砂多い。しまりやや強い。粘性弱い。砂質粒子多量。粘土プロック微量。
 - 5 黄褐色土 (30YR4/1) 粒子や砂多い。しまりやや強い。粘性弱い。砂質粒子多量。粘土プロック微量。
 - 6 黄褐色土 (30YR4/1) 粒子や砂多い。しまりやや強い。粘性弱い。砂質粒子多量。粘土プロック微量。
 - 7 ふるい試験土 (30YR7/2) 粒子適度。しまりやや強い。粘性弱い。粘土プロック微量。
 - 8 黄褐色土 (30YR4/1) 粒子細かい。しまりあり。粘性適度。砂質プロック少。炭化物・粘土粒子少。炭化物・Hr-FP少。粘土プロック微量。

H-18 カマド

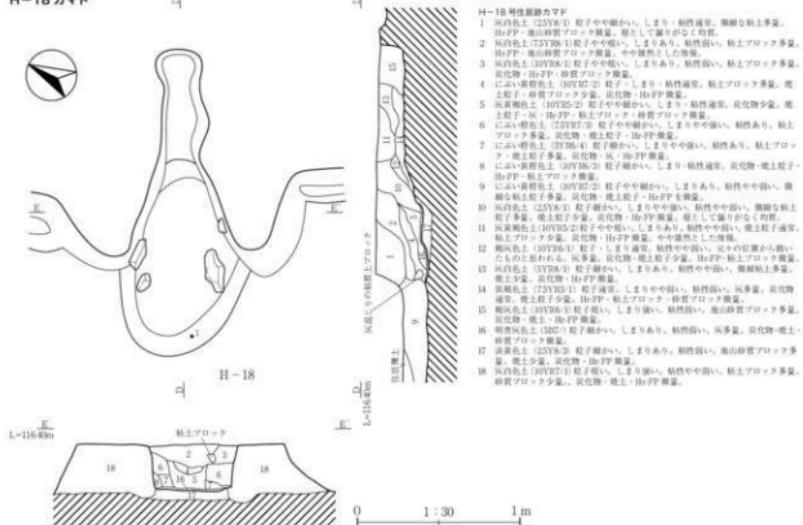
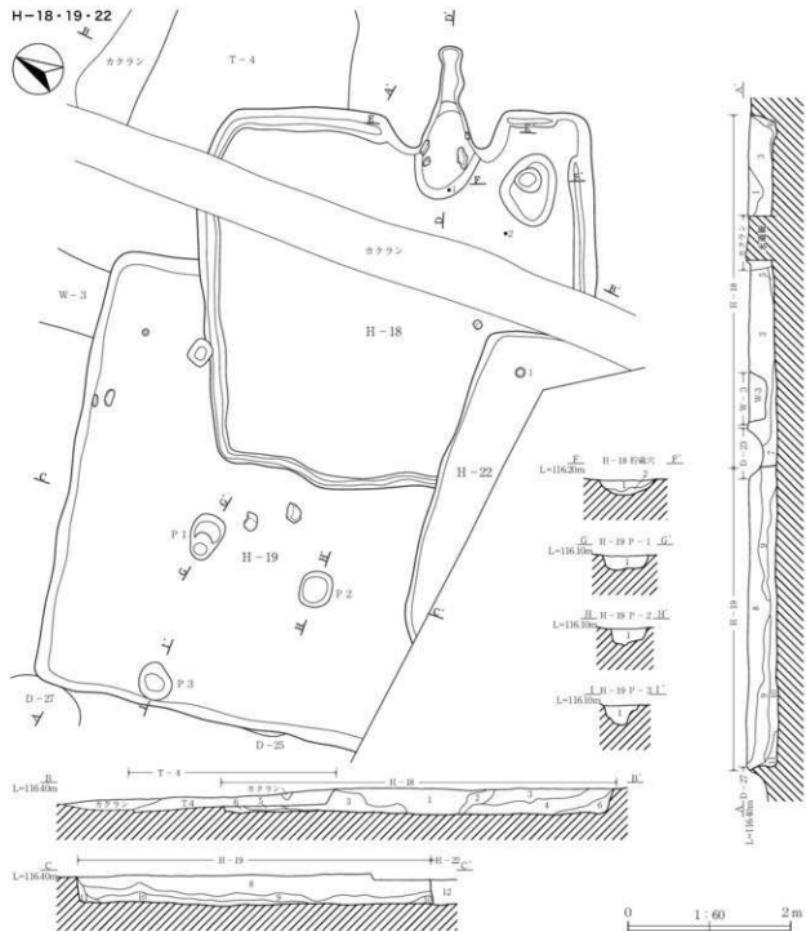


Fig.13 H-16-18号住居跡カマド



H-18・19・22 号住居跡

- 1 白色粘土 (H-19-21) 粒子粗い。しまりあり、粘性弱い。カドア光沢材多量。炭化物・砂質ブロック少量。灰土・灰土塊・灰土塊・H-19FP 無量。雖然としの層。 (H-18)
- 2 黄褐色粘土 (H-19-21) 粒子粗い。しまりあり。粘性やや弱い。砂質ブロック多量。H-19FP・炭化物微量。 (H-18)
- 3 に4-A 黄褐色粘土 (H-19-21) 粒子・しまり・粘性強度。塊山砂質ブロック少量。H-19FP・炭化物・灰土粒子微量。 (H-18)
- 4 黄褐色粘土 (H-19-21) 粒子・しまり・粘性強度。塊山砂質ブロック少量。H-19FP・炭化物・灰土粒子微量。 (H-18)
- 5 に4-B 黄褐色粘土 (H-19-21) 粒子や小礫か。しまり・粘性強度。H-19FP・炭化物・砂質ブロック少量。 (H-18)
- 6 に4-C 黄褐色粘土 (H-19-21) 粒子細か。しまり・粘性通常。H-19FP・炭化物・砂質ブロック少量。 (H-18)
- 7 に4-D 黄褐色粘土 (H-19-21) 粒子や小礫か。しまりあり。粘性やや弱い。炭化物・砂質ブロック少量。 (H-18)
- 8 灰褐色粘土 (H-19-21) 粒子・しまり。しまり・粘性弱い。塊山砂質ブロック多量。H-19FP・炭化物・灰土粒子微量。 (H-18)
- 9 灰褐色粘土 (H-19-21) 粒子・しまり・粘性強度。砂質ブロック少量。H-19FP・炭化物・灰土粒子微量。 (H-18)
- 10 に4-E 黄褐色粘土 (H-19-21) 粒子・しまり・粘性強度。砂質ブロック少量。H-19FP・炭化物・灰土粒子微量。 (H-18)
- 11 灰褐色粘土 (H-19-21) 粒子・しまり・粘性強度。塊山砂質粒子多量。H-19FP 無量。 (H-19)
- 12 灰褐色粘土 (T-4TS2-2) 粒子・しまり・粘性強度。砂質ブロック少量。H-19FP・炭化物・灰土・灰土粒子・灰土ブロック・砂質ブロック無量。 (H-22)

H-19 号住居跡 P-1

- 1 灰褐色粘土 (H-19TS2-2) 粒子・しまり・粘性強度。砂質ブロック少量。H-19FP・炭化物微量。 (H-19 号住居跡 P-1)
- 1 灰褐色粘土 (H-19TS2-2) 粒子・しまり・粘性強度。砂質ブロック少量。H-19FP 無量。 (H-19 号住居跡 P-2)
- 1 灰褐色粘土 (H-19TS2-2) 粒子・しまり・粘性強度。砂質ブロック多量。H-19FP 無量。 (H-19 号住居跡 P-3)
- 1 灰褐色粘土 (H-19TS2-2) 粒子・しまり・粘性強度。砂質ブロック少量。H-19FP 無量。 (H-19 号住居跡 P-4)
- 1 灰褐色粘土 (H-19TS2-2) 粒子やや粗い。しまり・粘性強度。砂質ブロック少量。H-19FP 無量。 (H-19 号住居跡 P-5)
- 1 灰褐色粘土 (H-19TS2-2) 粒子やや粗い。しまり・粘性強度。灰土・灰土ブロック多量。H-19FP・炭化物・灰土粒子・灰土・灰土ブロック・砂質ブロック無量。 (H-19 号住居跡 P-6)
- 2 灰褐色粘土 (H-19TS2-2) 粒子やや粗い。しまりあり。粘性やや弱い。炭化物少量。H-19FP・灰土・灰土粒子・灰土ブロック・砂質ブロック無量。 (H-19 号住居跡 P-7)

Fig.14 H-18・19・22 号住居跡

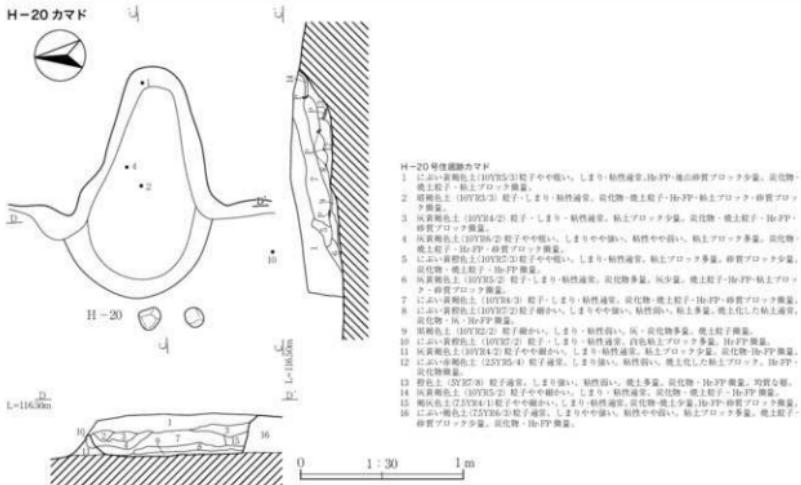
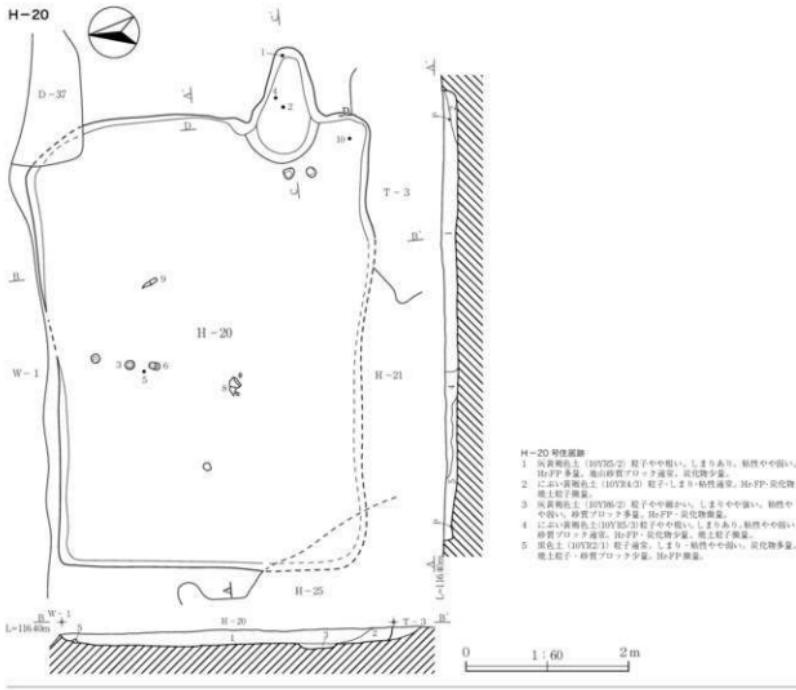


Fig.15 H-20 号住居跡

H-21・23～25

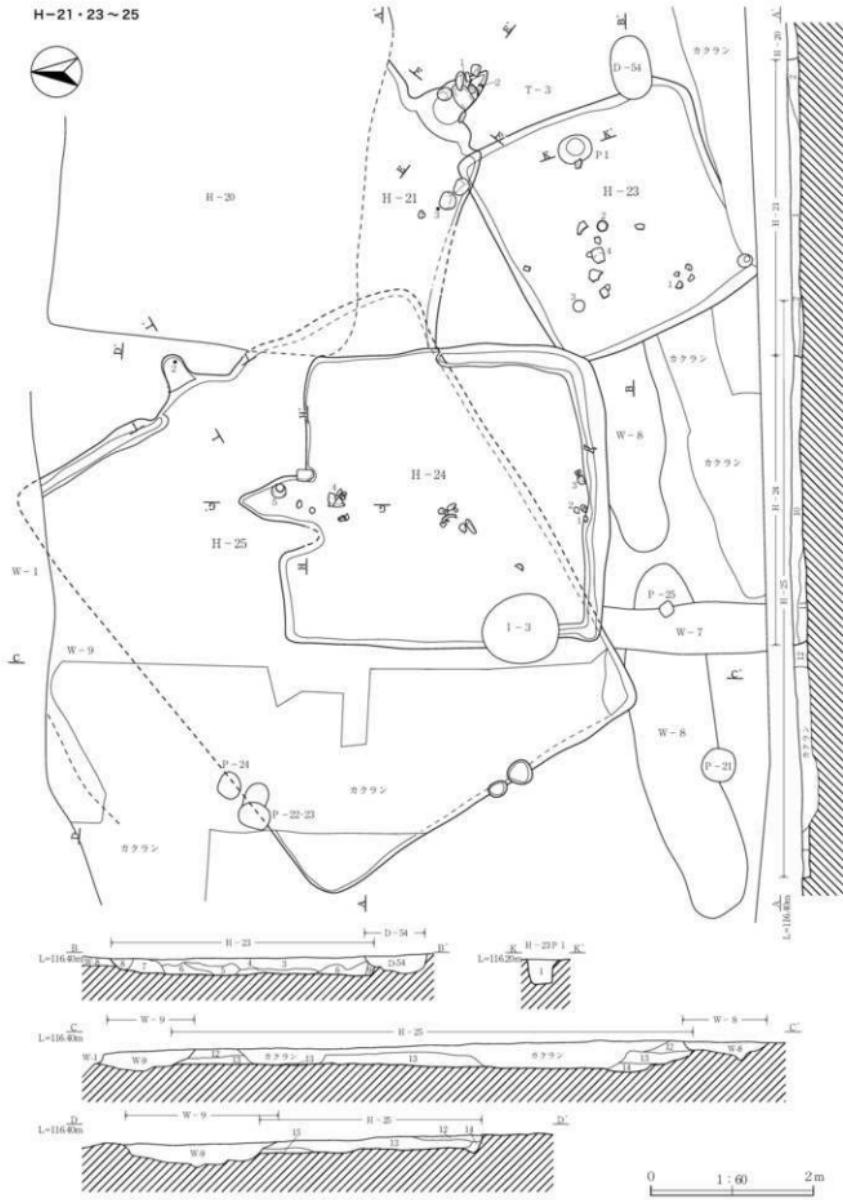
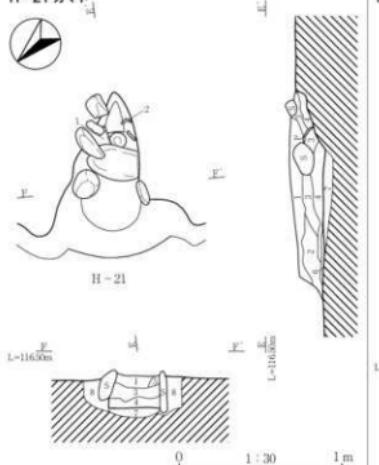


Fig.16 H-21-23～25号住居跡

H-21-24-25号住跡跡カマド

- 1 住跡跡上 (H-21) 穴子・しまり・粘性適度。HrFP-炭化物・地山砂質ブロック微量。(H-21)
- 2 にこい青苔色土 (H-21/2) 穴子・しまり・粘性弱い。しまりあり。粘性弱い。地山砂質ブロック多量。HrFP-炭化物微量。地山砂質ブロック微量。(H-21)
- 3 住跡跡上 (H-21/3) 穴子・しまり・粘性適度。HrFP-炭化物・地山砂質ブロック微量。(H-21)
- 4 住跡跡上 (H-21/4) 穴子・しまり・粘性適度。HrFP-炭化物・地山砂質ブロック微量。(H-21)
- 5 住跡跡上 (H-21/5) 穴子・しまり・粘性適度。HrFP-砂質ブロック・小礫少量。炭化物・地山砂質ブロック微量。(H-21)
- 6 住跡跡上 (H-21/6) 穴子・しまり・粘性適度。HrFP-炭化物・地山砂質ブロック微量。(H-21)
- 7 住跡跡上 (H-21/7) 穴子や細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-炭化物・粘土プロック微量。砂質ブロック微量。(H-21)
- 8 住跡跡上 (H-21/8) 穴子細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-砂質ブロック微量。炭化物・粘土プロック微量。(H-21)
- 9 住跡跡上 (H-21/9) 穴子・しまり・粘性適度。HrFP-炭化物・砂質ブロック微量。(H-21)
- 10 住跡跡上 (H-21/10) 穴子・しまり・粘性適度。HrFP-炭化物・地山砂質ブロック微量。(H-21)
- 11 住跡跡上 (H-21/11) 穴子・しまり・粘性適度。HrFP-炭化物・地山砂質ブロック微量。(H-21)
- 12 住跡跡上 (H-21/12) 穴子・しまり・粘性適度。HrFP-炭化物・地山砂質ブロック微量。(H-21)
- 13 住跡跡上 (H-21/13) 穴子や細かい。しまり・粘性適度。炭化物・砂質ブロック微量。HrFP-地山砂質ブロック微量。(H-21)
- 14 明夷斑色土 (H-21/14) 穴子や細かい。しまり・粘性適度。砂質ブロック多量。HrFP-炭化物微量。(H-21)
- 15 にこい青苔色土 (H-21/15) 穴子・しまり・粘性適度。砂質ブロック微量。HrFP-炭化物微量。(H-21)
- 16 にこい青苔色土 (H-21/16) 穴子や細かい。しまり・粘性適度。砂質ブロック微量。HrFP-炭化物微量。(H-21)

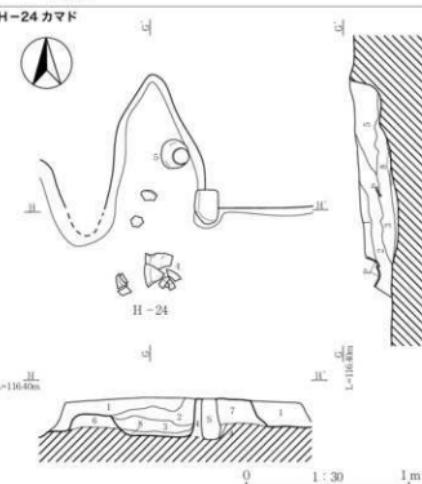
H-21 カマド



H-21号住跡跡カマド

- 1 住跡跡上 (H-21/4) 穴子や細かい。しまりあり。粘性やや弱い。炭化物・HrFP-砂質ブロック微量。
- 2 住跡跡上 (H-21/5) 穴子・しまり・粘性弱い。粘性やや弱い。炭化物・HrFP-砂質ブロック微量。
- 3 住跡跡上 (H-21/6) 穴子や細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。炭化物・地山砂質ブロック微量。
- 4 住跡跡上 (H-21/7) 穴子・細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。地山砂質ブロック微量。HrFP-粘土プロック微量・砂質ブロック微量。
- 5 住跡跡上 (H-21/8) 穴子・細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。地山砂質ブロック微量。HrFP-炭化物微量。
- 6 住跡跡上 (H-21/9) 穴子や細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-炭化物微量。
- 7 住跡跡上 (H-21/10) 穴子・細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-炭化物微量。
- 8 にこい青苔色土 (H-21/11) 穴子細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-砂質ブロック微量。炭化物・砂質ブロック微量。HrFP-炭化物微量。

H-24 カマド



H-24号住跡跡カマド

- 1 にこい青苔色土 (H-24/1) 穴子や細かい。しまり・粘性適度。HrFP-粘土プロック微量。
- 2 にこい青苔色土 (H-24/2) 穴子や細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-砂質ブロック微量。
- 3 住跡跡上 (H-24/3) 穴子や細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-炭化物微量。
- 4 住跡跡上 (H-24/4) 穴子や細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-炭化物微量。
- 5 住跡跡上 (H-24/5) 穴子や細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-炭化物微量。
- 6 住跡跡上 (H-24/6) 穴子や細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-炭化物微量。
- 7 住跡跡上 (H-24/7) 穴子・細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-炭化物微量。
- 8 住跡跡上 (H-24/8) 穴子や細かい。しまりやや弱い。粘性弱い。HrFP-炭化物微量。

H-25 カマド

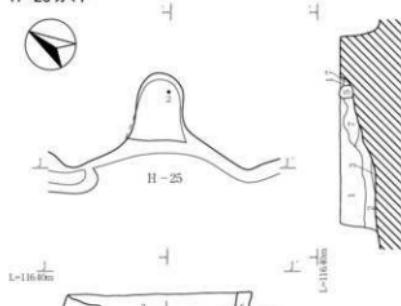


Fig.17 H-21-24-25号住跡跡カマド

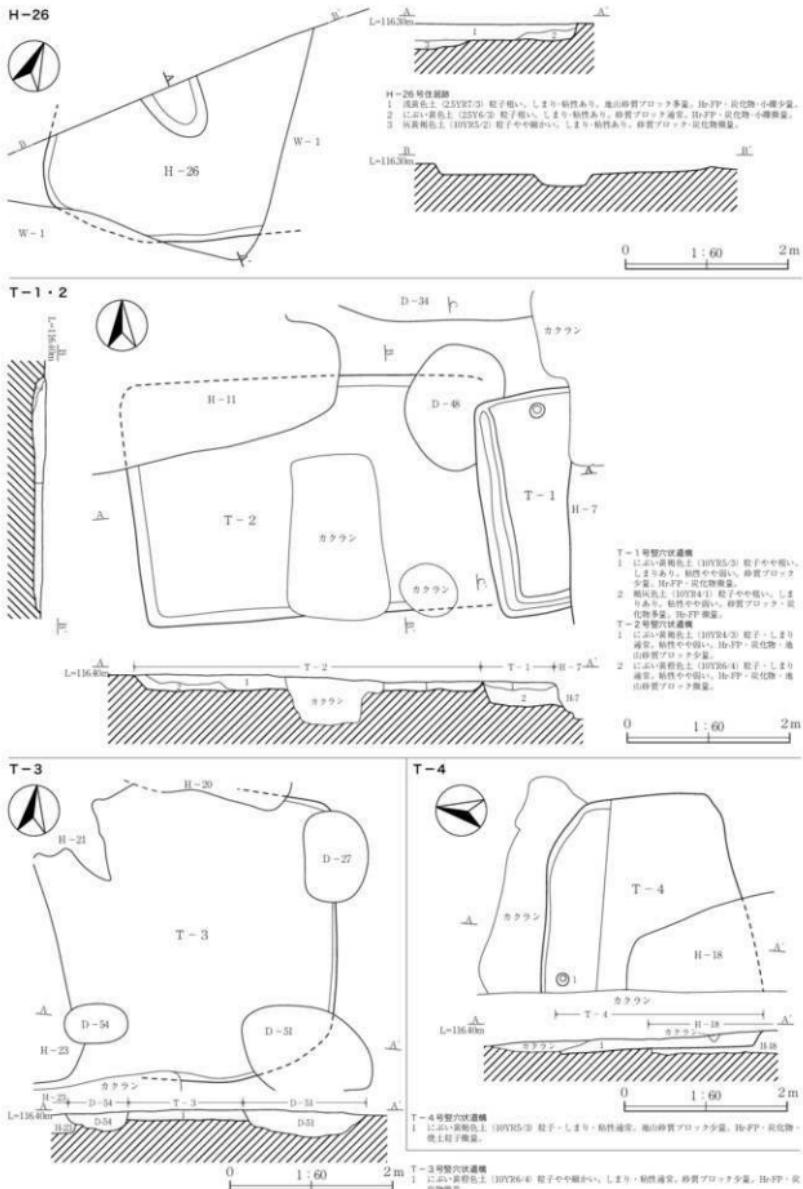


Fig.18 H-26号住居跡、T-1~4号窓穴状構造



Fig.19 W-1号溝跡①

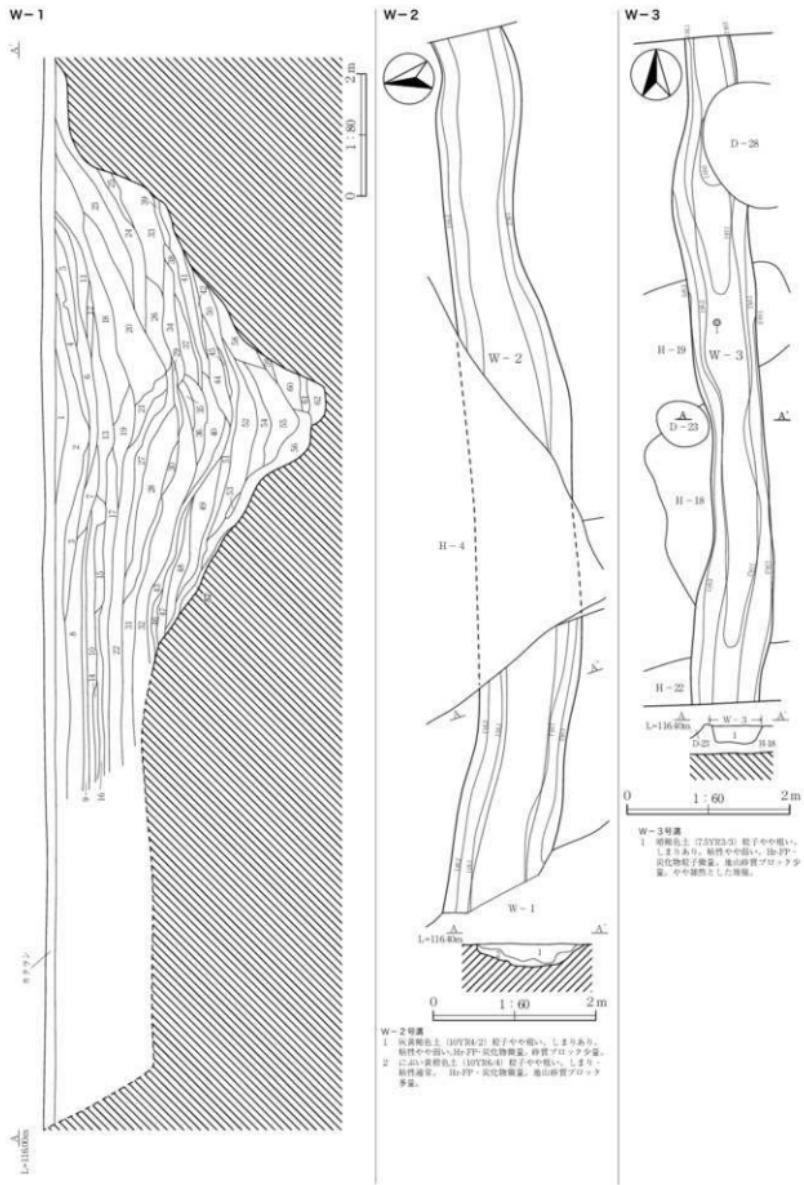


Fig20 W-1号溝跡②、W-2・3号溝跡

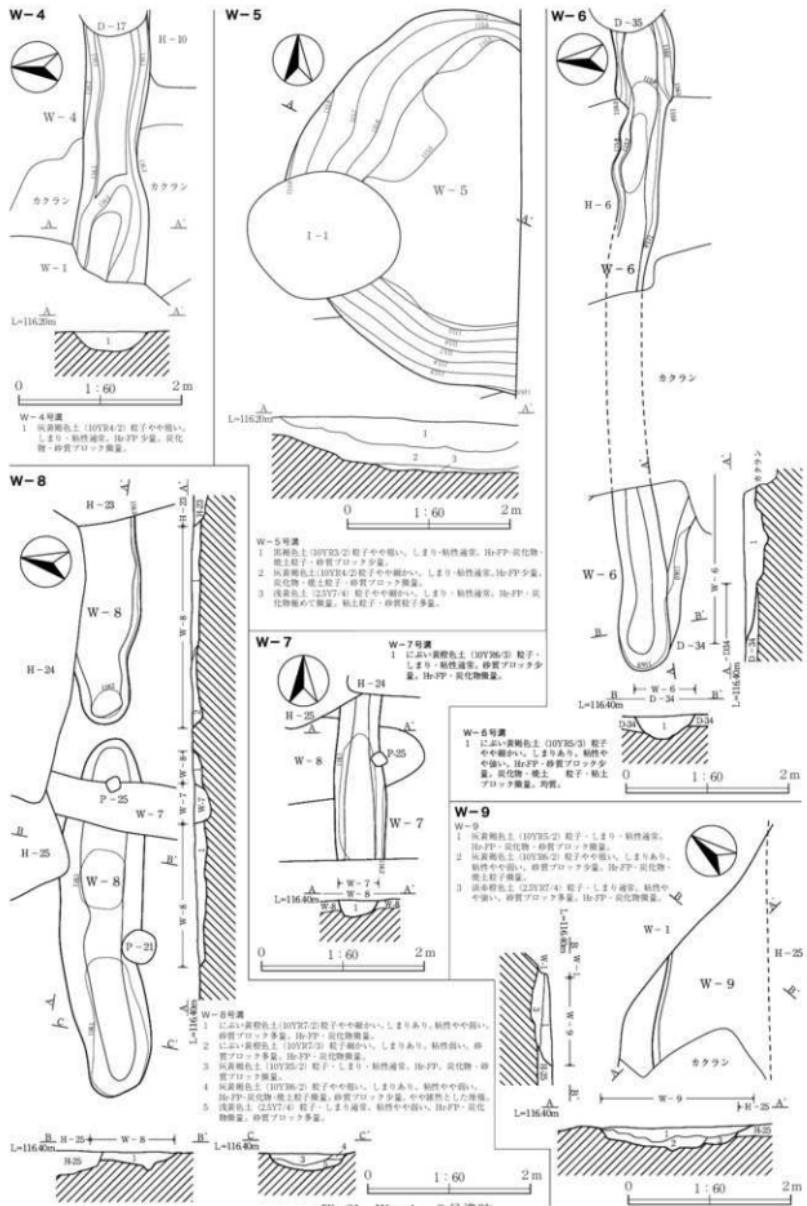


Fig.21 W-4 ~ 9号調査

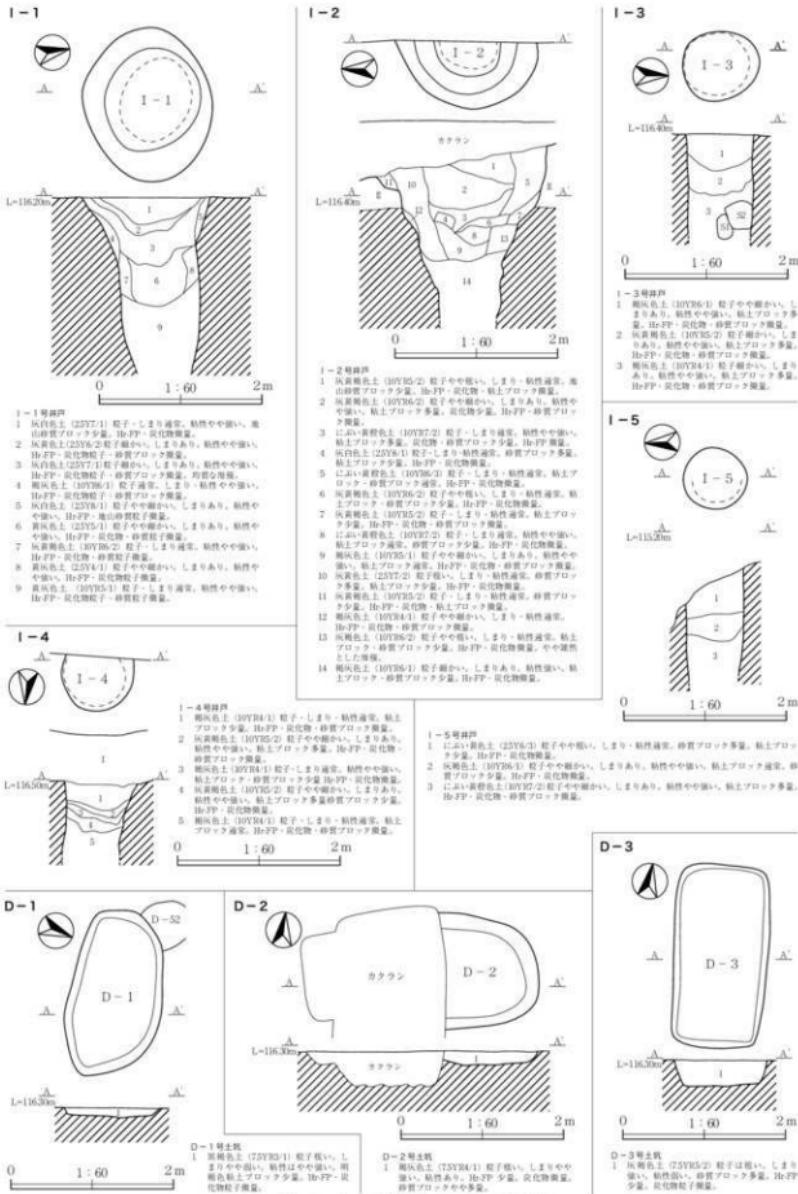


Fig.22 1 - 1 ~ 5号戸井、D - 1 ~ 3号土壌

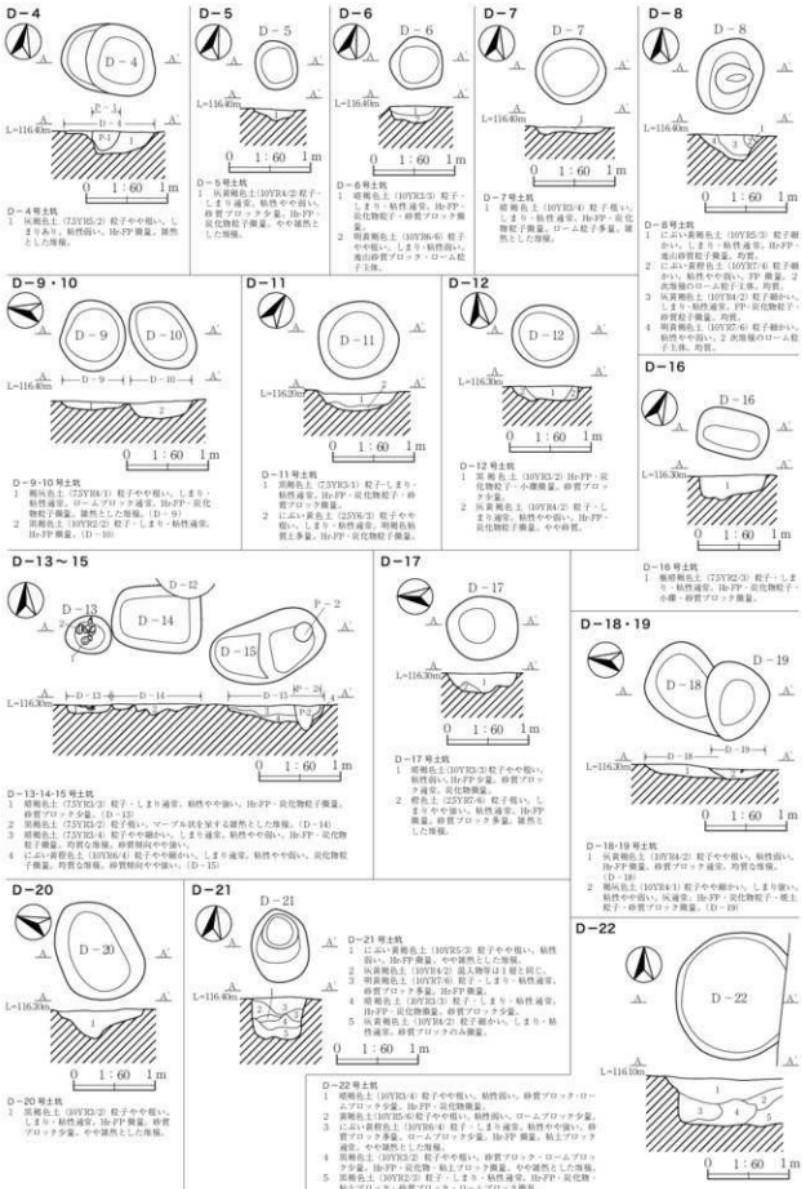


Fig.23 D-4 ~ 22号土坑

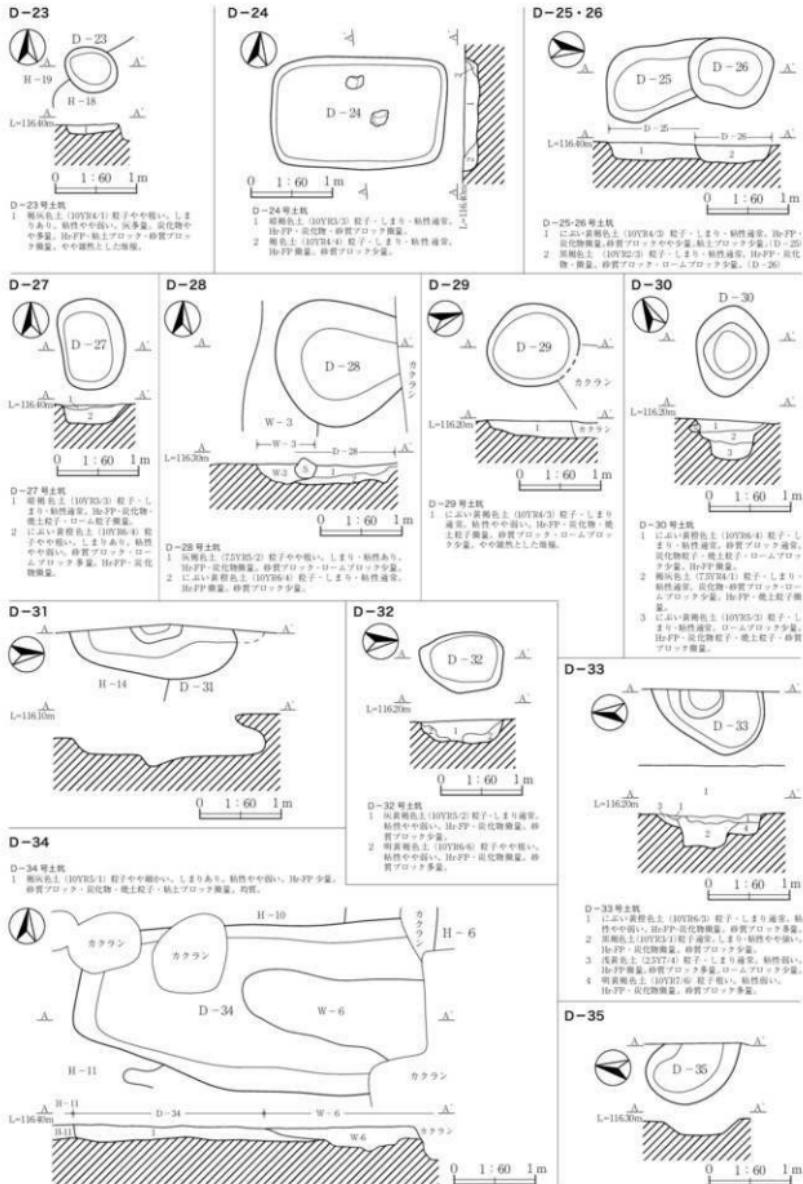


Fig24 D-23～35号土坑

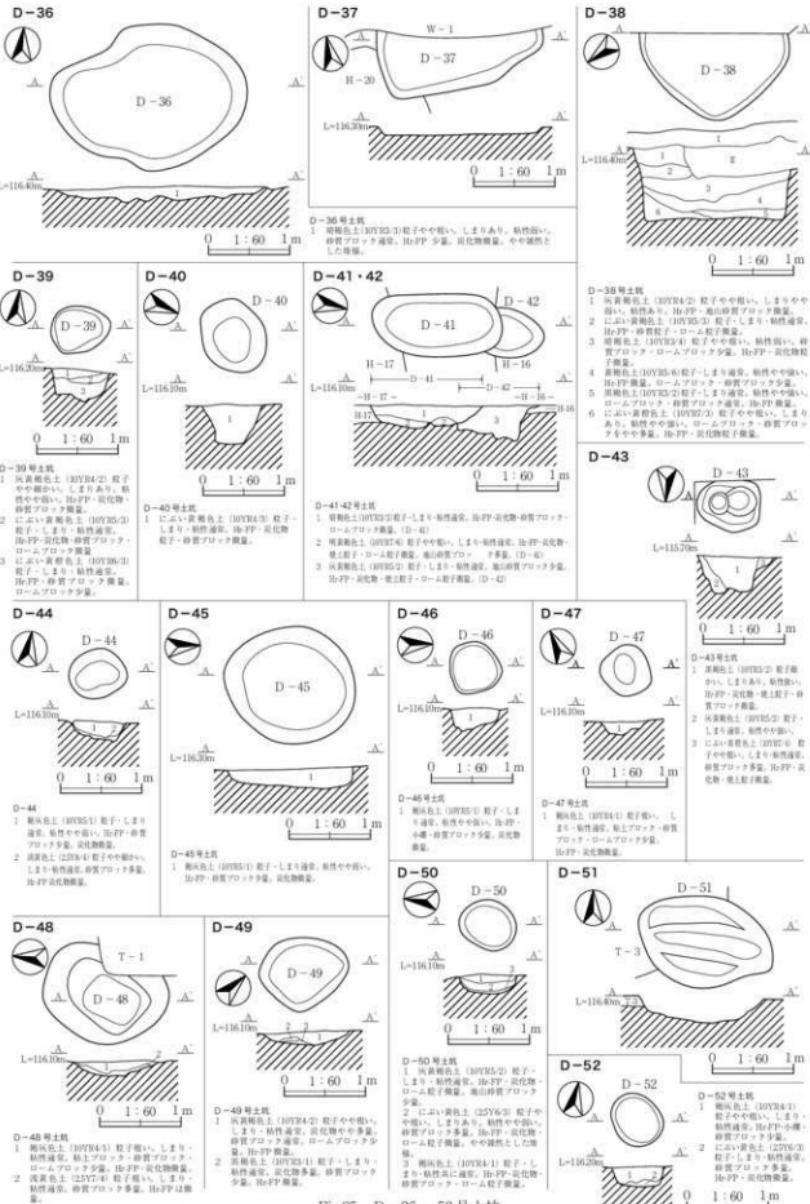


Fig.25 D-36 ~ 52号土壤

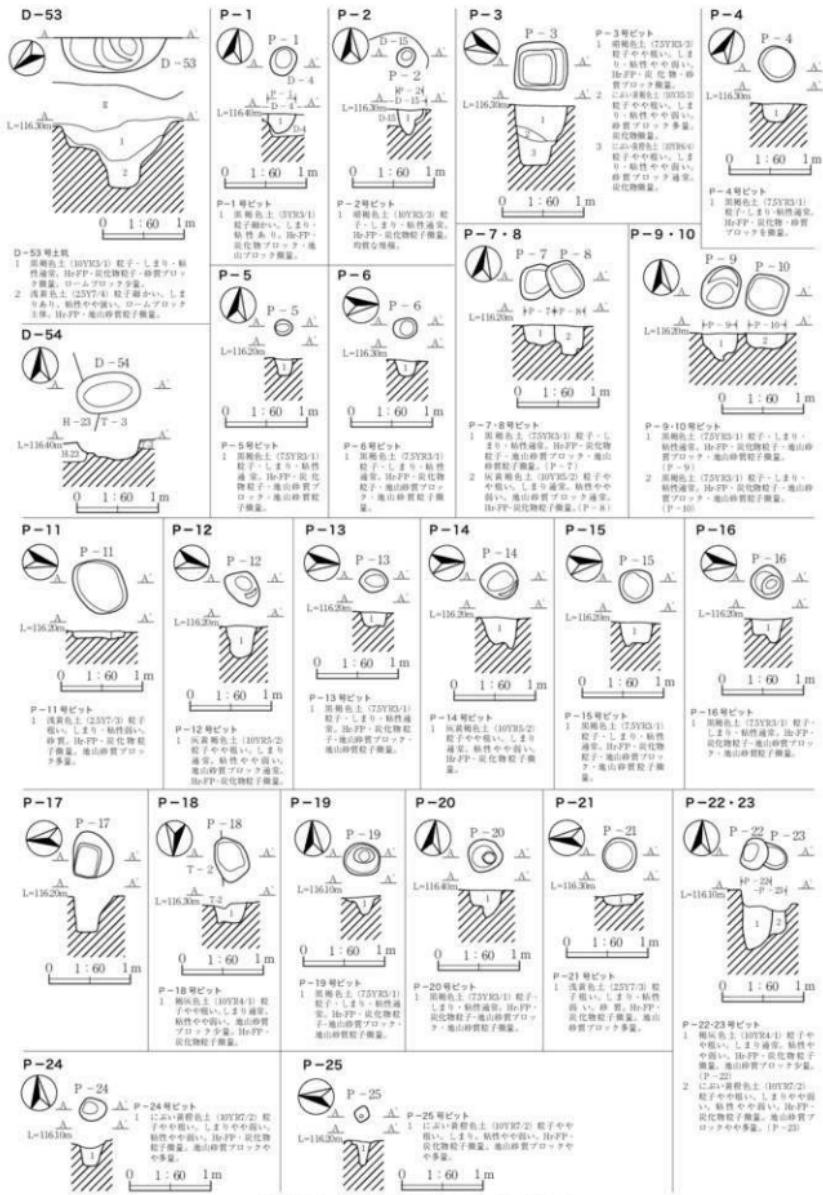


Fig.26 D-53・54号土坑、P-1~25号ピット

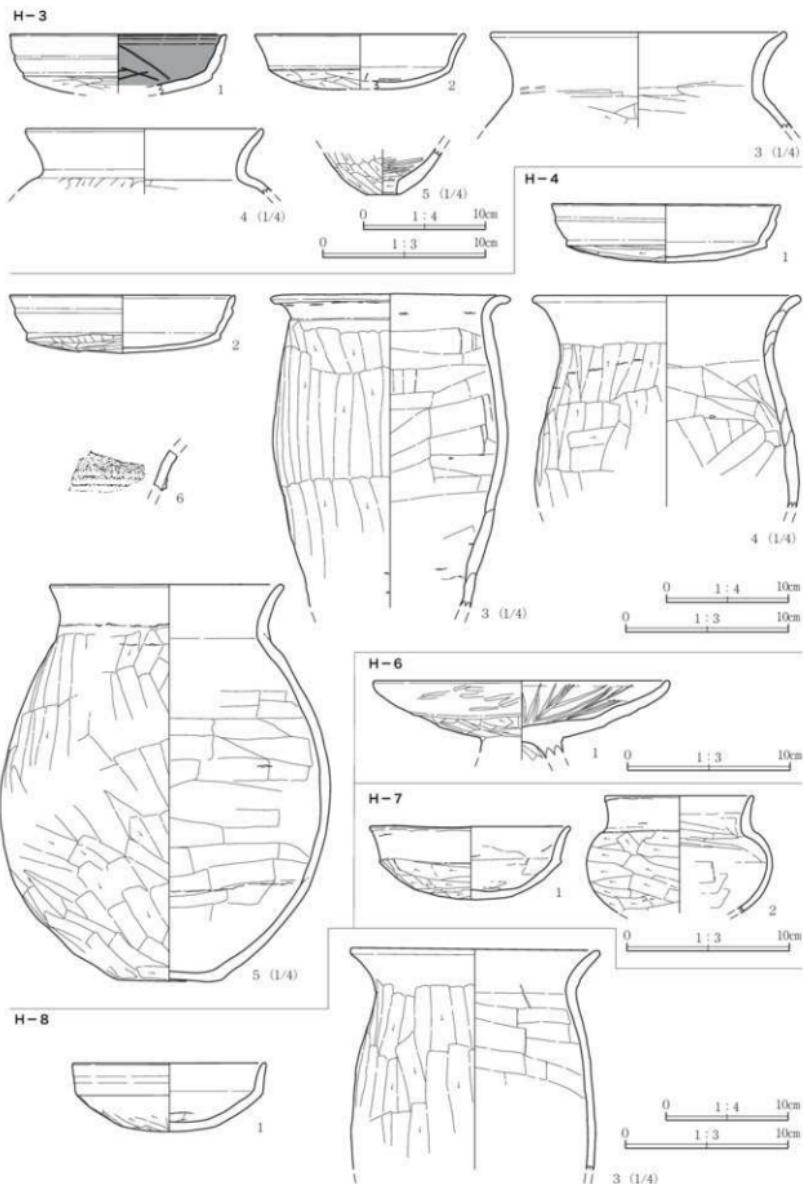


Fig27 H-3·4·6·7·8号住居跡出土遺物

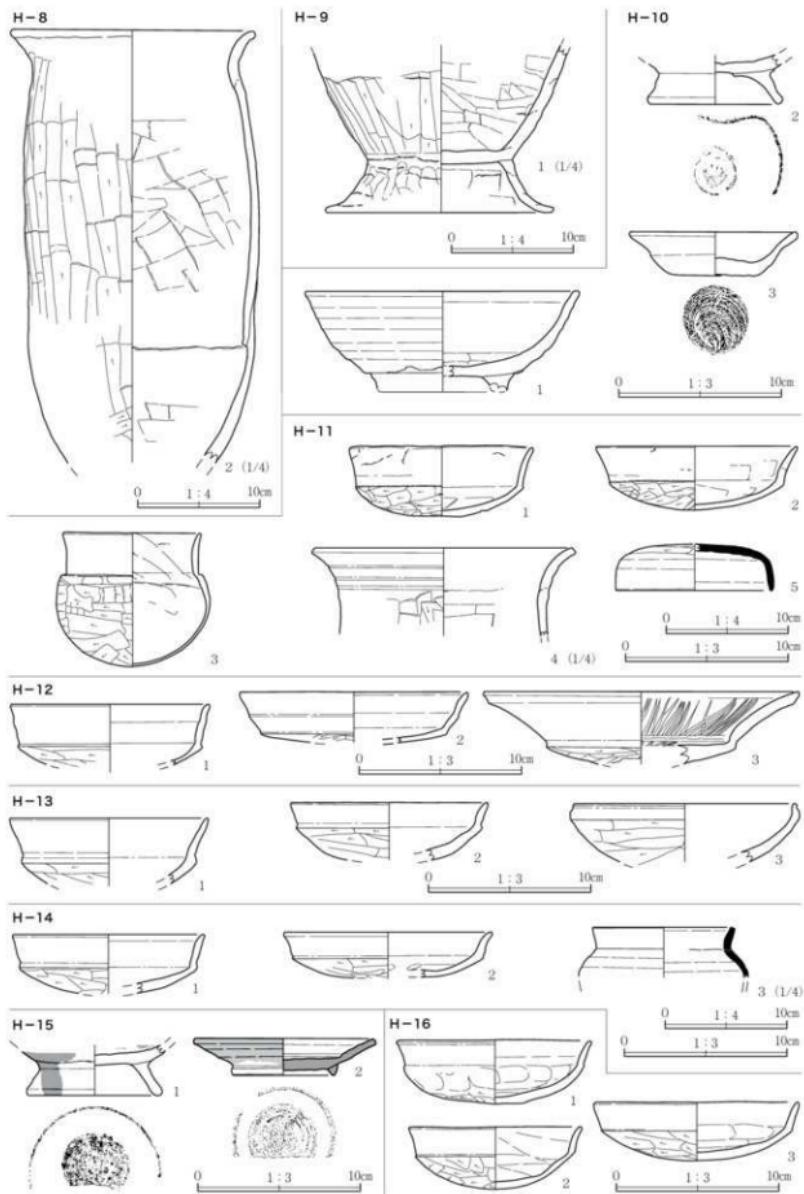


Fig.28 H-8 ~ 16号住居跡出土遺物

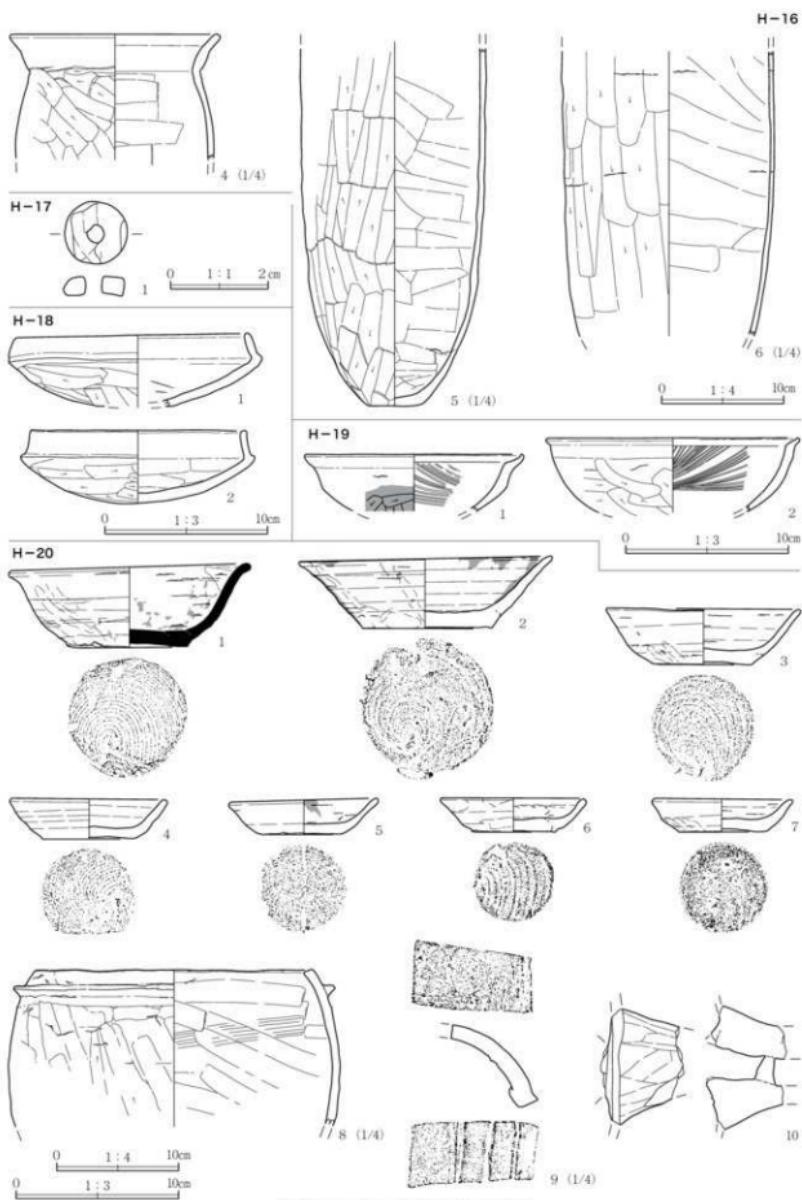


Fig.29 H-16 ~ 20号住居跡出土遺物

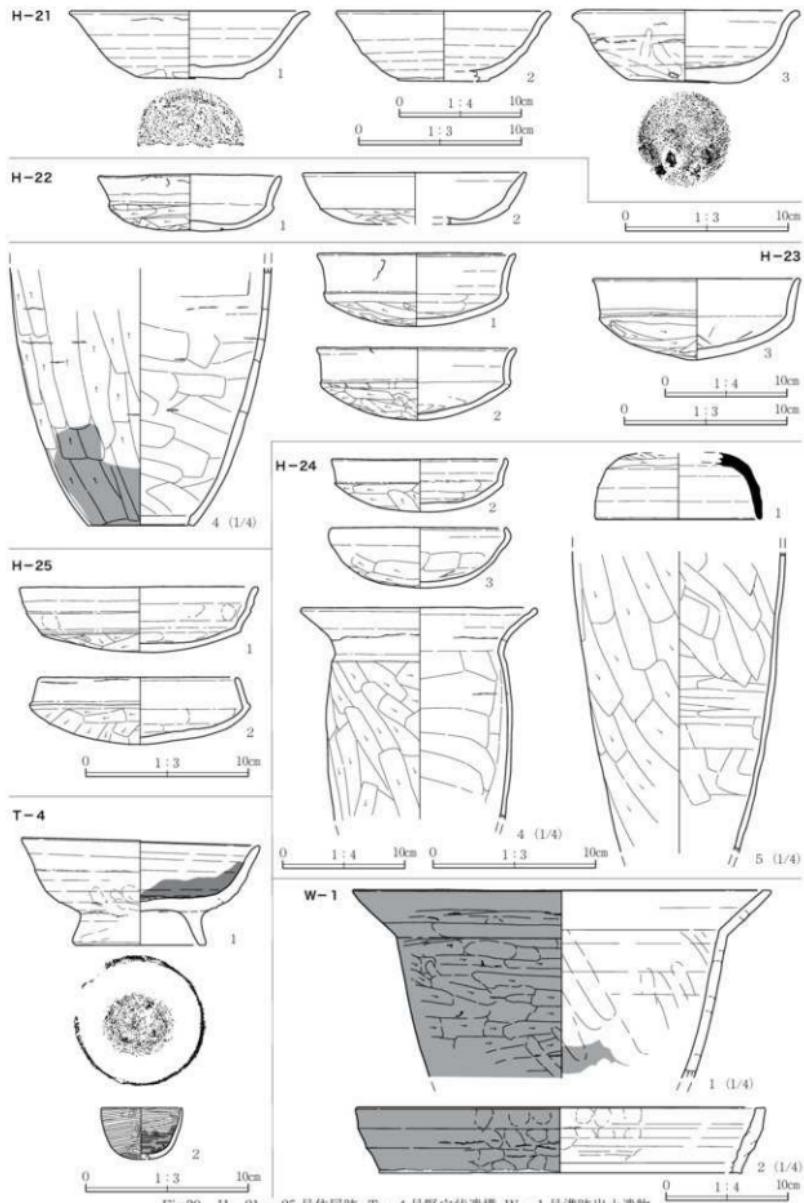


Fig.30 H-21 ~ 25 号住居跡、T-4号竪穴状遺構、W-1号溝跡出土遺物

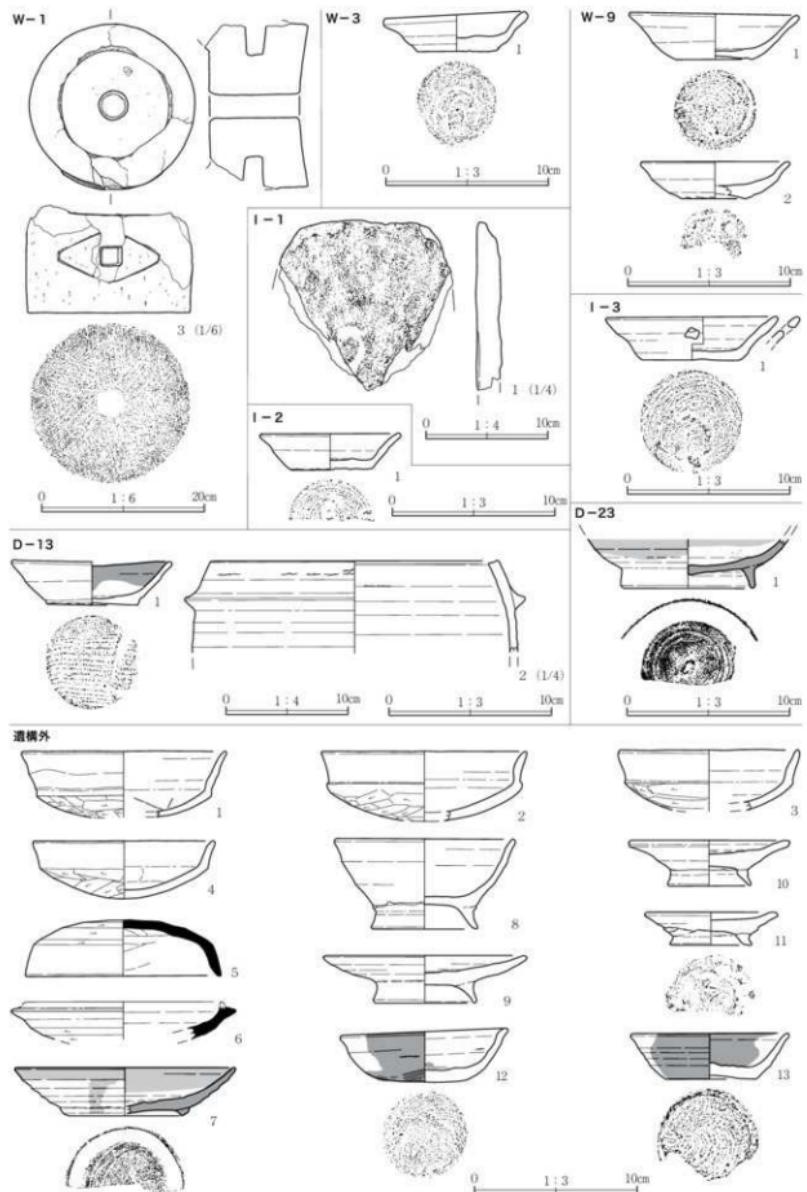


Fig.31 W-1・3・9号溝跡、I-1～3号井戸、D-13・23号土坑、遺構外出土遺物

遺構外

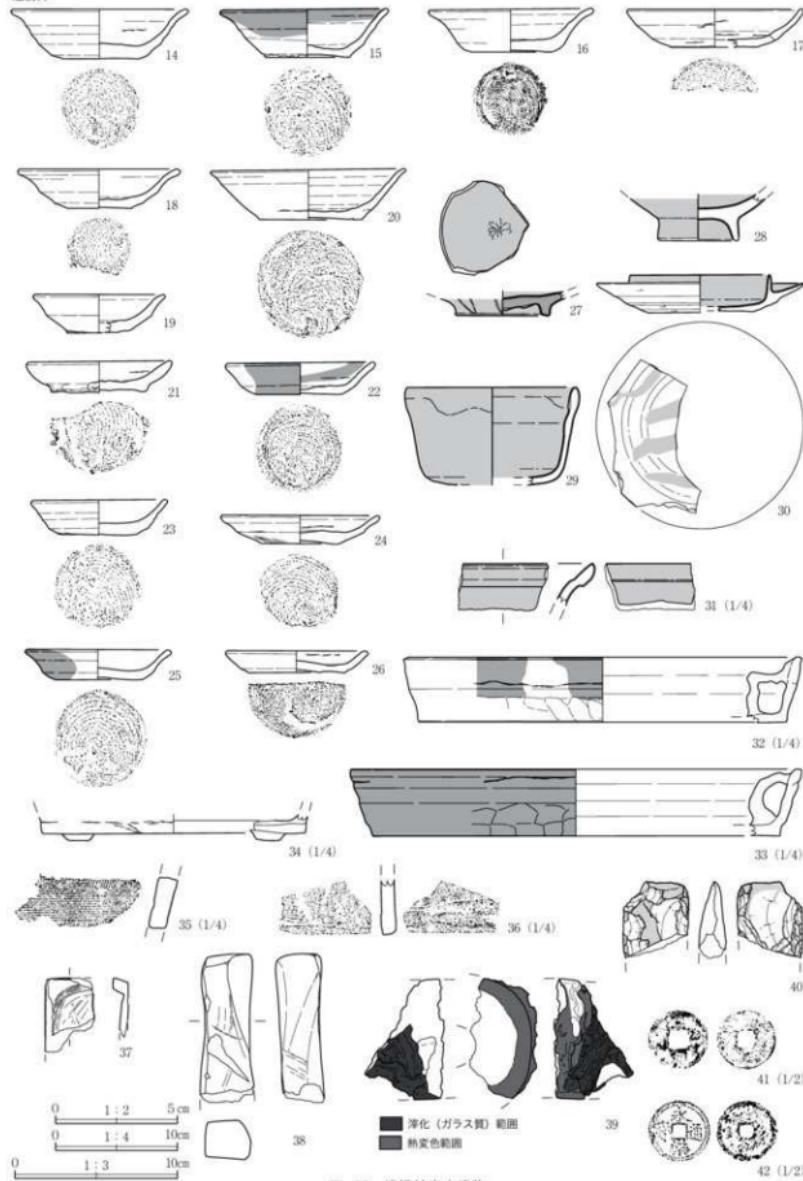


Fig.32 遺構外出土遺物

Tab. 3 出土遺物觀察表

H-3

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|----------------|-----------|--------|------|-------|----------|----------|--|--|-----------|
| 1 | 覆土 上部器 环 | [13.2] 丸瓶 | (37) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：口縁部ヨコナギ。底下ヨコナギ。底へタキズリ。 | 1縦1横部1/4残存。 有段口端部。 | |
| 2 | 覆土 上部器 环 | [12.7] 丸瓶 | (34) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 | 1/4残存。 | |
| 3 | サマダ No. 2 | 土師器 瓶 | [20.6] | - | (7.6) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 | 1縦部1/4残存。 |
| 4 | サマダ No. 4 | 土師器 瓶 | [18.2] | - | (5.3) | 半球形底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 | 1縦部1/6残存。 |
| 5 | 覆土 上部器 瓶 | - | [27.1] | (38) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：ヘラキズリ。 内周：側下部ヘタキズリ。瓶底ヘタキズリ。 | 瓶底1/4残存。 | |

H-4

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 | |
|----|--------------|-------|--------|----|--------|-----|----|----------|----------------------------------|---------------------------------|-----------|
| 1 | サマダ No. 5 | 土師器 环 | 34.0 | 丸瓶 | 26 | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 4/5残存。 有段口端部。 | |
| 2 | No. 8 | 土師器 环 | 33.8 | 丸瓶 | 36 | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1/4残存。 有段口端部。 | |
| 3 | No. 7 | 土師器 瓶 | [19.6] | - | (25.6) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1縦1横部1/3残存。 | |
| 4 | No. 6 | 土師器 瓶 | [21.4] | - | (27.3) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘタキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1縦部1/4残存。 | |
| 5 | No. 1 | 土師器 瓶 | 18.9 | 82 | 32.3 | 椭圆底 | 輕石 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1縦部1/2残存。 |
| 6 | 覆土 ハラク | - | - | - | - | 白色糊 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：瓶底付近付近。表面による糊跡汚痕。 内周：ヨコナギ。 | 1縦部1/4残存。 内周：表面による糊跡汚痕。 | |

H-5

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|-------------|--------|----|-------|-----|----|----------|---------------------------------|----------------|---------|
| 1 | 覆土 土師器 环 | [18.0] | - | (4.8) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1/4残存。 | |

H-7

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|-------|---------|-------|----|-------|--------------|----|----------|--|---------|
| 1 | No. 3 | 土師器 环 | 12.3 | 丸瓶 | 45 | 白・黄・茶色 粗粒 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。瓶底付近付近。表面による糊跡汚痕。 | 1/4は定存。 |
| 2 | No. 2 | 土師器 小型器 | [9.0] | 灰瓶 | (7.2) | 白・黄・茶色 粗粒 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1/3残存。 |

H-8

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|----------------|--------|------|----|--------|-----------|----|----------|---------------------------------|-----------------------|
| 1 | 覆土 上部器 环 | [11.8] | 丸瓶 | 42 | 80.0 | 半球形 粗粒 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1/6残存。 |
| 2 | No. 1 | 土師器 瓶 | 29.8 | - | (35) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：瓶底付近付近。表面による糊跡汚痕。 | 瓶底1/3欠損。 瓶底1個部付近着。 |
| 3 | No. 2 | 土師器 瓶 | 20.1 | - | (18.2) | 白色 粗粒 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 | 1縦部1/3残存。 |

H-9

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|-----------|-------|--------|--------|------|----|----------|--|----------------|---------|
| 1 | 覆土 灰陶瓶 | - | [18.3] | (11.7) | 80.0 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：側下部ヘタキズリ。瓶底部ヨコナギ。 内周：側下部ヘタキズリ。瓶底部ヨコナギ。 | 瓶下部1/3灰陶瓶残存。 | |

H-10

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|----------------|--------|-------|-------|-----|-----|----------|----------------------|---------------------------|----------------|
| 1 | 覆土 上部器 环 | [16.6] | - | (6.1) | 椭圆底 | 輕石 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：ヨコナギ。瓶底部ヨコナギ。側下部ヘタキズリ。 | 1/4から瓶底部付近。 |
| 2 | 覆土 灰陶瓶 | - | [8.0] | (3.0) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：瓶底付近付近。表面による糊跡汚痕。 | 瓶底1/2欠損。 | |
| 3 | サマダ 上部器 | 瓶 | 10.1 | 46 | 27 | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：ヨコナギ。瓶底付近を赤焼で施釉装飾。 | 充てん。 施釉化粧底。 |

H-11

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|-----------|-------|--------|----|-------|--------------|----|----------|---|---------|
| 1 | No. 7 | 土師器 环 | 11.2 | 丸瓶 | 43 | 白・黄・茶色 粗粒 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。瓶底部ヨコナギ。 | 一部欠損。 |
| 2 | No. 8 | 土師器 环 | 12.3 | 丸瓶 | 29 | 白・黄・茶色 粗粒 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。ヨコナギ。 | 2/3残存。 |
| 3 | No. 6 | 土師器 瓶 | 8.4 | 丸瓶 | 32 | 白・黄・茶色 粗粒 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘタキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1/4は定存。 |
| 4 | No. 9 | 土師器 瓶 | [21.0] | - | (7.2) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 | 1/4は定存。 |
| 5 | 覆土 果物器 | 瓶 | [9.6] | - | 26 | 白色糊 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：大手前部ヘタキズリ。口下部ヨコナギ。 内周：ヨコナギ。 | 1/3残存。 |

H-12

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|----------------|----------|------|------|-------|-----|----------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------|
| 1 | 覆土 上部器 环 | [12.1] | 丸瓶 | (36) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1縦部1/4残存。 | |
| 2 | 覆土 上部器 环 | [14.0] | 丸瓶 | (31) | 椭圆底 | 輕石 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1縦部1/4残存。 |
| 3 | No. 3 4 | 上部器 环 | 19.2 | - | (4.5) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 外周2/3残存。 内外面付着物（陶化物）あり。 |

H-13

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|-----------------|--------|----|------|-----|----------|----------|---------------------------------|---------------------------------|-----------|
| 1 | 覆土 上部器 环 | [12.2] | 丸瓶 | (41) | 椭圆底 | 半球 粗粒 | 良好 | 浅黄色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1縦部1/4残存。 |
| 2 | 覆土 上部器 环 | [12.2] | 丸瓶 | (35) | 椭圆底 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1縦部1/4残存。 | |
| 3 | サマダ 上部器 环 | [13.4] | 丸瓶 | (36) | 小罐 | 良好 | 胎色 粗粒 | 外周：口縁部ヨコナギ。底下ヘラキズリ。 内周：ヨコナギ。 | 1縦部1/4残存。 丸型。 | |

H- 14

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 地土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現状状況・備考 |
|----|------|------------|--------|----|------|----|----|--|----------------|---------|
| 1 | 壤土 | 土師器 筒 | [11.7] | 丸底 | [36] | 繊密 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下ハラキズリ。 内側：口縁部ヨコナギ。口下ハラキズリ。 | 口縁一部付1-4残存。 | |
| 2 | 壤土 | 土師器 筒 | [12.0] | 丸底 | [26] | 繊密 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下ハラキズリ。 内側：口縁部ヨコナギ。口下ユビキズリ。 | 口縁一部付1-12残存。 | |
| 3 | 壤土 | 須恵器 筒形器 | [13.7] | - | [42] | 錐刃 | 良好 | 灰白色 外側：口縁部ヨコナギ。 内側：口縁部ヨコナギ。口下ヨコナギ。 | C18-肩部1-7残存。 | |

H- 15

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 地土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現状状況・備考 |
|----|------------------|------------|--------|-----|------|----|----|--|----------------------------|---------|
| 1 | 壤土 土師器 筒形器 | - | - | 8.2 | [31] | 繊密 | 良好 | 浅黄色 外側：口縁部ヨコナギ。 内側：口縁部ヨコナギ。 | 口縁一部付1-2残存。 内：外縁付有。 | |
| 2 | No. 1 | 須恵器 筒形器 | [11.0] | 6.2 | 23 | 繊密 | 良好 | 浅黄色 外側：口カタナギ。底面凹凸有り調整。點付高台。 内側：口縁部ヨコナギ。口下ヨコナギ。 | C18-全体1-16残存。 底面1-16異色。 | |

H- 16

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 地土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現状状況・備考 |
|----|-------------------------------|------------|--------|-----|--------|--------|----|--|----------------|---------|
| 1 | No. 7 | 土師器 筒 | 11.7 | - | 40 | 白色系、黄母 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下ユビキズリ。 | 完全。 | |
| 2 | No. 8 | 土師器 筒 | 10.5 | - | 38 | 白色系、小腰 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下ユビキズリ。 | 完全。 | |
| 3 | 壤土 | 土師器 筒 | [12.4] | - | 26 | 繊密 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下ユビキズリ。 | 1/8 残存。 | |
| 4 | No. 2, 3, 壤土 | 土師器 筒形器 | [17.0] | - | [10.5] | 紺細、黑色系 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下斜面ハラキズリ。 内側：口縁部ヨコナギ。口下ユビキズリ。 | C18-側面1/4 残存。 | |
| 5 | No. 1, 4 | 土師器 筒形器 | - | 4.4 | [29.0] | 紺細、白色系 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下斜面ハラキズリ。 内側：口縁部ヨコナギ。口下ユビキズリ。 | 側・底部1/4 残存。 | |
| 6 | No. 6, 7 * ^v 壤土 | 土師器 筒形器 | - | - | [23.0] | 白色系 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。 内側：ユビキズリ。 | 腹部のみ残存。 | |

H- 17

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 厚さ | 石質 | 焼成 | 色調 | 重量 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現状状況・備考 |
|----|------|--------|-----|-----|-----|----|----|-----|------|----------------|---------|
| 1 | 壤土 | 石製品 日王 | 125 | 125 | 0.8 | 滑石 | - | 灰白色 | 14kg | - | 完存。 |

H- 18

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 地土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現状状況・備考 |
|----|----------|-------|------|----|------|--------|----|--|----------------|---------|
| 1 | No. 3, 5 | 土師器 筒 | 14.1 | 丸底 | [45] | 繊密 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下ハラキズリ。 | 3/4 残存。 | |
| 2 | No. 6 | 土師器 筒 | 13.0 | - | 4.5 | 白色系、黄母 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下ハラキズリ。 内側：口縁部ヨコナギ。口下ユビキズリ。 | C18-全体1/4 残存。 | |

H- 19

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 地土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現状状況・備考 |
|----|------|-------|--------|----|------|--------|----|--|----------------|---------|
| 1 | 壤土 | 土師器 筒 | [13.2] | - | [35] | 白色系 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下ハラキズリ。 内側：口縁部ヨコナギ。口下ハラキズリ。 | 壊片。外縁付有。 | |
| 2 | 壤土 | 土師器 筒 | [15.3] | - | [45] | 白色系、黄母 | 良好 | 褐色 外側：口縁部ヨコナギ。口下ハラキズリ。 内側：口縁部ヨコナギ。口下ハラキズリ。 | 壊片。口縁付。 | |

H- 20

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 地土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現状状況・備考 |
|----|--------|--------|--------|-----|--------|--------------|----|---------------------------------------|----------------|---------|
| 1 | No. 1 | 須恵器 筒 | 14.7 | 7.4 | 32 | 白・淡・黑色 黒足 | 良好 | 白色 外側：口縁部ヨコナギ。口下ハラキズリ。 内側：ヨコナギ。 | 3/4 残存。内：外縁付有。 | |
| 2 | No. 7 | 須恵器 筒 | 15.5 | 2.8 | 4.45 | 白・淡・黑色 黒足 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面ヒビナガ。底面凹凸有り調整。 | 2/3 残存。内：外縁付有。 | |
| 3 | No. 15 | 須恵器 筒 | 11.9 | 6.1 | 35 | 白・淡・黑色 黒足 | 良好 | 白色 外側：ヨコナギ。口下ハラキズリ。底面凹凸有り調整。 | C18-全体1/2 残存。 | |
| 4 | No. 6 | 須恵器 小瓶 | 9.2 | 5.6 | 2.5 | 須恵器、斜肩 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面ヒビナガ。底面凹凸有り後削調整。 | 1/2 残存。内：外縁付有。 | |
| 5 | No. 16 | 須恵器 小瓶 | 9.0 | 4.9 | 2.2 | 白・淡・黑色 白肩 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面ヒビナガ。底面凹凸有り後削調整。 | 壊片。口縁付。 | |
| 6 | No. 27 | 須恵器 小瓶 | 8.8 | 5.1 | 20.5 | 白・淡・黑色 黒足 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面ヒビナガ。底面凹凸有り後削調整。 | C18-全体1/2 残存。 | |
| 7 | 壤土 | 須恵器 小瓶 | 8.5 | 5.4 | 20.5 | 白・淡・黑色 黒足 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面ヒビナガ。底面凹凸有り後削調整。 | 口縁一部。壊片。 | |
| 8 | No. 18 | 須恵器 鉢 | [22.0] | 大根 | [12.0] | 白・淡・黑色 白肩 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面ヒビナガ。底面凹凸有り後削調整。 | 口縁一部。壊片。 | |
| 9 | No. 12 | 瓦 | 9.4 | 5.1 | - | 白・淡・黑色 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面ヒビナガ。底面凹凸有り後削調整。 | 口縁一部。瓦片。 | |
| 10 | No. 10 | 須恵器 鉢 | - | - | - | 褐色 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面ヒビナガ。 | 壊片。 | |

H- 21

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 地土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現状状況・備考 |
|----|----------|-------|--------|-------|-----|--------------|----|---------------------------|--------------------|---------|
| 1 | No. 7 | 須恵器 筒 | [14.5] | 6.5 | 4.1 | 小腰 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面凹凸有り後削調整。 | 1/5 残存。 内：外縁付有。 | |
| 2 | No. 1, 8 | 須恵器 筒 | 13.0 | [5.5] | 4.3 | 繊密 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面凹凸有り後削調整。 | 壊片。 | |
| 3 | No. 4 | 須恵器 筒 | 14.0 | 6.5 | 4.4 | 白・淡・黑色 黒足 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面凹凸有り後削調整。 | 4/5 残存。全体に茎みあり。 | |

H- 22

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 地土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現状状況・備考 |
|----|--------|-------|--------|----|-------|----|----|-----------------------|----------------|---------|
| 1 | No. 1 | 土師器 筒 | 11.3 | 丸底 | 3.5 | 褐色 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面ヒビナガ。 | 完存。 | |
| 2 | No. II | 土師器 筒 | [11.1] | 丸底 | [3.2] | 繊密 | 良好 | 褐色 外側：ヨコナギ。底面ヒビナガ。 | 1/7 残存。 | |

H - 23

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|--------------|-------|------|-----|--------|----------------------------|----|---------------------|---|-------------------|
| 1 | No.11 | 土師器 砂 | 12.0 | — | 4.5 | 茶色粘、黄母 粗粒、施釉面 有、チャート | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：口縁部ヨコナギ。 内側：口縁部ヨコナギ、底下ヨコナギ。 | 1/2残存。 内側に施付有。 |
| 2 | No.2 | 土師器 砂 | 12.0 | 丸底 | 4.5 | 白・灰・茶色 粗粒、施釉面 有、チャート | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ、 内側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ、 内側ハラキアズリ。 | 完全。 内側に施付有。 |
| 3 | No.9 | 土師器 砂 | 12.0 | 丸底 | 5.0 | 細砂 | 良好 | 粗色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ、 内側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ。 | 完全。 |
| 4 | No.5 8.12 | 土師器 砂 | — | 8.7 | (21.0) | 白色粘 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ハラキアズリ。 内側：スピナード。 | 1/3残存。 |

H - 24

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|-------|------------|--------|----|--------|-------|----|------------------------|--|----------------------|
| 1 | No.12 | 單音器 高 | [10.0] | — | (4.1) | 白色粘 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ。 内側：口縁部ヨコナギ、底下ヨコナギ。 | 1/4残存。 丁度20cm 横式。 |
| 2 | No.13 | 土師器 砂 | 10.7 | — | 3.3 | 黑母 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ。 内側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ。 | 1/3残存。 内側に施付有。 |
| 3 | No.14 | 土師器 砂 | 10.8 | — | 3.3 | 黑母、小石 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ。 内側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ。 | 1/2残存。 北式横系。 |
| 4 | No.5 | 土師器 長持瓶 | [19.2] | — | 17.3 | 黒母 | 良好 | 白・灰・茶色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ。 内側：口縁部ヨコナギ、底下サザ。 | 1/3残存。1/4残存。 |
| 5 | No.1 | 土師器 長持瓶 | — | — | (24.7) | 黒母 | 良好 | 粗色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ハラキアズリ。 内側：サザ。 | 新規発見。 |

H - 25

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|------|-------|------|----|-----|-----|----|---------------------|--|-----------------|
| 1 | 壤土 | 土師器 砂 | 14.8 | — | 4.0 | 黒母 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ。 内側：口縁部ヨコナギ、底下ヨコナギ。 | 1/2残存。 有り付跡。 |
| 2 | No.1 | 土師器 砂 | 12.3 | — | 4.1 | 白色粘 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：口縁部ヨコナギ、底下ハラキアズリ。 内側：口縁部ヨコナギ、底下ヨコナギ。 | 2/3残存。 |

T - 4

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|------|--------------|-------|-----|-----|--------------|----|---------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| 1 | 壤土 | 单音器 高 高台付 | 14.6 | 8.0 | 6.6 | 黑色粘、黄 色粗粒 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ、底部削除あり。軽く有り高台。 内側：ロココナギ。 | 1/2残存。 底部削除。 |
| 2 | 壤土 | 瓦器小 小窓 | [4.9] | 丸底 | 3.2 | 粘土質 | 良好 | 赤褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ、底下ロココナギ。土色。 | 2/3残存。 底部内側に落書きの付着物。 |

W - 1

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|------|--------------|-------|-----|-----|--------------|----|---------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| 1 | 壤土 | 单音器 高 高台付 | 14.6 | 8.0 | 6.6 | 黑色粘、黄 色粗粒 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底部削除あり。軽く有り高台。 内側：ロココナギ。 | 1/2残存。 底部削除。 |
| 2 | 壤土 | 瓦器小 小窓 | [4.9] | 丸底 | 3.2 | 粘土質 | 良好 | 赤褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底下ロココナギ。土色。 | 2/3残存。 底部内側に落書きの付着物。 |

W - 3

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|------|-------|-----|-----|-----|-----|----|---------------------|----------------------|---------|
| 1 | 壤土 | 水わら印 | 8.6 | 3.0 | 2.2 | 無柄鉢 | 良好 | 黄褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底部削除あり後無調整。 | 完全。 |

W - 9

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|------|--------------|-------|-------|-----|-----|----|---------------------|----------------------|-----------------|
| 1 | 壤土 | 单音器 高 高台付 | 10.2 | 4.7 | 2.9 | 白色粘 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底部削除あり後無調整。 | 1/2残存。 底部削除。 |
| 2 | 壤土 | 单音器 小窓 | [9.0] | [2.8] | 2.3 | 白色粘 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底部削除あり後無調整。 | 1/4残存。 底部削除。 |

I - 1

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|------|--------|--------|--------|-----|-----|----|---------------------|----------------|---------|
| 1 | 壤土 | 石製品 梨形 | [14.0] | [14.0] | 2.2 | 無柄鉢 | 良好 | 黄褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 上白：梨形は骨付銀。 | 底部付。 |

I - 2

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|------|--------------|------|-----|-----|-----|----|---------------------|----------------------|-----------------|
| 1 | 壤土 | 单音器 高 高台付 | 10.2 | 4.7 | 2.9 | 白色粘 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底部削除あり後無調整。 | 1/2残存。 底部削除。 |

I - 3

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|------|-------|--------|-----|-----|-----|----|---------------------|----------------------|-------------|
| 1 | 壤土 | 单音器 砂 | [10.0] | 6.0 | 2.7 | 白色粘 | 良好 | 赤褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底部削除あり骨付あり。 | 2/3残存。骨付あり。 |

D - 13

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|-------|--------|--------|-----|-------|--------|----|---------------------|----------------------|--------------|
| 1 | No. 1 | 单音器 砂 | 9.6 | 5.7 | 2.7 | 白色粘 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底部削除あり後無調整。 | 1/2残存。内側骨付有。 |
| 2 | No. 3 | 单音器 刻文 | [23.0] | — | (7.5) | 白色粘、黒母 | 良好 | 粗色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。 | 磨化焼成。 |

D - 23

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|------|-------|----|--------|--------|-----|----|---------------------|---------------------|-----------------------|
| 1 | 壤土 | 灰陶器 砂 | — | [27.0] | [26.0] | 白色粘 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底部削除あり骨付有。 | 全体一底付1/4残存。 内側骨付有。 |

遺標外

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 断形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考 |
|----|------|-------|--------|----|-------|----|----|---------------------|--------------------|---------|
| 1 | 浜土 | 土師器 砂 | [12.4] | — | (4.0) | 黒母 | 良好 | 灰褐色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底下ハラキアズリ。 | 1/4残存。 |
| 2 | 浜土 | 土師器 砂 | [12.4] | — | (4.2) | 黒母 | 良好 | 粗色 粗粒粘土 表面施釉 | 外側：ロココナギ。底下ハラキアズリ。 | 1/4残存。 |

| No | 出土位置 | 種別 | 形態 | 口径 | 底径 | 高さ | 地土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | | | 現状状況・備考 |
|----|-----------------|----------|--------|--------|--------|--------|-----|----------------|---------------------|----------------|---------|------------|-------------------------|
| | | | | | | | | | | 外径 | 内径 | 厚さ | |
| 3 | 表土 土耕層 | 瓶 | (10.9) | — | (3.7) | 直筒 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。口部ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 4 | 表土 土耕層 | 瓶 | (10.0) | — | 3.5 | 小石、直筒 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。口部ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 5 | 表土 土耕層 | 瓶 | (10.0) | — | (3.4) | 白色船、小嘴 | 良好 | 明赤褐色 | 外削り口部ヨリナガ。口部ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 6 | 表土 土耕層 | 瓶 | (12.6) | — | (2.0) | 白色船 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 7 | 輝銀瓶 底 | 圓筒形 瓶 | (13.4) | 7.0 | 3.0 | 茶色船 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 施釉は1号式。 |
| 8 | 表土 土耕層 | 瓶 | (10.8) | 6.4 | 5.5 | 直筒 | 良好 | 土黄褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 9 | 表土 土耕層 | 瓶 | (12.1) | 6.2 | 2.9 | 直筒 | 良好 | 深褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 10 | 表土 土耕層 | 瓶 | (9.5) | (4.9) | 2.8 | 青白船 | 良好 | 深褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 11 | 表土 土耕層 高台 | 瓶 | (7.6) | (4.8) | 2.0 | 直筒 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 施釉は1号式。 |
| 12 | 表土 土耕層 | 瓶 | (8.0) | 5.2 | 3.2 | 白色船 | 良好 | 土黄褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 |
| 13 | 表土 土耕層 | 瓶 | (8.6) | 5.5 | 2.8 | 白・青白船 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 |
| 14 | 表土 土耕層 | 瓶 | (10.6) | 4.5 | 3.0 | 白色船、直筒 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 15 | 表土 土耕層 | 瓶 | (9.0) | 5.1 | 3.0 | 白色船、小石 | 良好 | 土黄褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 施釉は1号式。 |
| 16 | 表土 土耕層 | 瓶 | (9.8) | 4.8 | 2.7 | 直筒 | 良好 | 土黄褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 17 | 表土 土耕層 | 瓶 | (10.7) | (3.4) | 2.3 | 白色船、小石 | 良好 | 土黄褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 18 | 表土 土耕層 | 瓶 | (10.6) | 4.0 | 2.4 | 白色船、直筒 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 19 | 表土 土耕層 | 瓶 | (7.9) | (4.0) | 2.4 | 白色船 | 良好 | 明赤褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 20 | 表土 土耕層 | 瓶 | (8.7) | 6.4 | 3.1 | 直筒 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 |
| 21 | 表土 土耕層 | 瓶 | (6.6) | 5.8 | 1.9 | 白・青白船 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 22 | 表土 土耕層 | 瓶 | (8.9) | 5.3 | 2.0 | 白色船 | 良好 | 明赤褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 |
| 23 | 表土 土耕層 | 瓶 | (8.0) | 4.9 | 2.1 | 茶色船 | 良好 | 土黄褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 施釉は1号式。 |
| 24 | 表土 カワラ付 | 瓶 | (8.5) | (4.7) | 1.8 | 茶色船 | 良好 | 土黄褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 25 | 表土 カワラ付 | 瓶 | (8.6) | 5.3 | 1.9 | 白色船、直筒 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 |
| 26 | 表土 カワラ付 | 瓶 | (8.3) | 5.8 | 1.4 | 茶色船 | 良好 | 土黄褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 27 | 表土 土耕層 | 瓶 | — | 5.6 | (1.5) | 白色船 | 良好 | 土黄褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 施釉は1号式。 |
| 28 | 表土 土耕層 | 瓶 | (8.5) | 4.7 | — | (2.0) | 白色船 | 良好 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 29 | 表土 土耕層 | 瓶 | (10.3) | — | (6.0) | 白色船 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 30 | 表土 土耕層 | 瓶 | (8.5) | — | 2.3 | 白色船、直筒 | 良好 | 土黄褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 31 | 表土 土耕層 | 瓶 | — | — | (3.5) | 白色船、小石 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 |
| 32 | 表土 土耕層 | 瓶 | (32.2) | (30.2) | 5.3 | 白色船 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 33 | 表土 火鉢 | 瓶 | (36.8) | (33.5) | 5.5 | 白・青白船 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。内・外・底面施釉。 施釉は1号式。 |
| 34 | 表土 火鉢 | 瓶 | — | (21.5) | (22.6) | 直筒 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| 35 | 表土 火鉢 | 瓶 | (40.3) | (30.5) | 1.5 | 白・青白船 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 1.4 | 現存。 |
| No | 出土位置 | 種別 | 形態 | 厚さ | 材質 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | | | 現状状況・備考 | | |
| | | | | | | | | 外径 | 内径 | 厚さ | 備考 | | |
| 36 | 表土 平底 | 盤 | (7.6) | (4.5) | 1.2 | 白色船 | 良好 | 褐色 | 外削り口部ヨリナガ。底部斜面ハカリテ。 | — | — | 現存。 | |
| No | 出土位置 | 種別 | 形態 | 厚さ | 石質 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | | | 現状状況・備考 | | |
| | | | | | | | | 重量 | 重量 | 重量 | 備考 | | |
| 37 | 表土 石製品 底 | 盤 | (45.1) | (31.1) | (0.9) | 粘土岩 | — | 褐色 | — | (34.0g) | — | 現存。 | |
| No | 出土位置 | 種別 | 形態 | 厚さ | 石質 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | | | 現状状況・備考 | | |
| | | | | | | | | 重量 | 重量 | 重量 | 備考 | | |
| 38 | 表土 石製品 | 盤 | (9.1) | 3.3 | 2.4 | 耀石質 | — | 灰褐色 | — | (130.2g) | — | 現存。底面。 | |
| No | 出土位置 | 種別 | 形態 | 厚さ | 石質 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | | | 現状状況・備考 | | |
| | | | | | | | | 重量 | 重量 | 重量 | 備考 | | |
| 39 | 表土 柱 | 柱 | (18.1) | (18.5) | (2.4) | 白色船、小嘴 | 良好 | 褐色 | 内・外削り口部ヨリナガ。 | — | — | 現存。底面。 | |
| No | 出土位置 | 種別 | 形態 | 厚さ | 石質 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | | | 現状状況・備考 | | |
| | | | | | | | | 重量 | 重量 | 重量 | 備考 | | |
| 40 | 表土 石製品 | 柱 | (4.6) | 4.1 | 1.6 | 板岩安山岩 | — | — | — | (31.2g) | — | 上部(基部)。片側。 | |
| 41 | 輝銀瓶 底 | 弧形 瓶 | 明 | 140.1 | — | — | — | — | — | — | — | 安存。 | |
| 42 | 輝銀瓶 水滴型 | 弧形 瓶 | 明 | 141.1 | — | — | — | 240 | 7.0 | 1.5 | 2.5g | 安存。 | |

VI 発掘調査の成果と課題

今回の調査地点は、戦国時代には、蒼海城の中中枢部である本丸東側の曲輪群にあたり、また、奈良・平安時代には、上野国府等範囲内容確認調査において、官鍋神社南側の平坦地に設定された「国府推定地C案」の範囲内にあたる。それぞれの時代における上野国の政治的中枢を担った土地であり、おのづと歴史的な課題も多く、すでに様々な検討・研究も現在進行形で行われていることから、本章では、今回の調査地点と周辺調査地点の調査成果をクロスチェックしつつ、元社社蒼海遺跡群における本調査地点の位置付けを考えてみたい。

蒼海城との関連 (Fig.33) W - 1号溝跡は、出土遺物から推定できる埋没時期、規模と形状、総社長尾氏在城時の旧状を描いたとされる総社資料館所蔵の『蒼海城絵図』や、山崎 1978 の蒼海城縄張図に記された堀跡との位置関係から、蒼海城本丸の東側に構築された曲輪群の一部をなすものといえる。

西端は蒼海 (45) W - 1号溝跡へ接続する。ちょうど本調査区との境目で南へ丁字状に分岐しており、その南側に二つの曲輪を構築しているようである。東端は北へL字状に屈曲し、別の曲輪を構築する。この南北堀跡に対応する堀跡は、国府9トレントW - 1号溝跡と考えることができ、先述の蒼海 (45) W - 1号溝跡から北へ丁字状に分岐し、「蒼海城絵図」に描かれた「瀬下豈後屋敷」の曲輪と、本調査地点の北西側に構築された曲輪を分断している。また、本調査地点は、「蒼海城絵図」に描かれた「譲岐出雲屋敷」の曲輪内に位置する。「譲岐出雲屋敷」の曲輪は、絵図によれば「瀬下豈後屋敷」の曲輪の東側と南側をL字状に囲むように描かれてい

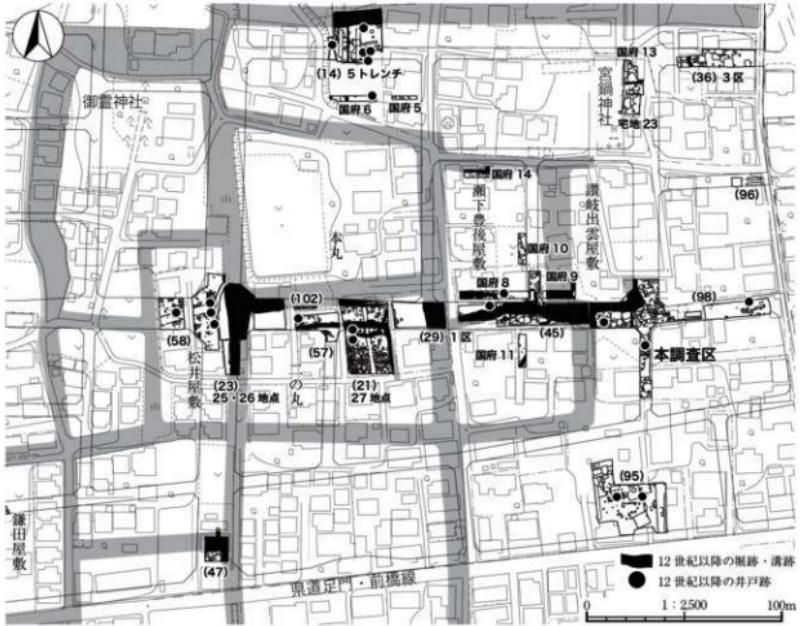


Fig.33 蒼海 (65)周辺の蒼海城に関わる堀跡 (市教委 2010b・2013a を加筆修正)

るが、W - 1 号溝跡はこの曲輪内をさらに東西に分断する。それぞれの堀跡の厳密な共時性は不明だが、蒼海城中枢部における、複雑な防御構造の一端を知ることができる。また、山崎 1978 の縄張図では、W - 1 号溝跡の西端部が観察されており、その名残りは近年まで地形として残存していたようである。

本調査地点ではほかに、遺構の重複関係から、少なくとも 12 世紀以降と推測できる井戸を数基確認した。周辺でも該期の井戸が複数確認されているが、基盤層となる総社砂層は浸透層であり、湧水を得るには深井戸とする必要がある。蒼海 (58) I - 1 号井戸では、重機による断ち割りで井戸底が確認されており、それによれば井戸底は、硬い総社砂層とその下層の泥炭層を掘り抜き、As-YP の下層まで達し、確認面からの深さは 3.32 m にも達する。井戸底は枯れていた。掘削には相応の投資が想像できるが、蒼海城の各曲輪内には、このような井戸跡が点在し、特に本丸の北側に接続する曲輪と、南西に接続する「松井屋敷」の曲輪内では分布密度が高いようである。これらの井戸跡は、一義的には城内の生活を潤すものだろうが、近接する牛池川や染谷川からの取水も容易であることを鑑みると、籠城戦に備えた軍事的な意味も想定しておく必要があるだろう。

「国府推定地 C 案」との関連 (Fig.34) 本調査地点の基本層序 I・II 層は、平安時代末から戦国時代頃のかわらけを多数包含し、現況の基本層序にはほとんど存在しない。Hr-FA や As-C を含むことから、調査時の所見では、蒼海城に伴う空堀の掘削排水を利用した造成客土層と認識されている。その直下は、Hr-FA や As-C の混土層を挟まず、直接に安定した総社砂層の上面となることから、周辺の地形は、蒼海城が機能した段階において、総社砂層の上面まで、削平と造成客土による、かなり大規模な地形変更を受けたものと考えられる。周辺調査地点の基本層序を点検してみると、北は蒼海 (14) 5 トレンチと国府 5・6 トレンチの境界で、東は本調査地点の東トレンチと蒼海 (98) の境界で、基本層序の変化を読み取ることができ、以北・以東では、Hr-FA や As-C 混土層の堆積が確認できる。地形変更以前の旧状は、蒼海城本丸の所在する西側から、牛池川の川裾へ落ちる東側に向かって、緩やかな傾斜地となっていたようである。この地形変更の範囲を、山崎 1978 の縄張図とオーバーラップさせてみると、蒼海城本丸を北西の頂点とし、「二の丸」「瀬下農後屋敷」「讚岐出雲屋敷」など、南東へ扇状に達する曲輪群の構築との関連性を推測することができ、これら曲輪内の平場を確保するための造成が、「国府推定地 C 案」周辺の現況地形と、該期に帰属する遺構の残存状況に大きな影響を及ぼしているものと考ええることができる。

本調査地点は「国府推定地 C 案」の中にありながら、その性格を直接的に示すような遺構や遺物を確認することはできなかった。近年調査された蒼海 (99) や国府 28 トレンチでは、掘込地業をもつ建物跡が数軒確認されており、また、推定地北側の元総社宅地遺跡 23 トレンチや、南側の蒼海 (95) で確認された掘立柱建物跡群の存在も鑑みると、本調査地点にも本来、そのような遺構が存在してもおかしくはないが、先述した地形変更の影響によって、そうした掘削深度の浅い遺構群は、消失している可能性がある。

構造的に深い掘り込みを構築する堅穴住居跡は、この地形変更の影響をかろうじて免れたようであり、ある程度の数量的な検討に堪え得る。そこで Fig.34 には、「国府推定地 C 案」の範囲内で確認された堅穴住居跡の時期別分布を示した。本調査地点では 6 世紀中葉～7 世紀前半に営まれた住居跡が多く、次いで 10 世紀後半～11 世紀前半の住居跡が多い。一方で、8～9 世紀の分布が空白となることは留意しておく必要があるだろう。周辺調査地点でも様相はほぼ同様だが、元総社宅地遺跡 23 トレンチ・国府 13 トレンチ・蒼海 (36) 3 区では、10 世紀以降に住居跡が極端な増加傾向を示している。また、蒼海 (98) では 7 世紀後半の住居跡が確認されており、国府 10 トレンチでは、8 世紀の住居跡 2 軒が確認されている。特に国府 10 トレンチ H - 2 号住居跡は、床面直上から、底部外面に回転ヘラケゼリによる最終調整を施した須恵器無台杯が出土し、8 世紀前半に帰属時期を求めることができることから、この住居跡の性格に帰する問題なのか、推定地自体の性格に帰する問題なのかは、一考を要するだろう。9 世紀の空白は各調査地点一律であり、本調査地点では遺構外のものも含めて、該

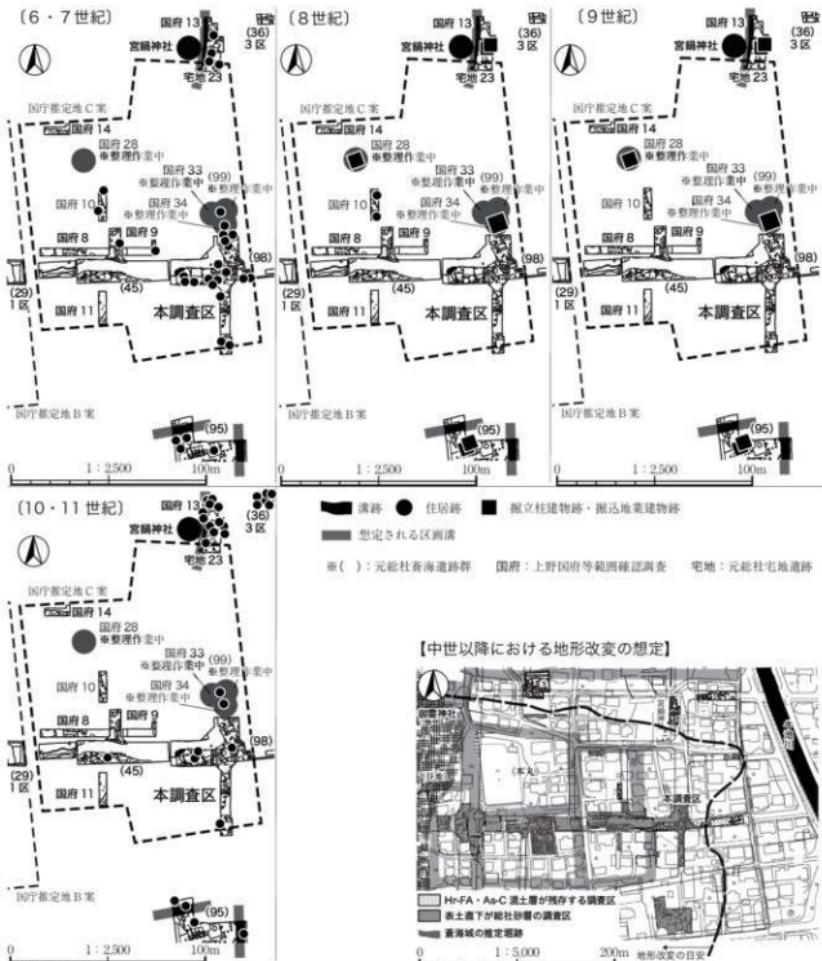


Fig.34 蒼海（65）周辺における古墳～平安時代の主要な遺構分布

期に帰属する遺物は極めて少なかった。遺構外から灰釉陶器の皿が出土しているが10世紀後半の資料である。周辺調査地点では、蒼海（36）で緑釉陶器皿、元総社宅地遺跡23トレンチと蒼海（45）で獸脚付土器、蒼海（29）で腰帶具巡方、蒼海（95）で転用鏡が出土しているが、推定地の性格を示す遺物としては僅少である。

本調査地点と周辺調査地点における住居跡の時期別分布状況は、現状では特徴的な空白期を示している。この空白期が、「国府推定地C案」のもつ意義を、ネガティブ・プリントとして暗に示しているものなのか否か、今後の元総社蒼海遺跡群発掘調査や、上野国府等範囲内容確認調査の成果に期待したい。



H-1～4 全景（西から）



H-2・W-10全景（西から）



H-3 全景（西から）



H-4 全景（南西から）



H-4 カマド全景（南西から）



H-5 全景（南西から）



H-6 全景（南から）



H-6 カマド全景（南から）



H-6 遺物出土状況（南から）



H-7 全景（西から）



H-7 カマド全景（西から）



H-7-1 遺物出土状況（北から）



H-8 全景（南から）



H-8 カマド全景（南から）



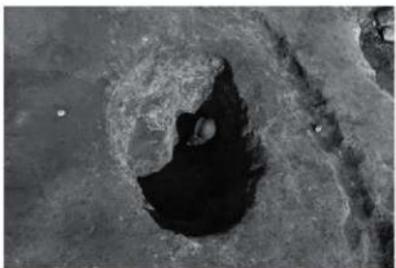
H-9 全景（北東から）



H-11 全景（西から）



H-11カマド全景（西から）



H-11貯藏穴全景（西から）



H-12全景（西から）



H-12カマド全景（西から）



H-13全景（南から）



H-15全景（西から）



H-15カマド全景（西から）



H-16全景（東から）



H-16カマド全景（東から）



H-16貯蔵穴全景（東から）



H-16-2遺物出土状況（北から）



H-17全景（東から）



H-18全景（南西から）



H-18カマド全景（南西から）



H-19全景（南西から）



H-20全景（西から）



H-20カマド全景（西から）



H-23遺物出土状況（北西から）



H-24全景（南から）



H-24カマド遺物出土状況（南から）



H-25全景（南西から）



H-25カマド全景（南西から）



H-26全景（東から）



W-3全景（西から）



W-5 全景（西から）



I-1 SPA 土層断面（西から）



I-1 全景（西から）



I-2 SPA 土層断面（西から）



I-3 SPA 土層断面（西から）



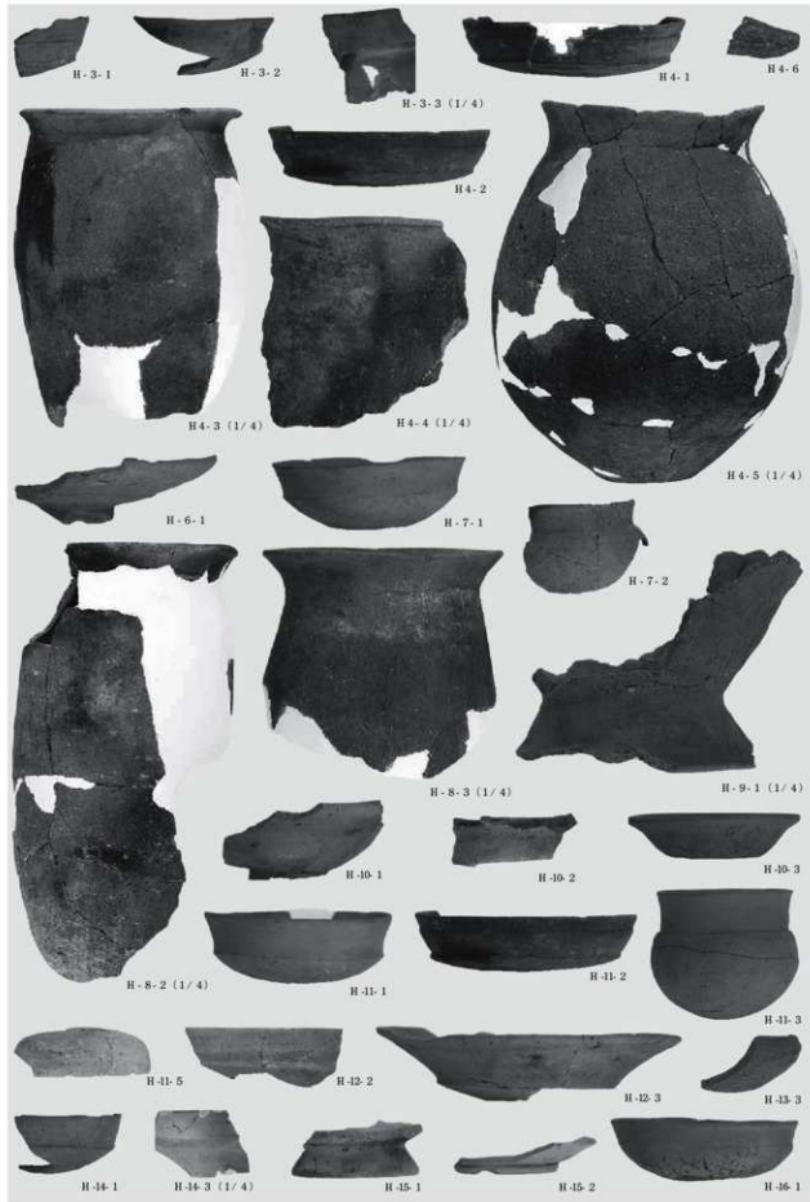
I-3 全景（西から）

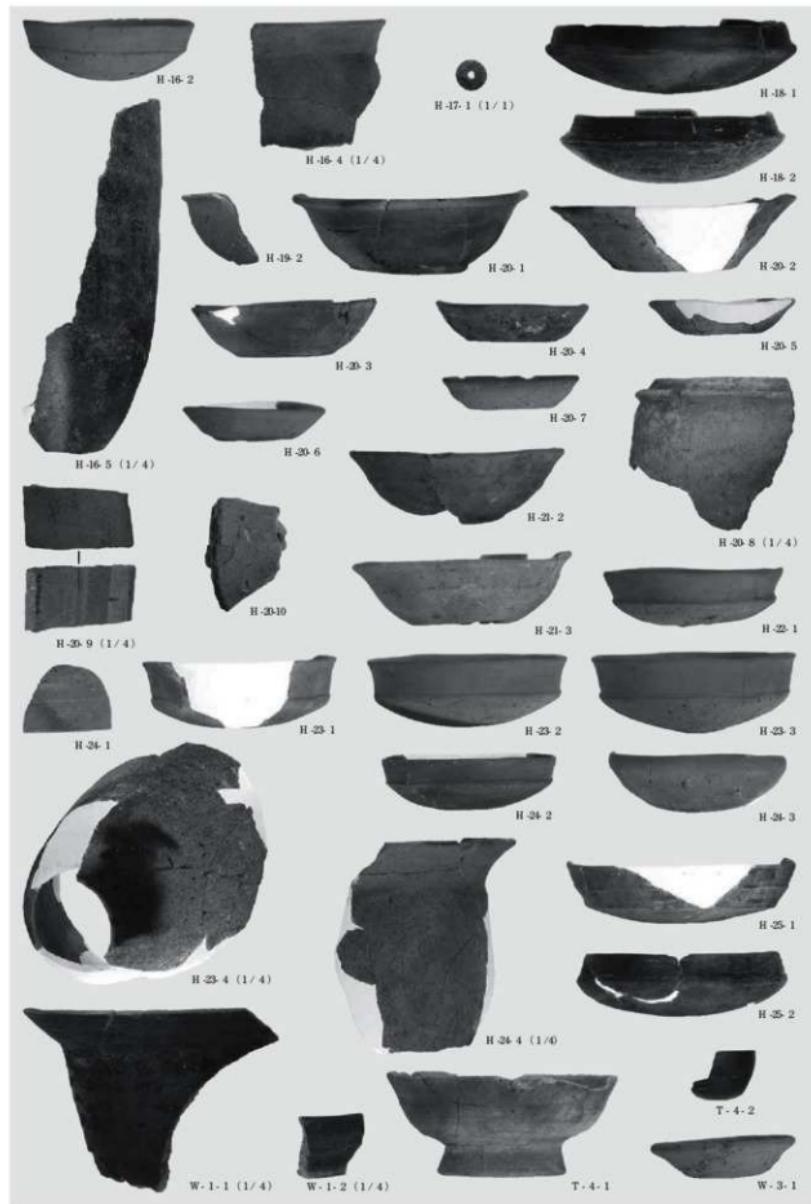


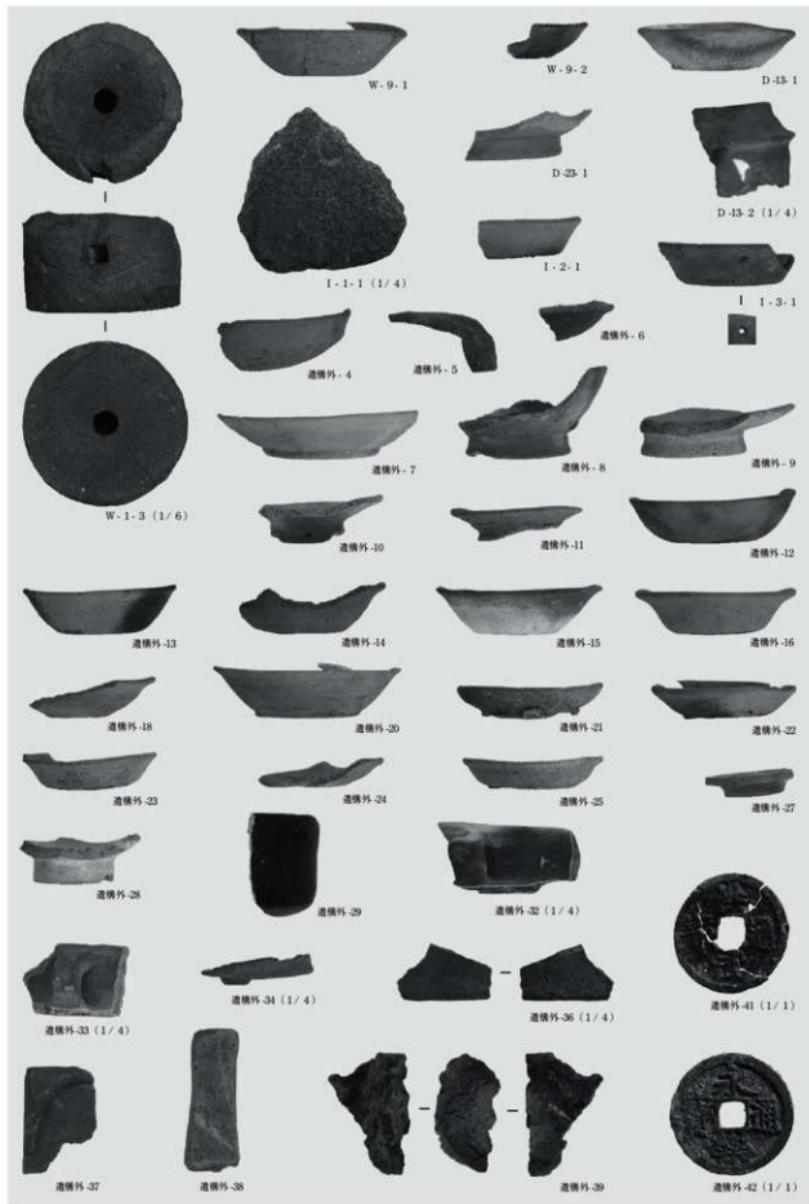
D-13 遺物出土状況（南から）



作業風景







報告書抄録

| | |
|---------|-------------------------------------|
| カタカナ | モトソウジヤオウミイセキダン (65) |
| 書名 | 元総社蒼海遺跡群 (65) |
| 副書名 | 前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 卷次 | - |
| シリーズ名 | - |
| シリーズ番号 | - |
| 編著者名 | 藤坂和延・中村信彦 |
| 編集機関 | 技研コンサル株式会社 |
| 編集機関所在地 | 〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1-15-3 |
| 発行機関 | 前橋市教育委員会 |
| 発行機関所在地 | 〒371-0853 群馬県前橋市総社町3-11-4 |
| 発行年月日 | 2016年3月23日 |

| フリガナ | フリガナ | コード | | 位置 | | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---------------|-----------------------|--------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|---------------------------|-------------------|------------------------------|
| | | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | | | |
| 元総社蒼海遺跡群 (65) | 前橋市元総社町 2103-2(ほか) | 102021 | 25A164 | 36°23'11" | 139°2'21" | 20140122 ~ 20140326 | 910m ² | 前橋都市計画事業 元総社蒼海地区 画整理事業 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 元総社蒼海遺跡群 (65) | 集落 城館跡 | 古墳時代 平安時代 中世 | 住居跡 溝 堀跡 井戸 土坑 ピット | 26軒 8条 1条 5基 54基 25基 | 須恵器・土師器 かわらけ 鉄製品 石製品 | 古墳時代後期を中心とした 集落跡 | 国庁推定地C案の範囲内 | 蒼海城の堀跡 |

元総社蒼海遺跡群 (65)

前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016年3月18日 印刷

2016年3月23日 発行

発行

前橋市教育委員会文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町3-11-4

TEL 027-289-6511

編集
印刷

技研コンサル株式会社

朝日印刷工業株式会社

